

核燃料技術開発部小集団活動
平成5年度報告書

1994年3月

動力炉・核燃料開発事業団
東海事業所

複製又はこの資料の入手については、下記にお問い合わせ下さい。

〒319-11 茨城県那珂郡東海村大字村松4-33

動力炉・核燃料開発事業団

東海事業所 技術開発推進部・技術管理室

Enquires about copyright and reproduction should be addressed to: Technology Management Section, Tokai Works, Power Reactor and Nuclear Fuel Development Corporation, 4-33 O-aza-Muramatsu, Tokai-mura, Naka, Ibaraki-ken, 319-11, Japan

動力炉・核燃料開発事業団 (Power Reactor and Nuclear Fuel Development Corporation)

核燃料技術開発部小集団活動 平成5年度報告書

船坂英之²⁾、亀田昭二⁴⁾
高橋邦明¹⁾、中村詔司²⁾、青柳義孝³⁾
佐々木紀樹⁴⁾、庄司修一⁵⁾、沖本龍壮⁴⁾
早乙女晴郎¹⁾、角川章二³⁾、宮本 寛¹⁾
井坂和彦¹⁾、渡部政治⁴⁾、加藤良幸⁵⁾
小野瀬芳彦³⁾、明珍宗孝²⁾

要 旨

NSKの平成5年度の活動について概要及び総括、各種行事関係資料、推進部会議事録等を取りまとめた。

1) プルトニウム燃料開発室 2) 先端技術開発室 3) 遠心法設計開発室
4) 新型濃縮技術開発室 5) 転換技術開発室

序 文

一年間のNSK活動を振り返って

— 楽しく、活動したくてたまらない小集団をめざして —

小集団活動の良さは、情報や意識の共有化というプロセスを通じて、より多くのものが見かた、感じかたの中からより良い解決方法を見つけていくことにあります。個人の活動と比較した時に最も違うのがこの点だと思います。しかし核開部のようなR&D職場においては、いざ活動をやろうとするとテーマ選定などにおいてもいろいろむずかしい点がでてきて、一昨年実施された意見交換会などにおいても大いに議論になったことを覚えています。

さて今期は、昨年度TSKにおいて決定された改善施策の実施初年度にあたり、NSKにおいてもこの改善施策に基づいて楽しい活動を展開するために、推進部会でもいろいろ議論をし、迷いながら手さぐりで進めた一年であったように思います。

改善施策の効果については、はっきりと眼に見えるといった段階ではありませんが、NSK発表会でのテーマ内容を取りあげてみても、徐々に現れてきているように思われます。

また去る3月には、TSKにおいてアンケートが実施され、現在それに基づいて改善施策後の活動状況についての検討がすすめられていると聞いております。いずれこの検討結果は、現在の活動に反映されるものと思っております。

より良いNSK小集団活動を目指して、推進部員一丸となって活動できたのではないかと思います。

やり残したことは多くありますが、何とかここに1年を終えることができましたのも一重に皆様の御協力の賜物でございます。ありがとうございました。

NSK推進部会長 船坂英之

目 次

	ページ
1. 平成5年度活動の概要	1
2. 各班の活動総括	2
2.1 推進班	2
2.2 教育班	2
2.3 広報班	3
2.4 安全分科会	3
3. 各室の活動総括	5
3.1 プルトニウム燃料開発室	5
3.2 先端技術開発室	5
3.3 遠心法設計開発室	6
3.4 新型濃縮技術開発室	7
3.4 転換技術開発室	7
4. アンケート結果の検討等	10

添付資料

- (1) NSK平成5年度推進計画
- (2) 各室平成5年度推進計画
- (3) 各室サークル編成及びテーマ
- (4) NSKニュース
- (5) NSK新人教育関係資料
- (6) NSK部内意見交換会関係資料
- (7) NSK発表会関係資料
- (8) TSKへの活動報告
- (9) NSK推進部会議事録
- (10) NSK部内意見交換会アンケート総括
- (11) NSK活動改善案
- (12) NSKサークル活動月報及びQC活動計画・報告書様式
- (13) その他

1. 平成5年度活動の概要

NSK推進部会ではTSK改善施策を受けて、平成5年度の活動方針として添付資料(1)に示すような推進計画を策定し、活動を行った。策定にあたって第一に留意したのは「核開部に相応しい小集団活動の展開」であり、また、支援活動の強化についても盛り込んだ内容とした。

さらに本推進計画に基づき、推進部会各班の活動計画（添付資料(1)）及び各室の活動計画（添付資料(2)）が策定され、それらに従い着実な活動が行われた。

平成5年度の主な活動、行事は添付資料(8)中のスケジュール表にまとめたとおりである。

推進部会各班及び各室の活動内容については次章以下に詳述する。

2. 各班の活動総括

2.1 推進班

推進班は、まずT S K改善施策に基づきQ C活動計画・報告書及びサークル活動月報のフォーマットの見直し、改訂を行い、各室毎にQ C活動計画・報告書及びサークル活動月報の取りまとめを行うとともに、各サークルの進捗状況のフォローを実施した。さらに、今年度より各室にリーダー会を設け、そのフォローを行った。

また、推進班ではN S K発表会をT S K大会に合わせて6月23日（第8回）と12月15日（第9回）の2回企画・開催した。発表会においては、SPRINGサークル（第8回）、秘蔵ッ子サークル（第9回）がそれぞれ最優秀賞、大会賞（T S K代表）を受賞し、T S K大会での核開部代表となった。今年度は都合により会場を展示館講堂に移して実施し、121名（第8回）及び104名（第9回）の参加者を得、成功裏に発表会を催すことができた。運営面では、第8回は従来通りの方式で実施したが、第9回はT S K改善施策を受ける形で表彰は、大会賞、奨励賞、特別賞とし、また、審査時には従来の教育ビデオに代えて「動燃'93」のビデオ上映を行い好評を得た。

但し、T S K改善施策では年間1テーマの活動でもよいとされているにもかかわらず、N S K発表会が年2回では活動上支障があるとの意見が多く出され、平成6年度のN S K発表会は年1回とし、審査員の構成についても変更する方向で検討を進めている。N S K発表会の会場に関しては、展示館講堂の場合、利用可否の確認が直前まで得られないこと、また、広過ぎる、O H Pが使いづらい等の問題点が指摘されたことから、次回は地層処分基盤研究施設4階大会議室の使用を考慮すべきであると考えます。

2.2 教育班

平成5年度の主な活動として、

- ①新人教育
- ②外部講習会への参加推進と参加報告会
- ③グループ間交流のための意見交換会

を実施した。

新人教育は新たに小集団活動を実施していく上での土壌づくりとしてある程度の目的を達したと考えられる。今後とも実施するべきであろう。

外部講習会への参加は計画通り15名全員が参加できた。また、参加報告会はNSK推進部会時と意見交換会時に抱き合わせて実施したが、別途実施すべきとの意見もあり、今後考慮する必要がある。

意見交換会はサークルリーダー、支援者を主体に実施した。参加者全員の意見をお互いにきくことができたことは成果と考えてよかろう。但し議事録（参加者アンケートを含む）のとりまとめにあたっては、意見の幅が広く、集約は困難な状況であった。来年度はさらにテーマを絞り込んで実施する必要がある。また、管理者を含めた意見交換会を実施することも考慮していく必要がある。

2.3 広報班

広報班はNSKの平成5年度の基本方針である「核開部にふさわし小集団活動の実践」に向けての積極的な取り組みと活動の定着化を目指して、サークル員全員の参加意識と活動意欲の高揚を図るための活動としてNSKニュースの企画・編集・発行を行った。平成5年度においては以下の5号を発行した。

① 第1号『第8回NSK発表会開催される！』

平成5年7月1日発行

② 第2号『核開部における平成5年度の小集団活動について』

平成5年7月12日発行

③ 第3号『第9回NSK発表会開催迫る』

平成5年11月15日発行

④ 第4号『NSK部内意見交換会開催される！』

平成5年11月15日発行

⑤ 第5号『第9回NSK発表会開催される！』

平成5年12月16日発行

2.4 安全分科会

TSK安全分科会の会合は5月、7月及び9月に各1回ずつ開催され、活動の

分担等が行われた。NSKの代表としてTSK活性化調査委員会委員に選任され、10月以降2週間に1度程度の頻度で開催された同委員会においてアンケートの立案・検討、結果のまとめ等の作業を行った。

NSK新人教育（平成5年6月2日実施）及びTSK平成5年度新人対象KYT研修会においてはそれぞれKY手法等に係わる教育を担当し、実施した。

また、TSK安全分科会の活動として実施された以下の活動へ参加した。

- ① 優良事業所視察〔宇宙開発事業団：つくば市〕（平成5年6月22日）
- ② 全社安全大会への参加（平成5年7月2日）
- ③ 全国産業安全衛生大会への参加（平成5年10月20日）

3. 各室の活動総括

3.1 プルトニウム燃料開発室

平成5年度のプル開室のNSK活動は、6サークルによって10テーマの活動が行われ、完結テーマ数は4テーマであった。平成5年度よりTSK改善施策により、勉強会的テーマの選択も可能となったが、プル開室では現場（グローブボックス）を持っていることから全サークルとも従来型の改善型テーマを選定して活動が行われ、その中でも特徴として「被ばく低減」等の安全に関連したテーマに取り組んできたことが挙げられる。一方、活動を支援するために室長、室代、支援者、サークルリーダー、NSK推進委員から成る「プル開室小集団活動推進会議」を設け、毎月室会のあとに開催し、活動状況報告、活動に対する助言を行った。

また、プル開室小集団活動発表会を6月14日、11月29日の2回開催し、それぞれにおいて突起物への衝突防止等対策検討WG、宝室サークルが最優秀賞を獲得し、さらにNSK発表会においてプル開室代表として発表を行い、それぞれ特別賞、大会賞を受賞した。

なお、平成5年度のプル開室のサークル編成及びテーマは添付資料(3)のとおりである。

3.2 先端技術開発室

平成5年度においてはプルトニウム燃料開発室庶務グループのサークルを含め計4サークル（5サークル）にて活動を行った。

当室では先端技術研究の業務テーマを各1～2名の担当者により実施している。このため各サークルの活動を行うにあたり、各メンバーの業務を直接サポートするような共通的なテーマの選定が困難であるという当初からの悩みを抱えている。そこで、個々人のレベルアップが図れようなテーマの選定、必ずしもQC手法にとらわれない自由な活動をこれまでも目指してきた。今年度施行されたTSK改革により勉強会形式の活動も認められることとなり、当室の活動はやりやすくなったと言える。今年度当初より既に1サークルが勉強会形式の活動に取り組んでいるところである。

T S K改革に伴い今年度より設置が義務付けられたリーダー会については、毎月末に室長以下全員参加により開催し、各サークルの進捗状況報告とお互いの悩み、問題点を議論する場とした。また、今年度は、いくつかのテーマの中から興味をもった室員がそのテーマのもとに参集し活動を行う方式を一部採用し、一定期間計5サークルでの活動となった。

今後ともR & D部門にふさわしい小集団活動のあり方を探りつつ活動を進めていきたい。

なお、平成5年度のサークル編成及びテーマは添付資料(3)のとおりである。

3.3 遠心法設計開発室

平成5年度の当室の小集団活動は室員の増加に伴い、昨年度の6サークルから2サークル増やし、計8サークルで活動を行った。

当室では今年度当初に示されたN S Kの活動方針に則り、昨年より数多くの議論検討を重ねた上で、幾つかの新たな試みを実行した。

具体的には、活動テーマに規制を設けず、勉強会的テーマも選択可とし、また、サークル間のメンバーの交流も可能とすることにより、自由な発想の下で楽しい活動を推奨した。さらにT S Kの指導により、定期的（月1回）にリーダー会を行い、各サークルリーダーの他、支援者、管理者の参加によりサークル支援の強化並びにサークル間の情報交換の場とした。

今年度はこの様な新たな試みによって、バラエティに富んだ活動が行われた。結果的には各サークルとも年間1テーマを完結するに留まったが、各人の能力向上に寄与するような成果が得られてきている。

反省点としては、今年度の新しい活動の方針が従来に比べ一部方針の転換を意味するものであったため、そのことが各サークルリーダー並びにメンバーに戸惑いを生じさせ、サークル活動に様々な影響を及ぼしたことが挙げられる。

よって今後は、新たな活動方針の浸透をさらに図っていくことにより庶務、設計運転試験、要素試験等々、様々な業務の下、それらを乗り越えた自由な発想で有意義な小集団活動を進めていきたい。

なお、平成5年度のサークル編成及びテーマは添付資料(3)のとおりである。

3.4 新型濃縮技術開発室

平成5年度は、5サークルを編成し活動を行った。サークルは業務グループ内編成が3サークル、室内横断編成が2サークルである。各サークルの構成員数は4～9名である。全てのサークルが1年完結予定のテーマを選んだため、途中でのサークル替えは行っていない。

今年度は、室にとって必要性・緊急性の高いテーマを選定した後、テーマごとに適当な人員を配する方法を採用した。このため、業務改善的テーマについては業務グループ内でサークルを編成し、見学者説明用パネルの見直しなどの室共通のテーマについては各業務グループから横断的に数名ずつを選出し、混成サークルを編成した。また、今年度から勉強会形式のテーマも可能となったため、1サークルが2テーマ（勉強会を含む）を行った。

各サークルの活動状況は、業務グループ内編成サークルがほぼ計画書通りに進化したのに対し、混成サークルはサークル員全員の集まる時間がなかなか確保できないために活動が停滞してしまうという問題に悩んでいた。この問題に対する解決策として、毎月第一金曜日を「一斉小集団の日」と定め、16時から退勤の時間まで室全体で小集団活動を行うこととした。この対策によって定期的な活動が習慣づけられ、活動の活性化が図られた。

5年度はTSK改革1年目であり、年度当初は改革結果をどのように反映すればよいのだろうという戸惑いがあった。しかし、TSK大会等で他の部門の活動を見聞することや各サークルが試行錯誤を繰り返すことによって、改革に対する理解が深まったと思う。来年度も全員参加の小集団活動を通して、室全体の活性化を図っていく所存である。

なお、平成5年度のサークル編成及びテーマは添付資料(3)のとおりである。

3.5 転換技術開発室

基本方針

平成5年度のTSK及びNSK方針の大幅な見直しを受けて、転換室としても活動の具体的な方策として、

- ①業務に密着した安全活動を推進し、各職場に応じた幅広いテーマの選択

- ②職場内における活動しやすいサークル編成の実施
- ③室内QC検討会の一層の充実
- ④発表のみを意識したスケジュール優先の活動を排し、自主的な活動の展開を図る

を基本とし、活動計画の立案、遂行を図るために以下の活動内容に示す様な施策等を実施した。

活動内容

平成5年度の活動は以下のとおりである。

- ①全サークルは年2件のテーマ完結を目標として、室内発表会は年2回開催した。
- ②年度当初にサークル編成の一部見直しを行い、さらに1回目の室内発表会后にサークル編成の一部見直しを行った。
- ③業務の繁忙さからくるサークル員全員での活動不能状態を少しでも解消するために、定期的に室内統一の小集団活動時間を設定した。

(活動日：毎月第2、第4金曜日 16:00～17:00)

- ④室内QCリーダー会議をこれまでどおり定例で実施し、さらに充実を図る方策を検討・実施した。

出席者：室長、部内推進委員、当月担当サークル支援者、リーダー
開催日：原則として毎月最終金曜日 11:00～12:00

室内統一QC活動日について

毎月第2、第4金曜日16:00～17:00に転換室の定期小集団活動時間を設定したことはおおむね良好な活動につながったものとする。(転換室の実績等により、来年度よりNSKでも部としての定期活動日を設定する方向で検討を進めている。)

QCリーダー会議の内容について

QCリーダー会議では、室内5サークルのうち順番制で毎月1サークルを選び当該サークルの活動をテーマにして集中的に検討し、他の4サークルについては5分程度の活動報告を行うこととした。これは、管理者・支援者及び各グループリーダー5人+NSK推進委員2人の出席により1時間もの時間をかけて会議を

行っているのであるから、実になる時間、各サークル活動により多くのモノを反映できる時間としたいということである。おおむねこの目標を達成できたものと考ええる。

室内発表会について

今年度は各サークルとも年間2テーマ完結を目指して活動を進め、室内発表会を2回実施した。平成6年度はNSK発表会を1回/年(5~6月頃)とする方向で検討を行っている。しかしながら転換室の室内発表会については実施時期の変更は必要だが平成5年度下期総括の意味で行う5月の発表会と、平成6年度上期総括の意味で10~11月に開催する発表会は変更せずに実施し、NSK発表会への参加テーマの幅を持てるようにしておきたい。また、未解決テーマの室内発表会での取扱いであるが、報告の義務化については発表時間の増大や各サークルへの負担が一時期に集中してしまう等の問題があることから、その報告時期はテーマ完結後の直近の室会時に報告を行う方がよいのではないかと考える。これでも負担の度合いは変化しないが、一時期に集中することだけは避けられる。負担の度合いの低減については全サークルが所定の期間内にテーマを完結する活動に務め、支援者はそのための支援を積極的に行っていくようお願いしたい。

支援者とのコミュニケーションの推進について

なかなかむずかしい問題であり、今年度も具体的で効果的な施策を実施するには至らなかった。本項目については最終的には支援者・サークル員相互の強力・理解にあることからこの場を借りて再度意識を高めるように努めていただくことをお願いしたい。

なお、平成5年度の転換室のサークル編成及びテーマは添付資料(3)のとおりである。

4. アンケート結果の検討等

NSK部内意見交換会（平成5年10月20日実施）において実施したアンケートで得た意見についてフォローするために、部会長、副部会長、事務局及び各室推進委員1名の構成によりワーキンググループを設け、検討を行った。その結果、各意見に対するフォローとして添付資料(10)に示すような処置案を得、これを次期推進部会へ引き継ぐこととした。

また、NSK活動のより一層の活性化を図るために、統一活動日の設定、褒賞の見直し、外部QC発表会への積極的参加等を盛り込んだ添付資料(12)に示すような改善案を作成し、次期推進部会へ引き継ぐこととした。

(1)NSK平成5年度推進計画

核燃料技術開発部小集団活動推進計画

1. 東海事業所小集団活動（TSK）の基本方針及び活動方針

1) 基本方針

東海事業所小集団活動の基本方針は、以下のとおりである。

東海事業所の従業員全員の能力向上、業務の質的向上及び職場の安全確保を図るため、

- a. 職場の活性化とやる気のある職場風土の醸成
- b. 従業員一人ひとりの能力向上、成長
- c. より安全な職場環境の維持

を基本方針とする小集団による諸活動を、業務の一環として組織的に展開することとする。

2) 平成5年度活動方針

東海事業所小集団活動の平成5年度活動方針は以下のとおりである。

- (1) 小集団活動の原点に立った基本事項の理解・把握・徹底
- (2) 活動上、活性化に悪影響を及ぼす諸要因の解消
- (3) 管理・監督者による支援・指導の強化策の実践
- (4) さらなる安全な職場風土の構築・醸成

2. 核燃料技術開発部の小集団活動（NSK）の推進計画

平成5年度の核燃料技術開発部の小集団活動については、上記基本方針及び活動方針を踏まえ、「核開部に相応しい小集団活動の展開」を図ることとし、以下の活動目標を定める。

- (1) 各職場の実態に即したサークル活動の展開
- (2) 支援活動の推進
- (3) 安全活動の推進

具体的内容として、

- (1) 各職場の実態に即したサークル活動の展開
 - a. 各職場に応じた幅広いテーマの選択とチーム編成
 - b. 学習会的テーマへの取り組み
 - c. サークルの主体的な活動の展開

(2) 支援活動の推進

- a. 各室リーダー会における管理者・支援者による積極的支援
- b. 管理者・支援者の教育・研修への積極的取り組み
- c. 交流の促進

(3) 安全活動の推進

- a. 安全テーマへの積極的取り組み
- b. KYの積極的活用
- c. 日常の安全活動の推進

を掲げて、小集団活動の展開を図る。

3.実施体制

別添1のとおり

4.実施計画

別添2のとおり

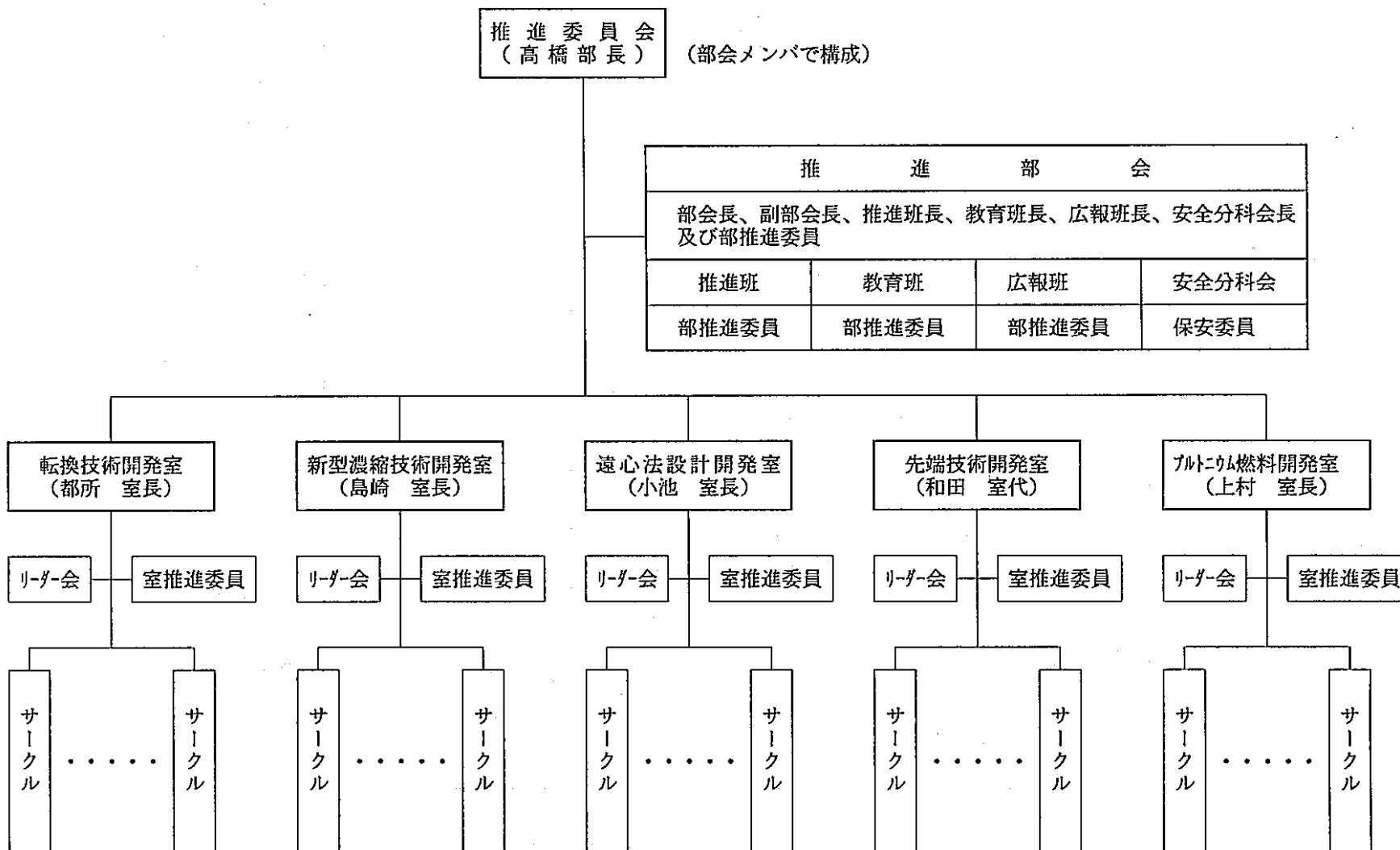
5.推進部会の構成

別添3のとおり

以 上

核燃料技術開発部小集団活動推進実施体制

平成5年4月1日



平成5年度NSK推進実施計画

平成5年4月

項目	年 月	平成5年									平成6年			備考	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
1. 推進に係わる事項	推進計画	○											○	TSK指針 ※完結テーマ 1件/年 毎月第2週の 水曜日	
	推進体制の整備														
	委員会等	推進委員会	○		○					○					○
		推進部会	○ ○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○ ○
		安全分科会		○		○	○	○		○		○			○
	各室リーダー会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	スローガン募集			○											
	サークル自己診断		○								○				
活動年報	(平成4年度)	○											○		
2. 教育研修等	内部研修	新人教育		○											
		リーダー研修			○			○		○			○		
		主査研修				○					○				
		管理者研修		○			○			○			○		
		所内教育	○	○		○			○		○				
	外部研修	管理者													
		日科・ブレ	○	○○	○○○	○	○	○	○○	○○		○○			
	茨城地区	○			○		○	○							
3. NSK発表等	NSK発表会			○					○						
	TSK発表会			○						○					
4. NSK推進ニュース発行		○	○		○		○		○		○		○		
5. 意見交換会	VS 各室リーダー				○						○				

(日科：日科技連 プレ：ブレンダイナミクス)

別添 3

推進部会の構成（平成 5 年度）

	担 当	役 割
部会長	船坂英之（先端室）	推進部会の運営 T S K 推進委員会への出席
副部会長	亀田昭二（新濃縮室）	推進部会長の代理 N S K の推進に係わる総括的なとりまとめ
推進班	○高橋邦明（プル開室） 中村詔司（先端室） △青柳義孝（遠心法室） 佐々木紀樹（新濃縮室） 庄司修一（転換室）	推進計画の企画立案・実施 N S K 発表会等の企画立案・実施 室小集団活動の進捗状況フォロー 室小集団活動報告書（月報、その他）のとりまとめ 自己診断結果の分析と室内とりまとめ その他、推進に係わる事項
教育班	○沖本龍杜（新濃縮室） 早乙女晴郎（プル開室） 角川章二（遠心法室）	教育計画の企画立案・実施 研修会・意見交換会の企画立案・実施 テキスト、教材の整備 その他、教育に係わる事項
広報班	○宮本 寛（プル開室） 井坂和彦（プル開室） 渡部政治（新濃縮室）	機関紙の企画・編集・発行 スローガン等の募集 各種行事の案内 その他、広報に係わる事項
安全分科会	○加藤良幸（転換室） 小野瀬芳彦（遠心法室）	安全啓蒙活動の計画・立案 安全活動実施状況調査及び報告
事務局	○明珍宗孝（先端室） プル開室庶務	T S K からの報告要求とりまとめ N S K 年報のとりまとめ 他部との渉外

○：班長 △：班長代理

参考

平成5年4月
核燃料技術開発部小集団活動関係外部講習会参加予定者
(平成5年度)

主催	コース名	実施回	実施月	参加予定者
日 科 技 連	信頼性 基礎コース	103	H6/1月	関 (プル開室)
	実験計画法 入門コース	104	H5/6月	西山 (プル開室)
	〃	108	H6/1月	木原 (転換室)
	多変量解析法 基礎コース	24	H5/7月	宮本 (プル開室)
	QCサークル 推進者コース	280	H5/9月	宮村 (遠心法室)
	QCサークル リーダーコース	439	H5/4月	久須美 (遠心法室)
	〃	443	H5/5月	加藤 (転換室)
	〃	452	H5/6月	東 (先端室)
	〃	459	H5/8月	影山 (プル開室)
	〃	468	H5/10月	鈴木 (新濃縮室)
	品質管理 ベーシックコース	84	H5/10月	岡田 (転換室)
ブ レ ー ン ダ イ ナ ミ ッ ク ス	リーダー活性化コース	379	H5.5.24 ～ 5.27	野上 (プル開室)
	第一線支援者活性化コース	143	H5.6.15 ～ 6.18	田代 (新濃縮室)
	〃	148	H5.11.15 ～ 11.18	菅谷 (プル開室)
	〃	148	H5.11.15 ～ 11.18	田中 (転換室)

室別参加予定者数

プルトニウム燃料開発室	6名	新型濃縮技術開発室	2名
先端技術開発室	1名	転換技術開発室	4名
遠心法設計開発室	2名	合計	15名

平成5年度NSK推進班活動計画

1993年5月25日

1. 概要

NSK推進班は、核開部小集団活動推進計画に基づき、

- ①NSK発表会の企画立案・実施
- ②各室小集団活動報告書のとりまとめ
- ③各室小集団活動の推進状況のフォロー
- ④各室リーダ会活動状況のフォロー
- ⑤優良課室制度への対応

を実施することによって、小集団活動の推進を図ることとする。

2. 活動内容

(1)NSK発表会の企画立案・実施

NSK発表会はTSK大会に先立ち、年2回実施する。第8回NSK発表会は、平成5年6月23日に展示館講堂（事務棟2階会議室）にて行うものとし、これに伴う企画立案等を実施する。更にNSK発表会に先立ち各室の室内代表選考のフォローを行う。

(2)各室小集団活動報告書のとりまとめ

サークル活動月報及びサークル活動計画・報告書のとりまとめを行う。

(3)各室小集団活動の推進状況のフォロー

サークル活動月報を基に、小集団活動進捗表を作成し、NSK全サークルの活動状況を取りまとめ、各サークルの活動に対するフォローを実施する。

(4)各室リーダ会活動状況のフォロー

リーダ会会議メモ等を基に、各室リーダ会の活動状況を把握するとともに、必要に応じてフォローを行う。また、年2回の部内リーダ会を開催し、意見の交換会を実施する。

(5)優良課室制度への対応

NSK推進部会における優良課室推薦体制の確立と推薦課室の評価選定を行う。

3. その他

NSKの改革に関する推進班の具体的活動は、推進部会における協議並びにその決定を受け第8回のNSK発表会以後実施するものとし、それまでは従来通りとする。

平成5年5月25日

平成5年度 NSK教育推進計画

NSK推進部会 教育班

平成5年度核燃料技術開発部小集団活動（NSK）推進計画に基づき、NSK推進部会教育班では以下の項目について積極的な教育活動を進める。

1. 新人教育

部内新人全員を対象にしたNSK導入教育を実施する。

2. リーダ及び支援者研修

小集団活動に対する支援・指導強化の一環として、リーダ及び支援者の教育研修を実施する。

3. 所内外教育の推進

小集団活動でのグループ員のレベル向上及び均等化をめざし、課（室）員を対象にしたQC、KY等の所内外教育／講習会への参加を推進する。

4. グループ間交流

小集団活動をより活性化するために、管理者、支援者、リーダ等を集めて、部内意見交換会等を実施する。

以 上

平成5年5月11日

平成5年度 NSK小集団推進計画

NSK小集団推進部会広報班

1. 推進計画の概要

NSKの5年度基本方針である「核開部にふさわしい小集団活動の実践」に向けての積極的な取組みと活動の定着化を目指して、サークル員全員の参加意識と活動意欲の高揚を図るため、以下の項目について積極的な活動を進める。

(1) NSKニュースの企画・編集・発行

- ・NSK大会、TSK大会、各種委員会や意見交換会、教育・研修の案内及び報告、サークル紹介記事、KYイラストシートやNSKスローガン、安全ポスターの募集の案内などを中心にタイムリーな発行を行う。
- ・これまでの小集団活動の成果についてとりまとめて紹介し、活動意欲の高揚に努める。
- ・写真、絵を多く取り入れ、文章は短く簡潔にして、読みやすいニュース作りに努める。

(2) KYイラストシート、NSKスローガン、安全ポスターの募集

- ・NSKニュースを通して募集することにより、全員の参加意識及び安全意識の向上に努める。

平成5年5月11日

平成5年度 NSK安全推進計画

NSK推進部会 安全分科会

平成5年度TSK推進計画基本方針を受け、「さらなる安全な職場風土の構築・醸成」を目指して、NSK推進部会安全分科会では以下の活動を展開し、安全活動を推進する。

1. TSK安全分科会との連携

- (1)NSK安全分科会活動報告
- (2)TSK安全分科会活動内容の周知
- (3)安全に関する情報交換

2. 安全啓蒙活動の計画・立案

- (1)ヒヤリハット事例の紹介および周知
- (2)NSK「KYイラストシート」の活用・充実
- (3)各室および各サークルにおける「安全」に関する活動の調査・推進
- (4)安全関連雑誌等からの情報の適時提供

3. 安全活動実施状況調査および報告

NSKにおけるKY等の安全活動実施状況を調査し、TSK安全分科会にて紹介する。

—— 以上 ——

(2)各室平成5年度推進計画

V. NSK活動

1. NSK活動の基本方針

所のTSK活動は平成5年～平成7年を展開期と位置づけるとともに、平成5年度改善施策が出されたことを受け、以下の活動方針が示されている。

- (1) 小集団活動の原点に立った基本事項の理解・把握・徹底
- (2) 活動上、活性化に悪影響を及ぼす諸要因の解消
- (3) 管理・監督者による支援・指導の強化策の実践
- (4) さらなる安全な職場風土の構築・醸成

核開部では、TSK活動方針を受け、平成5年度の活動目標を、

- (1) 各職場の実態に即したサークル活動の展開
- (2) 支援活動の推進
- (3) 安全活動の推進

と定め、小集団活動の展開を図る。

2. プル開室の活動姿勢

平成5年度のプル開室の小集団活動については、TSK平成5年度改善施策、TSK活動方針及びNSK活動目標を踏まえ、

- (1) 安全テーマ、学習会的テーマ等幅広いテーマの選択と実践
- (2) サークルの主体性を重視した活動の展開
- (3) プル開室小集団活動推進会議における管理・監督者支援の推進
- (4) 教育・研修への積極的参加
- (5) KYの積極的活用及び2Sへの取り組み

の5項目を活動姿勢として定め、各Grで具体化を図り特に安全に重点を置いた活動を展開する。さらに、作業マニュアルの改定を室共通の小集団活動として取り組む。

3. 平成5年度サークルの構成

第10表に示す合計6サークルでNSK活動を実施する。なお、サークルの新設及び再編成は適宜実施する。

図 V - 1 平成 5 年度プルトニウム燃料開発室
NSK サークルメンバー一覧

	チ ャーム 名	リーダ ー	メ ン バ ー	支 援 者
1	天晴其之式	加藤 正人	山田 一夫, 富田 豊, 中村邦浩, 三本松亜希子 永井 明美	高橋 邦明
2	宝宝 (パウパウ)	大沼 紀彦	芳賀 哲也, 大代 操, 宇野 弘樹, 藤井 秀樹	河野 秀作
3	まいったなぁー	吉田 真之	森平 正之, 成田 大祐 川瀬 啓一, 羽成 章	遠藤 秀男
4	雑技団 (ミステリーサークル)	平子 一仁	関 正之, 豊島 光男 石橋 藤雄, 西山 元邦 井坂 和彦, 三代 昌之	飛田 典幸
5	8 展途上	笹嶋 啓史	加藤 直人, 宮本 寛 野上 嘉能, 小沼 勝弘 加藤 明文, 鈴木雄一郎	小幡 真一
6	明日檜 (あすなろ)	影山十三男	菅谷 伸一, 小嶋 素志 藤田 伸一, 篠原 修二 早乙女晴朗	檜山 敏明

平成5年度 先端技術開発室 小集団活動推進計画

平成5年5月11日
先端技術開発室

1. 核燃料技術開発部小集団活動（NSK）活動方針

- (1) 各職場の実態に即したサークル活動の展開。
- (2) 支援活動の推進。
- (3) 安全活動の推進。

2. 先端技術開発室小集団活動推進方針

NSKの推進計画に基づき、先端室ではR&D部門にふさわしい小集団活動の定着化を図るために、以下の項目を方針とする。

- (1) 本来業務をサポートするような実務的なテーマ・アイデアを取り上げる。
- (2) 一人一人が発言し、意志の疎通を図る。それにより自分の考えを発表する「自信」を持ち、職場集団の中で「元気」な職員になることをネライとする。
- (3) 全員参加。 - 各自が役割を持つ。
- (4) テーマの完結及び歯止め。
- (5) 小集団活動のための小集団活動ではなく、室全体の活性・向上のために活動を行う。

3. 具体的な活動内容

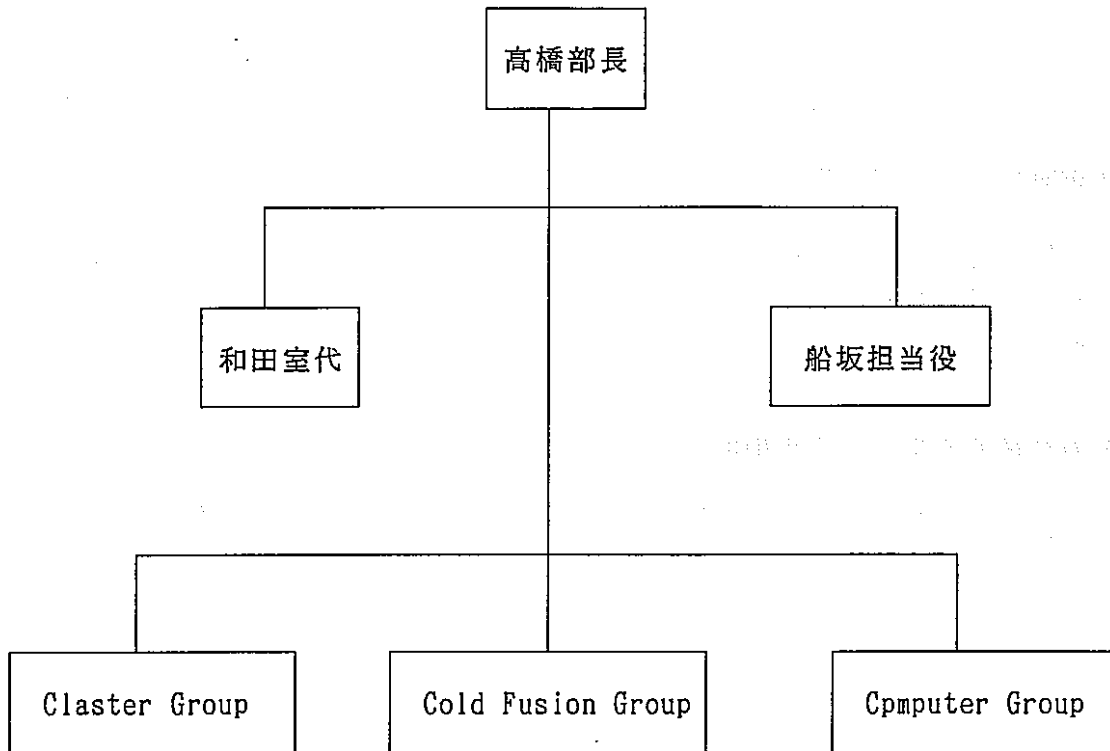
(1) サークル編成

サークルは、業務のまとまり毎にチーム編成する。

但し、各々のサークルで固まってしまう様子を、サークル間の相互乗り入れを自由にし、それにより室全体の「元気」を期待する。

サークル名	メンバー
Cluster Group	船坂英之 山本和典 杉山頭寿 石黒敏明 鹿野祥晴
Cold Fusion Group	鈴木政浩 北谷文人 森本恭一 川口浩一 桜井孝二 五位淵孝幸
Computer Group	原田秀朗 加瀬 健 東 侍郎 中村裕治 今西一文 中村詔司

(2) 小集団組織



(3) テーマ選択

各サークルは支援者及び管理者と相談し、本来業務をサポートしたり安全確保に関連した実務的なテーマを選択する。

R & D部門にふさわしい活動として学習的なテーマへの取り組みも考える。

(4) 活動の支援

サークルリーダー、推進委員、管理者による積極的支援を実施し、PDCAサイクルの持続に努める。また、教育・研修参加経験者によるQC処法の発揮を期待するものである。

平成5年度遠心法室小集団活動推進計画

1. 基本方針

NSKでは、「核開部にふさわしい小集団活動の実践」を図るため、基本方針として、

- 1) 各職場の実態に即したサークル活動の展開
- 2) 安全活動の推進
- 3) 支援活動の推進

と定められている。これを受け、平成5年度遠心法室の小集団活動は、「活気ある小集団活動の推進を図る」ために、以下に示す方針で実施する。

- 1) 支援者の支援活動の推進
- 2) サークルの主体的活動の実践
- 3) 幅広いテーマの取り組み
- 4) 教育の充実

2. 具体的取り組み

上記、基本方針を受け、具体的に以下の項目を実施する。

- 1) 支援者の支援活動の推進
 - i) 支援者（管理者を含む）のサークル活動への積極的支援
 - ii) 支援者会（管理者を含む）の開催
- 2) サークルの主体的活動の実践
 - i) 具体的な活動計画の作成
 - ii) 定期的な活動日の設定
 - iii) 主体的サークル編成及び運営の推進
 - iv) リーダー会の開催
- 3) 幅広いテーマの取り組み
 - i) 業務に応じた幅の広いテーマへの取り組み
 - ii) 安全テーマへの取り組み
 - iii) 学習会的テーマへの取り組み
- 4) 教育の充実
 - i) 支援者（管理者を含む）による室内教育の実施
 - ii) 外部講習への積極的参加

別 添

1. サークル編成

(1) 現 状

サークル名	リーダー	メンバー
まちまち クラブ	仲田次男	仲田次男、梅林栄司、木村本治、横川久吉 根本鉄四郎、中島しおり、萩谷美苗
「れす・れす」	青柳義孝	小野間宏行、宮村貴俊、青柳義孝、平野則夫、 高橋 司
Atomic Industrial Designers Servic	篠田佳彦	篠田佳彦、田辺 務、角川章二 青木英二
だいじょうV	鴨志田 仁	岸田春美、堀江 靖、齊藤克則、鴨志田 仁 久須見勝幸、緑川広行、原野謙一、平野聖一 峯岸雅俊、河原善幸
剛体二次	小野瀬芳彦	菊地清隆、郡司 清、小野瀬芳彦、中村正春 上妻 守
ハイマテリアル2	遠藤千昭	稲田隼司、遠藤千昭、平野孝一、成田英明 高木孝一、澤原重男

(2) 今 期（6月以降）

職場のGr編成にこだわらない新たな編成法を実施。（検討中）

2. 支援者会

(1) 構成

管理者	支 援 者
小池 進	根本鉄四郎、小野間宏行、高橋 司、青木英二 河原善幸、上妻 守、無藤 克己

(2) 活動内容

各サークル活動に対する支援方法の検討会

3. リーダ会

(1) 構成

- 各サークルリーダー（又は代理者）
- 支援者会
- 室進委員

(2) 活動内容

- ・ 月1回以上の定期的開催
- ・ 支援活動の推進を図る上での情報交換及び意見交換を行う。
- ・ 記事録による活動内容の記録

平成5年度 新型濃縮技術開発室 小集団活動推進計画

平成5年4月30日

新型濃縮技術開発室

1. 平成5年度の核開部（NSK）基本方針は次のとおりである。

- (1) 各職場の実態にそくしたサークル活動の展開
- (2) 支援活動の推進
- (3) 安全活動の推進

新型濃縮技術開発室ではNSKの基本方針を受け、室の実情を考慮し、室の基本方針を以下のとおり定める。

- (1) 室の業務に役立つ、楽しい小集団活動
- (2) 全員参加で、やる気の出るテーマ選定とサークル編成
- (3) 安全を念頭においた日常活動

2. 実施方針

- (1) 室の業務に役立つ、楽しい小集団活動
 - ① サークル活動は1年間の楽しいイベントとしてとらえる。
 - ② サークル活動の結果が個人及び課室にとって利益（便利になる、安全になる、報告書が増える、宣伝になる等）につながるよう積極的に小集団活動の場を活かす。
 - ③ TSK大会への出場
- (2) 全員参加で、やる気の出るテーマ選定とサークル編成
室長、支援者、推進委員などから広く意見を求め、
 - ① 新型濃縮技術開発室におけるR&D及び共通業務の中から、必要性・緊急性の高いテーマをバランス良く選定する。
 - ② 上記テーマの推進のため、室の業務組織を考慮しサークル編成を行う。
- (3) 安全を念頭においた日常活動
 - ① 安全は小集団活動の原点
 - ② 日常の活動において、常に安全を前提とした工夫、改善を心がける。

以上

平成5年度 新型濃縮技術開発室 小集団活動テーマ・サークル編成

1. テーマ

a. 業務密着型

- (1)照射試験のモニター化
- (2)UF, 捕集効率の改善

b. 共通型

- (1)共通図書管理の改善
- (2)居室のデザイン
- (3)来客用パネルの改良
- (4)分子法用語辞典の作成

c. 勉強会型

- (1)低温核融合の勉強会

2. サークル編成

テ　　マ	サークル員	支援者	サークル名
a. -(1) 照射試験のモニター化	鈴木美, 佐藤建, 川越, 会沢, 藤社, 茅根, 富岡, 松尾, 松田	川 上	
a. -(2) UF, 捕集方法の改善	清水, 新田, 工藤, 黒沢, 根本	田 代	
b. -(1) 共通図書管理の改善	田中, 萩野谷, 立原, 渡部, 田所, 五十嵐, 渡辺	佐藤章	
b. -(2) 居室のデザイン			
b. -(3) 来客用パネルの改良	山口, 原口, 水書, 横田, 二川 萩原	沖 本	
b. -(4) 分子法用語辞典の作成	上原, 中沢, 佐々木, 宮本, 石井	須 藤	
c. -(1) 低温核融合の勉強会			

平成5年度新型濃縮室小集団活動テーマ、サークル編成表

サークル名	テーマ	支援者	サークル員
すさまじー赤トマト	照射試験のモニター化	川上 重秋	鈴木美*、佐藤建、川越、会沢、藤社、茅根、富岡、松尾、松田
でんぼー	UF、捕集方法の改善	田代 清	清水*、新田、工藤、黒沢、根本
忠さんと ゆかいな仲間たち	(1)共通図書管理の改善 (2)居室のデザイン	佐藤 章	萩野谷*、田中、立原、渡部、田所、五十嵐、渡辺
パネLIS (じょうだん じゃないよ島崎さん)	来客用パネルの改良	沖本 龍壮	横田*、山口、原口、水書、二川、萩原
かよちゃんず	(1)分子法用語辞典の作成 (2)低温核融合の勉強会	須藤 收	上原*、中沢、宮本、石井、佐々木

*印はサークルリーダー

転換技術開発室小集団活動推進計画

転換技術開発室

1. 平成5年度転換室小集団活動の基本方針

平成5年度は、TSKおよびNSK方針の大幅な見直しが行われ、

- (1)小集団活動の原点に立った基本事項（基本方針、年度方針等）の理解・把握・徹底
- (2)活動上、活性化に悪影響を及ぼす諸要因の解消
- (3)管理・監督者による支援・指導の強化策の実践
- (4)さらなる安全な職場風土の構築・醸成

の基本方針を受け、平成5年度の転換室の小集団活動は、自由な・活動しやすい環境の熟成を計る年と定め、定期的な活動時間の確保およびサークル員と支援者の連体強化を図る、を目標として活動する。

活動計画の具体的な方策としては、

- (1) 業務に密着した安全活動を推進し、各職場に応じた幅広いテーマの選択。
- (2) 職場内における活動しやすいサークル編成の実施
- (3) 室内QC検討会の一層の充実
- (4) 発表のみを意識したスケジュール優先の活動を排し、自主的な活動の展開を図るを基本とし、活動推進計画の立案、遂行を図る。

2. 活動内容

本年度の活動内容は、次の通りとする。又、活動スケジュールを別紙1に示す。

- (1) 全サークル年2件のテーマ完結を目標とし、室内発表会は、年2回開催する。
- (2) サークル編成の一部見直しを行い、サークル員全員が共通の問題点に取り組むことができる様な環境を提供する。
- (3) 業務の繁忙さから来るサークル員全員での活動不能状態を少しでも解消するために、定期的に室内統一の小集団活動時間を設定する。

・活動日 : 毎月第2, 第4金曜日 16:00 ~ 17:00

- (4) 室内QCリーダー会議をこれまで通り定例で実施し、さらに充実を図る方策を検討・実施する。

・出席者 : 室長, 部内推進委員, 及び各サークル支援者, リーダー。

・開催日 : 原則として, 毎月最終金曜日 11:00 ~ 12:00

・月報 : 室内QCリーダー会議開催日の3日前までに事務局へ提出。活動内容を説明するのに必要な書類は添付のこと。

・コメント : コメントは, 事務局で議事録にまとめる。またコメントに対してはサークル内で議論した結果を明確にし, 活動に反映させる。

- (5) サークル員およびリーダーは、テーマの選定および活動内容について、適宜支援者への意見を求めるよう努め、また支援者は、サークル活動の方向性等が適切であることを監視・指導するようにする。

3. 転換室サークル編成及び推進事務局（別紙2）

平成5年度NSK・転換室推進実施計画

			平成5年									平成6年		
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1.教育研修等	部内研修	新人教育		*1○										
		リーダ研修			○				○		○		○	
		主査研修				○						○		
		管理者研修		○										
		所内教育	○	○		○			○		○			
	外部研修	管理者		○										
		日科・ブレ	○	○*2	○	○	○	○	○*3	○*4		○*5		
		茨城地区	○			○			○		○			
	2.発表会等	室内 発表会		○						○				
NSK発表会				○						○				
TSK発表会					○						○			
3.意見交換会	VS リーダ					○								
4.QC検討会	室内検討会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
5.その他	サークル自己診断		○							○				
6.備考		<ul style="list-style-type: none"> ・平成5年5月下旬に予定されている室内発表会は、平成4年度下期テーマについてのものある。 ・平成5年度後期活動テーマについては、平成6年5月に予定されている室内発表会にて発表する。 ・転換室新人教育対象者 <ul style="list-style-type: none"> *1 (小山, 篠崎, 小鷹, 佐藤賢, 大高) ・外部講習会参加予定者 <ul style="list-style-type: none"> *2 日科 QCサークル リーダコース (加藤) *3 日科 品質管理ベシクコース (岡田) *4 ブレ 第一線支援者活性化コース(田中) *5 日科 実験計画法 入門コース(木原) 												

小集団活動サークルメンバー編成表

平成5年6月～

	支 援 者	リーダー名	メンバー名
廃 液 Gr (5名)	根本主査	_____	根本正行, 根本康弘, 埴英治, 吉沢知幸, 篠崎智宏
湿式回収Gr (10名)	高橋主査	_____	藤咲栄, 多田忠美, 吉野正則, 庄司修一, 品田雅則 橋本敏美, 平野宏志, 木幡正人, 田口路敬, 小鷹政道
カチ試験Gr (6名)	沼田浩二	_____	古川潤, 工藤潔, 坂内信行, 佐藤進, 島崎聡, 佐藤賢二
TRU試験Gr (7名)	木原主査	_____	岡田尚, 澤秀志, 小笠原誠洋, 大高昭博 加藤良幸, 軍司正彦, 新堀輝夫
基礎試験Gr (5名)	田中主査	_____	佐々木聡, 小泉直人, 小山志津子, 高村美由紀, 池崎靖典

小集団活動サークルメンバー編成表

平成5年8月～

サークル名	支援者	リーダー名	メンバー名
DISCUS (5名)	根本主査	塙 英治	根本正行, 根本康弘, 塙英治, 吉沢知幸, 篠崎智宏
ただののんべ (10名)	高橋主査	吉野 正則	藤咲栄, 多田忠美, 吉野正則, 庄司修一, 品田雅則 橋本敏美, 平野宏志, 木幡正人, 田口路敬, 小鷹政道
秘蔵っ子 (6名)	沼田浩二	坂内 信行	古川潤, 工藤潔, 坂内信行, 佐藤進, 島崎聡, 佐藤賢二
えんぴつ (7名)	木原主査	澤 秀志	岡田尚, 澤秀志, 小笠原誠洋, 大高昭博 加藤良幸, 軍司正彦, 新堀輝夫
スプリング (5名)	田中主査	佐々木 聡	佐々木聡, 小泉直人, 小山志津子, 高村美由紀, 池崎靖典

(3)各室サークル編成及びテーマ

小集団活動メンバー構成及びテーマ一覧（プルトニウム燃料開発室）

サークル名	メンバー	テーマ名
明日檜	<u>影山</u> 、菅谷、小嶋、藤田、篠原、早乙女、野田（檜山）	α 線計測法に代わる低濃度Pu分析法の開発（～9月） 塩比G.B.の線量を低くするには（10月～）
まいったナー	<u>吉田</u> 、森平、成田、川瀬、羽成（遠藤）	核物質在庫管理の標準化 高線量廃棄物線量低減化
宝宝（～10月）	<u>大沼</u> 、芳賀、大代、馬上、宇野、藤井、田村（河野）	粒度分布測定後の試料回収法の改善
雑技団	<u>平子</u> 、関、豊島、石橋、西山、井坂、三代（～10月） <u>斉藤</u> （11月～1月）（飛田）	照射経時変化を模擬した溶接部の健全性評価方法2
8展途上	<u>笹嶋</u> 、加藤（直）、宮本、野上、小沼、加藤（明） 鈴木、菅井（小幡）	G-108核物質欠量の低減
天晴其乃式（～10月）	<u>加藤</u> 、山田、富田、中村、三本松、永井（高橋）	小さなことからコツコツ改善・・・
もうひとつのQCサークル （11月～）	<u>中村</u> 、山田、三本松、永井（～12月）、三次（12月～） （高橋）	「保安組織図」表示方法の改善（1月～）

下線はサークルリーダー、（ ）内は支援者を示す

小集団活動メンバー構成及びテーマ一覧（先端技術開発室）

サークル名	メンバー	テーマ名
クラスター	<u>杉山</u> 、鹿野、山本、石黒、桜井、小田（船坂）	フラーレン回収率の向上（～11月） 新クリープ室周辺の衛生管理法（12月～）
コールドフュージョン	<u>森本</u> 、北谷、鈴木、川口、五位淵、小林（～1月） （明珍）	光の周波数とストレスとの関係 計算機による大衆の意識形成モデルの考察（～11月）
小集団活動消滅処理委員会	<u>東</u> 、中村（詔）、加瀬、今西、中村（裕）（原田）	核種変換に関する勉強会
フラワー	<u>渡部</u> 、萩野谷、久保田、吉村、関田（～11月）（氏本）	タクシー券利用方法の改善（～11月） 出勤簿記入法の管理（12月～）

下線はサークルリーダー、（ ）内は支援者を示す

小集団活動メンバー構成及びテーマ一覧（遠心法設計開発室）

サークル名	メンバー	テーマ名
東海アンタラーズ	<u>平野</u> （ <u>則</u> ）、小野間、宮村、堀江、平野、青柳（高橋）	OA機器の有効活用法
マテリアルサークル	<u>亀田</u> 、澤原、稲田、斉藤、山本（無藤）	材料試験データの採取及び処理方法の改善
検討中	<u>峰岸</u> 、竹本、大平、岸田、横山、小出（宮崎）	遠心機開発のアプローチ
剛体2次	<u>郡司</u> 、菊地、成田、中村、小野瀬（上妻）	回転胴搬入時の検査漏れ防止
原子産業設計サービス	<u>田辺</u> 、角川（青木）	研究開発の芽を生むゼミナール
まちまちクラブ	<u>中島</u> 、仲田、梅林、萩谷、小野、木村、横川（根本）	コピー用紙の減容
らいらい	<u>鴨志田</u> 、斉藤、原野、仲谷、田中、神原、久須見、緑川 篠塚、笹森（河原）	4S活動の推進
ハイマテリアル	<u>平野</u> （ <u>孝</u> ）、遠藤、高木（無藤）	鉄ケーシング除染法の改善

下線はサークルリーダー、（ ）内は支援者を示す

小集団活動メンバー構成及びテーマ一覧（新型濃縮技術開発室）

サークル名	メンバー	テーマ名
すさまじい赤トマト	<u>鈴木</u> （美）、佐藤（健）、会沢、松田、茅根、藤社、富岡 根本、松尾（川上）	照射試験のモニター化
かよちゃんず	<u>上原</u> 、中澤、宮本、石井、佐々木（須藤）	分子法用語辞典の作成 低温核融合の勉強会
忠さんとゆかいな仲間たち	<u>渡部</u> 、田中、立原、田所、五十嵐、渡辺、下口（佐藤）	共通図書管理の改善
パネLIS	<u>横田</u> 、山口、原口、水書、萩原、二川（沖本）	来客用パネルの見直し、改定
でんぼー	<u>清水</u> 、堀、大内、工藤、黒澤（田代）	プロセス試験の効率化

下線はサークルリーダー、（ ）内は支援者を示す

小集団活動サークルメンバー編成及び活動実績

平成5年6月～

サークル名	支援者	リーダー	メンバー	活動テーマ
DISCUS (5名)	根本主査	塙 英治	根本正行, 根本康弘, 塙英治, 吉沢知幸, 篠崎智宏	中和殿物ろ過方法の改善
ただののんべ (10名)	高橋主査	吉野 正則	藤咲栄, 多田忠美, 吉野正則, 庄司修一, 品田雅則 橋本敏美, 平野宏志, 木幡正人, 田口路敬, 小鷹政道	A・F-104 工程の把握(勉強会)
秘蔵っ子 (6名)	沼田浩二	坂内 信行	古川潤, 工藤潔, 坂内信行, 佐藤進, 島崎聡, 佐藤賢二	W-19脱硝皿への給液方法の改善
えんぴつ (7名)	木原主査	澤 秀志	岡田尚, 澤秀志, 小笠原誠洋, 大高昭博 加藤良幸, 軍司正彦, 新堀輝夫	パネル曇り除去
スプリング (5名)	田中主査	佐々木 聡	佐々木聡, 小泉直人, 小山志津子, 高村美由紀, 池崎靖典	紙ゴミの低減

小集団活動サークルメンバー編成表

平成5年9月～

サークル名	支援者	リーダー	メンバー	活動テーマ
DISCUS (5名)	根本主査	塙 英治	根本正行, 根本康弘, 塙英治, 吉沢知幸, 篠崎智宏	分析廃液最適処理方法の確立
ただの飲んべ (10名)	高橋主査	吉野 正則	藤咲栄, 多田忠美, 吉野正則, 庄司修一, 品田雅則 橋本敏美, 平野宏志, 木幡正人, 田口路敬, 小鷹政道	A・F-104 工程勉強会(第2段)
秘蔵っ子 (6名)	沼田浩二	坂内 信行	古川潤, 工藤潔, 坂内信行, 佐藤進, 島崎聡, 佐藤賢二	フロンパネル交換方法の改善
おしりペンペン (7名)	木原主査	澤 秀志	岡田尚, 澤秀志, 小笠原誠洋, 大高昭博 小山志津子, 高村美由紀, 池崎靖典	・B02パネル透明度回復 ・お弁当の注文
てるちゃんズ (5名)	鈴木 徹	新堀 輝夫	佐々木聡, 小泉直人, 加藤良幸, 軍司正彦, 新堀輝夫	・グローブボックス内でのキムチル 使用方法 ・マック勉強会

(4)NSKニユース



核燃料技術開発部小集団活動

ニ ュ ー ス

No.1 平成5年7月01発行 核燃料技術開発部小集団活動推進部会広報班

第8回NSK発表会開催される！

平成5年6月23日（水）展示館講堂で第8回NSK発表会が開催されました。最初に部長の方から『TSKが本年度から変わっている。NSKも、今までの活動自体活発であるが、今後はそれぞれのサークルにあった自主性を持った活動をするように。』との挨拶があった。各室からの発表も工夫を凝らし、質疑応答も活発に行われました。結果は以下の通りでした。

最優秀賞	転換室	『SPRING』	「紙ゴミの減容」
優秀賞	遠心室	『剛体二次』	「振動計校正の能率向上」
特別賞	Pu開室	『突起物W/G』	「グローブボックス等作業エリアにおける突起物への衝突防止対策の検討」
奨励賞	新濃室	『クリスタル』	「インパクト捕集量・捕集速度のモニター化」
	先端室	『クラスター』	「溶液からのフラーレン回収率向上」

講評は次の通りでした。

・転換室『SPRING』

身近なテーマでなかなか決め手がないテーマを、よくまとめ評価している。活動によって使用量が減ったのがわかると良い。情報管理上の歯止めをしっかりとすると良い。

・遠心室『剛体二次』

R&D部門にふさわしいテーマである。QC手法をうまく、一所懸命に使っている。

・プル開室『突起物W/G』

新しい形（横断的なグループ編成）のやり方である。テーマが上から降りて来たもので無く、自主的なものなら良かった。安全性を重視した良いテーマである。

・新濃室『クリスタル』

R&D部門にふさわしいテーマである。開発の過程がもう少しわかると良かった。

・先端室『クラスター』

R&D部門にふさわしいテーマである。安全性がもう少し強調さえれば良かったのでは。

最後に、各サークルの皆さん、第9回NSK発表会に向けて内容の充実した発表会になるよう、頑張ってください。



核燃料技術開発部小集団活動

核燃料技術開発部
小集団活動の
シンボルマーク

ニ ュ ー ス
No.2 平成5年7月12日発行 核燃料技術開発部小集団活動推進部会広報班

核燃料技術開発部における平成5年度の小集団活動について

—— 独自性の発揮を —— NSK推進委員長（核燃料部長）
高橋 武士

小集団活動が、安全性に限定したKY活動から始まり、品質管理（QC）を含めた現在の形になって、6年が経過しました。その結果、安全意識や職場改善意識の高揚が図られ、また、従業員間のコミュニケーションが活発になってきました。しかし、一方では、専業所他部門と同様に核燃料技術開発部においても、それぞれの課室やサークル間において、活動に格差が生じてきたのも事実です。このため、昨年度には、島崎推進部会長を中心に、改善に向けた検討が進められ、皆さんの意見が、総てとは言えませんが、専業所の新しい小集団活動の方向づけの決定に反映されたと思います。

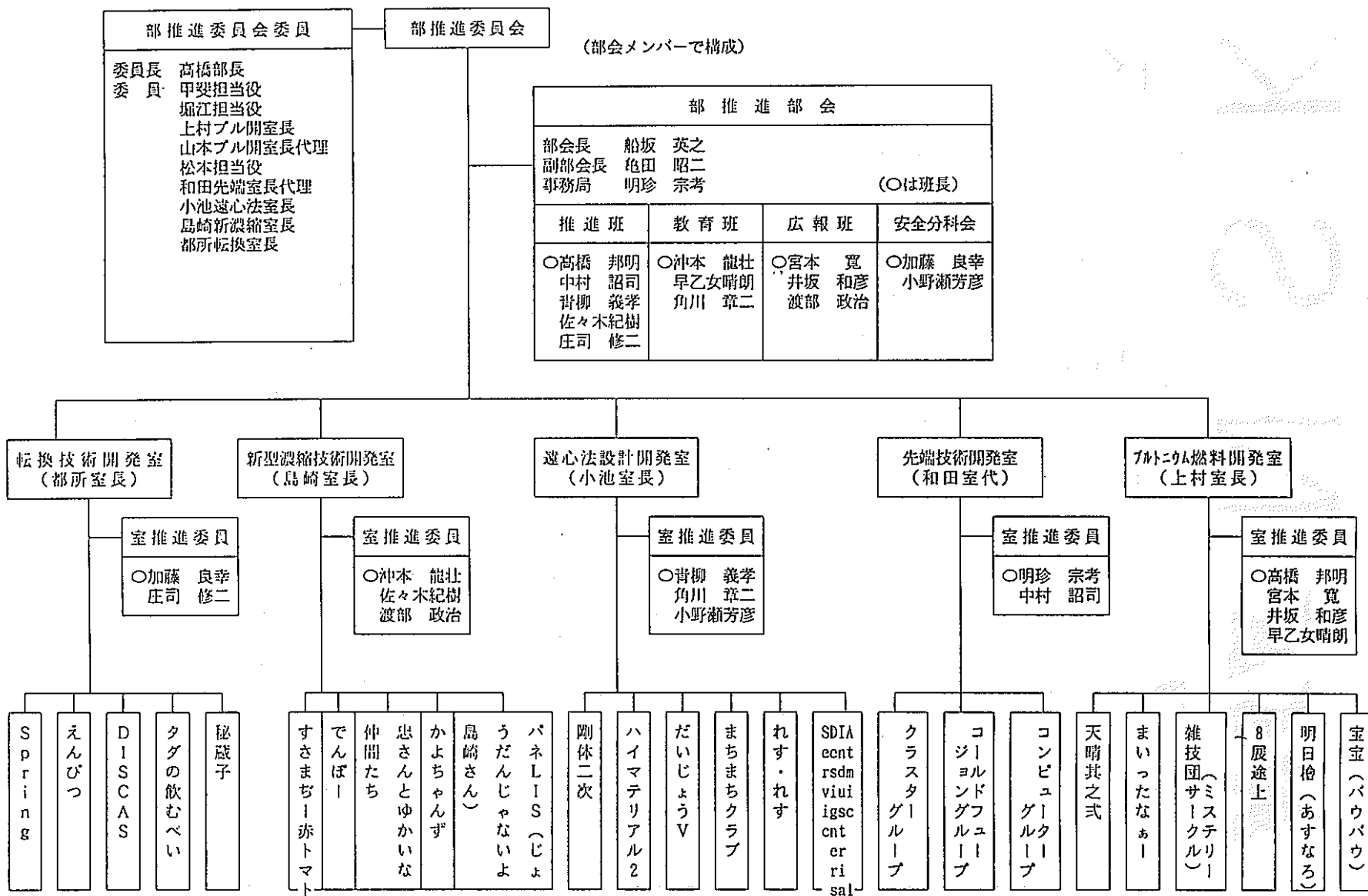
今年度からの新しい小集団活動では、基本的精神は従来と変わりませんが、より活動の自由度が増し、各職場、各サークルがそれぞれの独自性を発揮できるものになったと言えます。

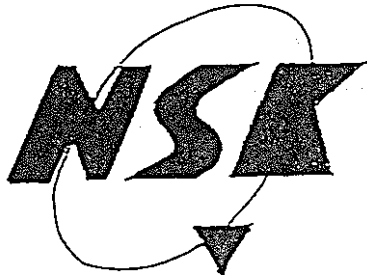
独自性のある活動とは、QCストーリーやQC手法を用いない新しいものを追求することで決してありません。これらの活動展開方法や活動を進めるための手法は、いろいろな課題に適用できるように考えられ、かつ、平準化されたものですから、私たちの職場においても、安全性、業務の効率化等のほとんどの課題に対して極めて有効であり、活動の独自性に何ら関係するものではありません。ただ注意しなければならないことは、結果重視に陥ったり、活動を短期間で済ませようとする余り、これらの手法やQCストーリーに合うようなテーマを意識的に選んでしまうことなのです。このような活動は、小集団活動の本来の意味を失っている訳ですから、やがて活動の活性が失われるのは当たり前です。このような、QCストーリーやQC手法ありきの活動ではなく、自らの職場を良く見て、各職場の特徴に合致した課題に取り組み、従来の活動展開方法や手法に合わない場合には、さらに踏み込んで、自ら、活動展開方法や手法を生み出して行く、主体性のある活動が必要なのです。

私たちの部のように、庶務・管理業務、定常的な保守業務、研究・開発業務等多種多様な業務の職場においては、必ずしも平準化された、活動展開方法や手法に合わないのが当然であると思います。それだからこそ、各サークル独自の取り組みが可能となり、また、それぞれの活動を通じて、新たな平準化された活動方法が生まれてくるものと思います。

企業活動が、全体のレベルアップを狙った平準化の時代から、各企業の独自性が要求される差別化の時代を向かえているのと同様に、私たちの小集団活動も平準化に加え、各部門や各サークルごとの差別化が要求されているものと思います。専業所の新しい小集団活動の進め方に書かれているように“思い切り独創的なテーマ、挑戦的なテーマ”に加え“独創的な活動展開”にも果敢にチャレンジされることを期待しています。

核燃料材料 技術開発部 小集団活動推進実施体制





NSK

核燃料技術開発部小集団活動

核燃料部小集団活動の
シンボルマーク

ニ ュ ー ス

№3 平成5年11月15日発行 核燃料部小集団活動推進部会広報紙

第 9 回 NSK発表会開催迫る

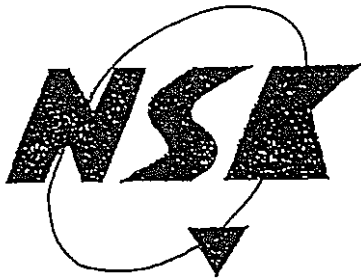
日 時 平成5年12月15日(水) 13:10~15:50

会 場 展示館 講堂 (予備: J棟 2階会議室)

発表プログラム

1. 開会の辞 (船坂推進部会長)
2. 部長挨拶 (高橋部長)
3. 実施要領説明(司会者)
4. サークル発表
 - ① 先端技術開発室
 - ② プルトニウム燃料開発室
 - ③ 遠心法設計開発室
 - ④ 転換技術開発室
 - ⑤ 新型濃縮技術開発室
5. 休憩 (10分間)
6. 教育用ビデオ上映
7. 成績発表 (船坂推進部会長)
8. 講評 (高橋部長)
9. 表彰 (高橋部長)
10. 閉会の辞 (亀田推進副部会長)

*各サークルの皆さんがんばって下さい。なお、皆様の積極的な御参加を宜しくお願ひします。



NSK

核燃料技術開発部小集団活動

核開発部小集団活動の
シンボルマーク

ニ ュ ー ス

No.4 平成5年11月15日発行 核開発部小集団活動推進部会広報班

『NSK部内意見交換会』開催される！

さる10月20日（水）の 13:15～15:50 濃縮J棟会議室において、核燃料技術開発部小集団活動を活性化するために、各サークルのリーダー及び支援者に集まって頂き、外部講習会参加者の体験報告及び意見交換会を実施した。

(1) 意見交換会での主な意見

司会：TSKの基本方針が今年度より変わったが・・・

@：自由度は出たことは確かだが、あまり変わったとは思えない。

@：勉強会を進めてみて、本来業務が徐々に活性化した。

@：リーダーとして半年、前年より自由に出来る形とはなったが、変わったという意識はない。

司会：今年度から改革されたと言われているのだが、リーダーから聴くかぎり変わってないようだが、どうすればよいか・・・

@：勉強会が「自由」と思っていたが、評価の方向性が難しい。

@：「小集団活動か」「QC活動か」をはっきりさせて欲しい。

司会：支援者の立場としてどうでしょうか・・・

@：アドバイスすることは結構荷が重い。支援者は自ら旗を振る立場ではないが、アドバイス以上の指示が見受けられる。

@：KYに対する教育の不足を認識、特に新人にはKYが必要だ。

司会：リーダから支援者等に望むもの、求めるものは・・・

④：月報のコメントだけでなく、直接小集団の集まりに参加して助言を頂きたい。

④：小集団とQCの区別をはっきりさせるべきである。QCにこだわらず「業務改善」という手もある。

強要されているという持たせないことが大切である。

④：管理職の方の意識改革がなければ進歩しないと思う。

管理職の方にも小集団活動をやって貰い、発表に参加していただくこと考えて貰いたい。

司会：やる気を起こさせる、達成感を得るためにはどうすればよいと思いますか・・・

④：幸福感、やる気、達成感などと言われているが、後ろの方で「そうさせている」ようなものが見える。

④：本音で物が言えることが大切である。

(2) 外部講習会参加者の体験報告

① 外部講習会参加者の体験報告 (その1)

〔報告者：新濃縮 田代 清 氏〕

新濃縮室の田代氏より、ブレンダイナミックス主催の『第一線支持者体験コース』の体験報告がなされた。

本講習会は「小集団活動とは何か？」を意識させるために、いろいろなメーカーから集まった参加者を小グループに分け、オリエンテーリングのような野外活動を体験させることで、リーダーシップ性、臨機応変な対応能力、チームワーク性を養うのが目的であった。田代氏によると「本講習会に参加して有意義な体験を経験でき、今後のNSK活動に生かしていきたい。」とのことであった。

② 外部講習会参加者の体験報告 (その2)

〔報告者：遠心法 菊地 清隆 氏〕

遠心法設計室の菊地氏より日科技連主催の『QCサークル推進者コース』の体験報告がなされた。

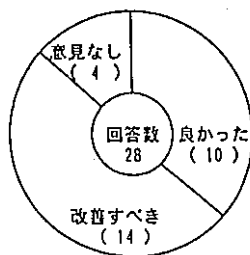
本講習会は、「QCサークル推進者としての心構えは何か?」「QCサークル活動の基本理念をどう受けとるか?」を主題に実施された。

菊地氏より「QCサークルリーダーの選出は、職長が望ましい。管理と改善は、別に考える必要がある。管理とは望ましい状態を安定に維持することで、改善とは結果を望ましい値に向上することであり、この違いについては充分認識する必要がある。」等貴重な意見があった。

設問1. 今回の意見交換会の進め方について

*: 重複意見を示す。
(以下同じ)

『良かった点』について



- ・他のサークルの抱えている問題点や意見を聞いてよかった。悩みを抱えているのは自分たちのサークルだけではない。
- ・意見交換会は小集団活動をする上で必要である。意見交換会の意見や、ボトムの意見が本当に生かされるか疑問だが。
- ・全員に意見を言わせたこと。***
- ・推進委員も本音(と思われる)を言っていたこと。
- ・進め方は良かったと思う。他の課室の小集団の活動が分かり今後の参考に出来ると思う。
- ・外部講習会参加報告により、どのように小集団を進めたらよいか1案が開けたこと。
- ・一人2~3点の発言があったので良かったと思う。

【ここがポイント】

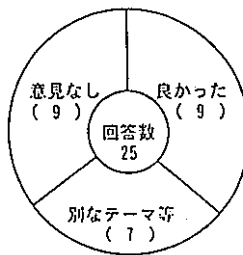
1. テーマ(問題点)を絞って、全員の意見を聞ける場とする。
2. 管理者には各サークルの現状をよく知って貰う。

『改善すべき点』について

- ・前もって参加者にアンケートで意見を募り、それをまとめた(レジメ)上で具体的な問題について討論したらよい。*
- ・各室の室長、部長といった管理職の方にも出席してもらい各サークルの現状を知って貰うべきだ。*
- ・全員の意見を聞くのには指名も仕方ないところだが、もっと自然な形で意見が出来る雰囲気欲しい。
- ・サークルリーダー相互の意見交換会か、NSK推進委員との意見交換会かがよく判らない。
- ・お酒(お茶をしながら)をまじえて本音の話をする会を開催すると良いかもしれないと思う。*
- ・人数が多いのでは、少人数にし意見を出しやすくしたら?*
- ・1つの意見に対して討論が無かった。
- ・小集団とQCの使い分けが不明確であった。
- ・ざっくりばらんな質問の内容と思えた、もう少し問題の背景を探ってみてはどうか?
- ・支援者、部会長との合同のせいか、活発な意見が出なかったように思う。

設問2. 今回の意見交換会のテーマについて

『これは良かった』について



- ・「楽しい活動」「負担のない活動」といったある程度前向きな方向性が意見として出たことは意義あることと思う。
- ・外部講習会参加報告は非常に良かったと思う。小集団を行っている者すべてが開けるようにして欲しい。***
- ・全てgoodテーマだったと思う。*
- ・リーダー、支援者の役割が、他の人の意見を通して理解出来た気がする。
- ・各サークルリーダーが、同じような意見であり安心した。
- ・リーダー意見交換の場で、部会長のフォローが開けて良かったと思う。

【ここがポイント】

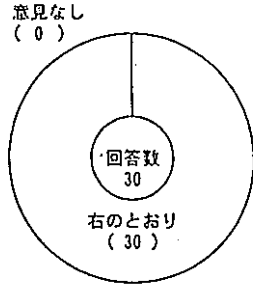
1. 参加者のアンケートでは「これ」といったテーマは見当たらない。NSKの推進方法の勉強が「キー」となるのか。

『こんなテーマが良い』について

- ・テーマを決めない方が話し易いのではないか?
- ・出席者に前もって「テーマ」のアンケートを取ってもよいのではないか?
- ・テーマはもっと絞り込んで具体的なものとしてはどうか?
- ・管理職の意見も聞きたい。
- ・ゲストとして、他企業(日産等)の方を招いて活性化を図るための成功例など聴かせてもらうのもよい。
- ・指名により参加者全員の意見は開けたが、「本音」の部分が余り出なかったと思われる。事前に意見用紙(無記名)で全員の意見を事務局で集約したもので行うのもよいのではないか?
- ・「活動をより活性化させるために」については、皆が一番に悩んでいることであり、いきなりこのテーマでは意見が出にくいのではないか?

設問 3. 小集団活動を活性化するためには

「こんな事をすべきた」又は「是非こんな事をNSKとしてやって欲しい」



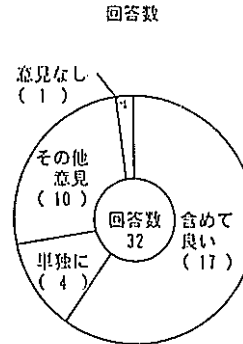
【ここがポイント】

1. これだけの意見が出たことは、NSKは活性化されてないと考えられる。
2. 「楽しい活動」「負担のない活動」にすることが活性化のキーである。

- ・ルール作りを行って欲しい。例えば、勉強会なら3カ月以内とかリーダークラスはとまどう。
- ・発表の期日も小集団でテーマを検討し、決めるようにしては？
- ・KY活動がおろそかになってしまっている。KYの方が重要だと思うので検討して欲しい。

- ・各サークルがどのように考え、どのような改善策をたてるかといったようなコンテストはどうか？(遊び心を持つ)
- ・「楽しい活動」「負担のない活動」とはなにか、具体的に、NSK独自の進め方を持って良いのではないかと？***
- ・発表、月報のためでない自ら進んで出来るような体制づくり。
- ・成果は、発表会でなく業務改善のように業務に密着させる。
- ・管理職にも小集団活動をしてもらい、見本をみせて貰う。*
- ・小集団とQCの区別をハッキリと考える。
- ・QC手法を使った活動にとらわれない進め方ではいけないか？
- ・活性化の「決め手」は、いかに楽しんで活動できるかがポイントであり、環境づくりが大切、継続性を持たせること。*
- ・小集団が何故必要か、原点に立ち返っての議論が必要である。全員参加としない。(配られた小冊子は格好つけすぎ)
- ・小集団は活性化する必要なし、やりたい人だけ小集団をする。
- ・サークルの中で、リーダーでもなく、発表者でもなく、なにもしない人を意見交換会に参加させるべきである。
- ・小集団をする「本質」をテーマで、理解、周知、徹底を図る。
- ・管理職など上の方から活性化するように心掛けて欲しい。
- ・賞品の額を大幅にアップさせる。
- ・これは難しい問題であり、色々な形で行ってみる事が必要だ。
- ・推進委員、リーダー、グループ員が密接になって活動する。
- ・特定の日を決め、NSKディとし業務の一環として活動する。
- ・各課室の発表会にも推進部会のメンバーが出席する。
- ・業務密着のグループで、テーマは自由に選択するべきだ。
- ・小集団活動に対するイメージ作り、小集団対抗1対1大会は？
- ・本日の議事録(貴重な意見あり)からピックアップして。
- ・外部研修参加報告でもあった「クロスフィールド」等行ってはどうか？

設問 4. 意見交換会に含めた「外部講習会参加報告」の実施について



「外部講習会参加報告」を含めて良かった

- ・含めて良い、良いと思う。*****
- ・外部の講習会がどのようなものか判り参考になった。*
- ・リーダとして参考になることが有りました。*
- ・報告者の率直な感想が聞けたので良かった。
- ・「しかたなく参加」した意識が、帰った時「良かった、勉強になった」と言うことで説得力があり、興味をもって聞くことが出来た。

「外部講習会参加報告」は単独に行うべきだ

- ・意見交換会で行う必要があるのか？ただし、他の人に知らせる必要はある。
- ・意見交換会とは分離し、回数を多くしたら？
- ・同時に行ったので間延びしたように感じた。
- ・意見交換会と一緒にしたので、時間が少し短かったのでは？

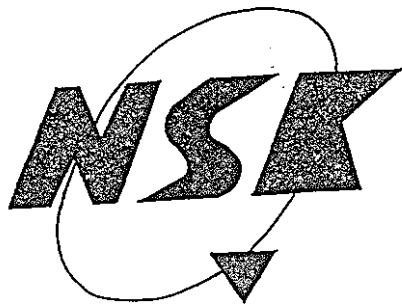
【その他意見】

- ・外部講習会参加報告は、話も面白く良かった。参加することに意義のある講習会の報告が他の人にどれだけ有効か？
- ・業務に密着していない自由な活動と仲良しグループはどこがちがうのか。
- ・外部講習会参加は小集団活性化に必要、初心者も参加すればよい。
- ・サークルリーダーをやっている人(協力会社も含め)に参加してもらえるようにしては？
- ・外部の講師を呼んで研修会(2~3日間)を行っては？
- ・行きたい人は参加するし、行きたくない人は参加しない。
 - ・グループのレベルアップができており、支援者のレベルアップを考えて欲しい。
- ・外部講習会の報告より、参加した内容を職場でどの様に生かしたかの報告をして欲しい。

【ここがポイント】

1. 外部講習会参加の報告は是非とも必要である。
2. 外部講習会参加の報告は単独で開催しても良いが意見交換会等に含めて実施しても問題ない。
3. 「ネガティブ」な意見を持っている人もいることを忘れないこと。

- ・オリエンテーリングとQC活動とが結びつかなかった。
- ・外部講習会参加報告が早めに分かり、資料の準備に戸惑うことも無かった。



NSK

核燃料技術開発部小集団活動

ニ ュ ー ス

№ 5 平成5年12月16日発行 核開発部小集団活動推進部会広報班

第9回NSK発表会開催される！

平成5年12月15日（水）展示講堂において第9回NSK発表会が開催されました。本大会は、回を重ねるごとに各室共、内容の充実した発表会となりました。

今回より評価方法をTSKの評価方法に沿って変更し、その結果、得点が全配点の80%以上を得たチームに大会賞を与えることにしました。

結果は以下のとおりでした。

① 大会賞（部代表）

転換技術開発室

サークル名：秘蔵っ子

テーマ名：W-19脱硝皿への供給方法の改善

② 大会賞

プルトニウム燃料開発室

サークル名：宝室（パウパウ）

テーマ名：粒度分布測定後の試料回収方法の改善

③ 達成感会得賞

新型濃縮技術開発室

サークル名：阿弥陀

テーマ名：書類の整理・処分

④ 相互啓発賞

遠心法設計開発室

サークル名：原子産業設計サービス

テーマ名：研究開発の芽を生むゼミナール

～新技術の情報収集～

⑤ 楽しかったで賞

先端技術開発室

サークル名：Cold-Fusion

テーマ名：生体に対する周期的な刺激の影響

又各サークルの講評は以下の通りでした。

① 転換室“秘蔵っ子”サークル

伝統的な手法を駆使して、目標達成を行い、さらに安全性を強調した良いテーマである。NSKの代表としてTSK大会で頑張ってもらいたい。

② プル開室“宝宝（バウバウ）”サークル

意外なところに解決法があった。小集団活動の成果としては充分である。

③ 新濃縮“阿弥陀”サークル

活動の成果として文書管理というテーマは、古くて新しいテーマである。他室への反映につながるようにしてほしい。

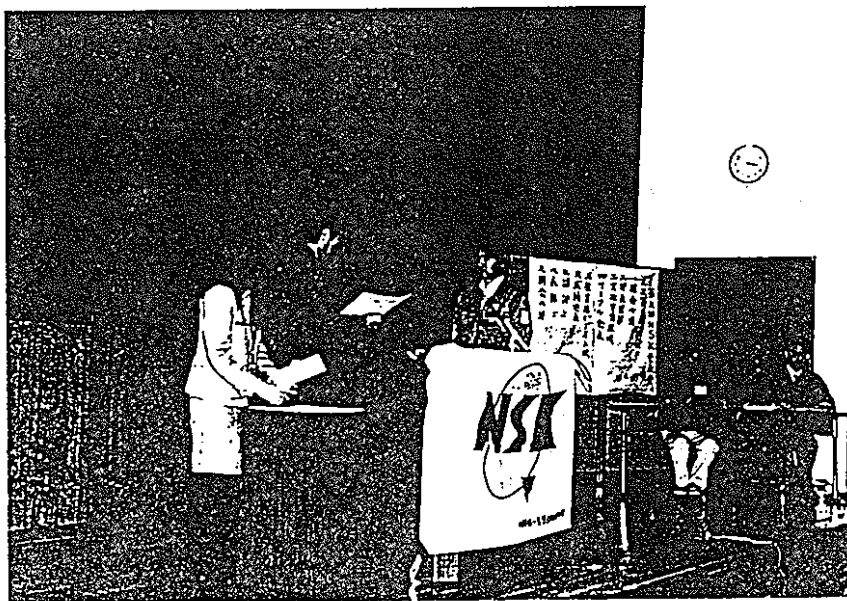
④ 遠心法“原子産業設計サービス”サークル

すばらしい成果である。完結してまたNSK大会に出てきてほしい。

⑤ 先端室“Cold-Fusion”サークル

環境安全的な発想で追求をもっとしてほしい。

以上の様にNSK代表は転換室となりました。核開部のみなさん、よいお正月を過ごし、一息ついた所で第10回NSK発表会に照準を合わせ、頑張ってもらって活動を開始して下さる様をお願いします。



NSK代表サークル：転換室“秘蔵っ子”サークル

(5)NSK新人教育関係資料

平成5年5月21日

NSK推進部会
(教育班)

平成5年度 NSK新人教育実施要領

1. 日 時 平成5年6月2日(水) 13:15 ~ 16:45

2. 場 所 J棟 2F 会議室

3. 対象者 別紙のとおり (計22名)

4. スケジュール

13:15 ~ 13:20	開講にあたって〔NSK教育班〕
13:20 ~ 13:30	小集団活動について〔船坂部会長〕
13:30 ~ 14:30	QC教育〔転換室 木原 義之氏〕
14:30 ~ 14:50	事例の紹介〔Pu開室 明日檜サークル〕
14:50 ~ 15:00	休 憩
15:00 ~ 16:30	KY教育〔加藤安全分科会委員〕
16:30 ~ 16:40	アンケート
16:40 ~ 16:45	閉講挨拶〔亀田副部会長〕

(注) 講義には、スライド、ビデオ、OHP等を適宜利用する。

以 上

平成 5 年度 N S K 新人教育対象者名簿

- | | | |
|-----|--------|--------------|
| 1. | 富田 豊 | (フルニウム燃料開発室) |
| 2. | 田村 哲也 | (") |
| 3. | 野田 吉範 | (") |
| 4. | 菅井 智哉 | (") |
| 5. | 佐藤 恵子 | (") |
| 6. | 寺門 直也 | (") |
| 7. | 小田 好博 | (先端技術開発室) |
| 8. | 小野 祐明 | (遠心法設計開発室) |
| 9. | 小出 裕之 | (") |
| 10. | 横山 武芳 | (") |
| 11. | 仲谷 一男 | (") |
| 12. | 田中 佳夫 | (") |
| 13. | 篠塚 一郎 | (") |
| 14. | 神原 慎治 | (") |
| 15. | 佐藤 健 | (新型濃縮技術開発室) |
| 16. | 松田 俊一 | (") |
| 17. | 松尾 勝成 | (") |
| 18. | 小山 志津子 | (転換技術開発室) |
| 19. | 小鷹 政道 | (") |
| 20. | 大高 昭博 | (") |
| 21. | 佐藤 賢二 | (") |
| 22. | 篠崎 智広 | (") |

班 編 成				
A				
	B			
		C		
			D	
				E
A				
	B			
		C		
			D	
				E
A				
	B			
		C		
			D	
				E
A				
	B			

平成5年6月3日
NSK推進部会
(教育班)

平成5年度 NSK新人教育実施報告

1. 概 要

以下のとおり今年度の核開部新人全員を対象に、小集団活動、QC活動のあり方及び進め方の講義、事例の紹介(模範発表)、KYTの実習等を行い、NSKへの導入を図った。

(1) 日 時 : 平成5年6月2日(水) 13:15 ~ 16:50

(2) 場 所 : J棟 会議室

(3) 出席者 : Pu開室 富田、田村、野田、菅井、寺門
先端室 小田
遠心法室 小野、小出、横山、仲谷、田中、篠塚、神原
新濃縮室 佐藤、松田、松尾
転換室 小山、小鷹、大高、佐藤、篠崎 以上21名

(4) 内 容 : 13:15 ~ 13:20 開講にあたって〔NSK教育班〕
13:20 ~ 13:30 小集団活動について〔船坂部会長〕
13:30 ~ 13:50 事例の紹介〔Pu開室 明日檜サークル〕
13:50 ~ 14:55 QC教育〔転換室 木原氏〕
14:55 ~ 15:05 休 憩
15:05 ~ 16:35 KY教育〔加藤安全分科会委員〕
16:35 ~ 16:45 受講者アンケート(感想文)
16:45 ~ 16:50 閉講挨拶〔亀田副部会長〕

2. 所 感

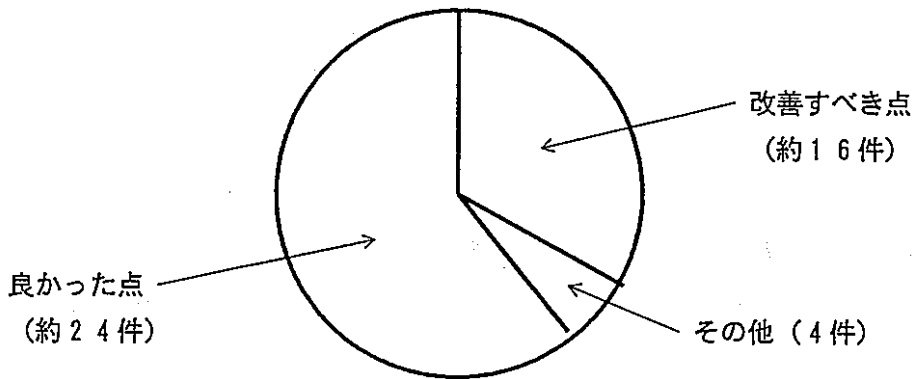
受講者アンケートの結果によれば、良かった点として、今回の教育でQC・KYの考え方が理解出来たこと、KYTによりグループでの討議、共同作業の重要性や楽しさが判ったこと等が挙げられており、今回の教育の目的は達したと考える。

また、改善すべき点としては、QCスライドの映像や音声が悪くなかったこと、スライドの時間が長過ぎること等が挙げられたことについては次回での参考材料としたい。

詳細は添付「受講者アンケート結果」を参照されたい。

受講者アンケート結果

(対象者数：21名)



良かった主な意見

- (1) 小集団活動がどんなものか判った。
- (2) 危険予知訓練のグループ学習は色々な人の意見が聞けた。また、一寸した達成感も味わえて良かった。
- (3) 職場の中の人間関係は非常に大切だと思った。サークル活動に生かしたい。
- (4) 以前にやったことがあるが、新たな気持ちでQC活動やKY訓練を学ぶ事が出来た。
- (5) KYT活動は仕事での安全面や効率化につながるのでドンドンやった方がよい。
- (6) NSKの活動がどんな事をするのか判って良かった。
- (7) ワンポイントKYということが今日の教育でよく判った。
- (8) 今まで判らなかった4R法やブレinstoーミングについても理解出来たし、こうした実習(教育?)は大切と思う。

改善すべき主な意見

- (1) スライドが長過ぎたと思う。また、映像がはっきりしなかったり、音声がよく聞こえなかった。
- (2) QCを行う必要性が今一つ理解出来なかった。KYのみでもよくないか。
- (3) KYシートの内容がよく判らないチームがあったようで、シートの内容説明も欲しい。
- (4) 事例発表とQC教育は逆の方が良い。
(今回は講師の都合で逆にした)
- (5) 明日檜サークルの発表は興味深かった。そのためQC教育のスライドが味気なく思えた。
- (6) 危険予知訓練ではもう少し時間が有ったほうがよい。
- (7) 今年度から学習会も小集団活動に入りより柔軟性をもった・・・という点についてもう少し説明が欲しかった。

(6)NSK部内意見交換会関係資料

平成5年9月30日

NSK推進部会

NSK 部内意見交換会実施要領（案）

1. 主 旨 核燃料技術開発部小集団活動をより活性化するために、各サークルのリーダー及び支援者に集まって頂き意見交換会を開催する。
また、外部講習会参加者の体験を聴くことにより、各サークルの活動を進める上での参考とする。

2. 場 所 J棟 2F 会議室

3. 日 時 平成5年10月20日（水） 13:15～15:30

4. 出席者 ・各サークルリーダー又はサブリーダー
・支援者 各室2～3名
・NSK推進部会委員 各班1～2名

5. スケジュール

13:15～13:20 開会の辞（船坂部会長挨拶）

13:20～13:40 外部講習会参加者の体験報告（その1）
〔報告者：新濃縮 田代清氏〕

13:40～14:00 外部講習会参加者の体験報告（その2）
〔報告者：遠心法 菊地清隆氏〕

14:00～15:25 小集団活動活性化等についての意見交換会

ex. ①TSK改善策の実施半年経過後の状況、変化

②小集団の在り方、リーダーの役割、支援者の役割

③小集団活動をより活性化させるために・・・等について

15:25～15:30 閉会の辞（亀田副部会長挨拶）

以 上

小集団アンケート

出席予定者は、次の点について検討をしておいて下さい。

設問1. あなたのサークル（または、あなたの課（室）のサークル）は十分活性化していますか？

① 活性化している！

それはどのような点ですか？ どのような工夫をしているからと思いますか？

② 活性化していない！

それは何故だと思いますか？ どの様にしたら活性化すると思いますか？

設問2. 今回の意見交換会についてどの様に思いますか？

やることの要否！ “否” という方は、良い案があれば記入しておいて下さい。

あなたのサークル名又は室名： _____

NSK推進部会

平成 5 年 10 月 22 日
 N S K 推 進 部 会
 (教 育 班)

平成 5 年度 N S K 部内意見交換会報告

1. 概 要

各室小集団サークルリーダー、支援者及び推進員による部内意見交換会を以下のとおり実施しました。また、同時に新濃縮 田代氏及び遠心法 菊地氏の協力を得て、外部講習会の参加体験報告会を実施しました。

- (1) 日 時 : 平成 5 年 10 月 20 日 (水) 13:15 ~ 15:45
- (2) 場 所 : J 棟 2 F 会議室
- (3) 出席者 : Pu 開室 影山、平子、大沼、川瀬、笹島、小幡、遠藤、
 (敬称略) 高橋 (邦)、早乙女、宮本
 先端室 今西、中村、渡部 (紀)、杉山、船坂、明珍
 遠心法室 中島、稲田、峯岸、平野、根本、菊地、青柳、
 角川
 新濃縮室 清水、横田、渡部、須藤、川上、田代、亀田、
 佐々木、沖本、
 転換室 吉野、新堀、埴、鈴木、庄司、加藤 (良)
- 以上 39 名
- (4) 内 容 : 13:15 ~ 13:20 開会の辞 [船坂部会長挨拶]
 13:20 ~ 13:48 外部講習会参加者の体験報告 (その 1)
 [新濃縮 : 田代 清 氏]
 13:48 ~ 14:15 外部講習会参加者の体験報告 (その 2)
 [遠心法 : 菊地 清隆 氏]
 14:15 ~ 15:40 小集団活性化等についての意見交換会
 [司 会 : 高橋 邦明 氏]
 15:40 ~ 15:45 閉会の辞 [亀田副部会長挨拶]

2. 所 感

各室のサークルリーダー及び支援者全員の意見が聞けたことは、大変有意義なことであり、本意見交換会を実施する意味は、十分果たしたと考えます。

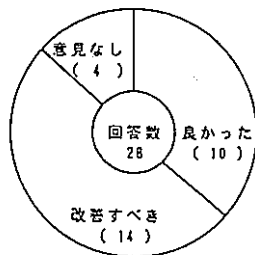
ただし、別添の「意見交換会議事録」、「出席者アンケート結果」を今後の N S K 活動に反映させるかが一番の『鍵』であり、管理者、N S K 推進部、各室推進委員、各リーダー及びグループ員全員が、これらについて『話し合い』、『生かして』頂きたいと考えます。

以 上

設問1. 今回の意見交換会の進め方について

*:重複意見を示す。
(以下同じ)

『良かった点』について



- ・他のサークルの抱えている問題点や意見を聞いてよかった。悩みを抱えているのは自分たちのサークルだけではない。
- ・意見交換会は小集団活動をする上で必要である。意見交換会の意見や、ボトム層の意見が本当に生かされるか疑問だが。
- ・全員に意見を言わせたこと。***
- ・推進委員も本音(と思われる)を言っていたこと。
- ・進め方は良かったと思う。他の課室の小集団の活動が分かり今後の参考に出来ると思う。
- ・外部講習会参加報告により、どのように小集団を進めたらいいのか1案が開けたこと。
- ・一人2~3点の発言があったので良かったと思う。

『改善すべき点』について

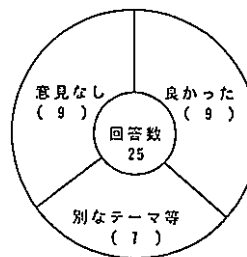
【ここがポイント】

1. テーマ(問題点)を絞って、全員の意見を聞ける場とする。
2. 管理者には各サークルの現状をよく知って貰う。

- ・前もって参加者にアンケートで意見を募り、それをまとめた(レジメ)上で具体的な問題について討論したらよい。*
- ・各室の室長、部長といった管理職の方にも出席してもらい各サークルの現状を知って貰うべきだ。*
- ・全員の意見を聞くのには指名も仕方ないところだが、もっと自然な形で意見が出来る雰囲気欲しい。
- ・サークルリーダー相互の意見交換会か、NSK推進委員との意見交換会がよく判らない。
- ・お酒(お茶をしながら)をまじえて本音の話をする会を開催すると良いかもしれないと思う。*
- ・人数が多いのでは、少人数にし意見を出しやすくしたら? *
- ・1つの意見に対して討論が無かった。
- ・小集団とOCの使い分けが不明確であった。
- ・ざっくりばらんな質問の内容と思えた、もう少し問題の背景を探ってみてはどうか?
- ・支援者、部長との合同のせい、活発な意見が出なかったように思う。

設問2. 今回の意見交換会のテーマについて

『これは良かった』について



- ・「楽しい活動」「負担のない活動」といったある程度前向きな方向性が意見として出たことは意義あることと思う。
- ・外部講習会参加報告は非常に良かったと思う。小集団を行っている者すべてが開けるようにして欲しい。 **
- ・全てgoodテーマだったと思う。*
- ・リーダー、支援者の役割が、他の人の意見を通して理解出来る気がする。
- ・各サークルリーダーが、同じような意見であり安心した。
- ・リーダー意見交換の場で、部長のフォローが開けて良かったと思う。

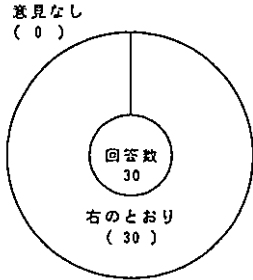
【ここがポイント】

1. 参加者のアンケートでは「これ」といったテーマは見当たらない。NSKの推進方法の勉強が「キー」となるのか。

『こんなテーマが良い』について

- ・テーマを決めない方が話し易いのではないか?
- ・出席者に前もって「テーマ」のアンケートを取ってもよいのではないか?
- ・テーマはもっと絞り込んで具体的なものとしてはどうか?
- ・管理職の意見も聞きたい。
- ・ゲストとして、他企業(日産等)の方を招いて活性化を図るための成功例など聴かせてもらうのもよい。
- ・指名により参加者全員の意見は聞けたが、「本音」の部分が余り出なかったと思われる。事前に意見用紙(無記名)で全員の意見を事務局で集約したもので行うのもよいのではないか?
- ・「活動をより活性化させるために」については、皆が一番に悩んでいることであり、いきなりこのテーマでは意見が出にくいのではないか?

設問3. 小集団活動を活性化するためには



【ここがポイント】

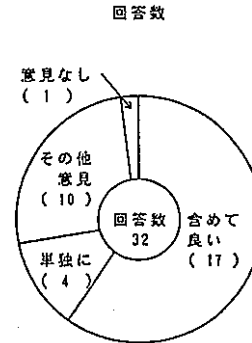
1. これだけの意見が出たことは、NSKは活性化されてないと考えられる。
2. 「楽しい活動」「負担のない活動」にすることが活性化のキーである。

- ・ルール作りを行って欲しい。例えば、勉強会なら3カ月以内とかリーダークラスはとまどう。
- ・発表の期日も小集団でテーマを検討し、決めるようにしては?
- ・KY活動がおそろいになってしまっている。KYの方が重要だと思うので検討して欲しい。

『こんな事をすべきた』又は『是非こんな事をNSKとしてやって欲しい』

- ・各サークルがどのように考え、どのような改善策をたてるかといったようなコンテストはどうか? (遊び心を持つ)
- ・「楽しい活動」「負担のない活動」とはなにか、具体的に、NSK独自の進め方を持って良いのではないか? ***
- ・発表、月報のためでない自ら進んでできるような体制づくり。
- ・成果は、発表会でなく業務改善のように業務に密着させる。
- ・管理職にも小集団活動をしてもらい、見本をみせて貰う。*
- ・小集団とQCの区別をハッキリと考える。
- ・QC手法を使った活動にとらわれない進め方はいけなかい?
- ・活性化の「決め手」は、いかに楽しんで活動できるかがポイントであり、環境づくりが大切、継続性を持たせること。*
- ・小集団が何故必要か、原点に立ち返っての議論が必要である。全員参加としない。(配られた小冊子は格好つけすぎ)
- ・小集団は活性化する必要なし、やりたい人だけ小集団をする。
- ・サークルの中で、リーダーでもなく、発表者でもなく、なにもしない人を意見交換会に参加させるべきである。
- ・小集団をする「本質」をテーマで、理解、周知、徹底を図る。
- ・管理職など上の方から活性化するように心掛けて欲しい。
- ・賞品の額を大幅にアップさせる。
- ・これは難しい問題であり、色々な形で試してみる事が必要だ。
- ・推進委員、リーダー、グループ員が密着になって活動する。
- ・特定の日を決め、NSKディとし業務の一環として活動する。
- ・各課室の発表会にも推進部会のメンバーが出席する。
- ・業務密着のグループで、テーマは自由に選択するべきだ。
- ・小集団活動に対するイメージ作り、小集団対抗大会は?
- ・本日の競争線(貴重な意見あり)からピックアップして。
- ・外部研修でもあった「クロスフィロド」など行ってはどうか?

設問4. 意見交換会に含めた「外部講習会参加報告」の実施について



【ここがポイント】

1. 外部講習会参加の報告は是非とも必要である。
2. 外部講習会参加の報告は単独で開催しても良いが意見交換会等に含めて実施しても問題ない。
3. 「ネガティブ」な意見を待っている人もいることを忘れないこと。

- ・オリエンテーションとQC活動とが結びつかなかった。
- ・外部講習会参加報告が早めに分かり、資料の準備に戸惑うこともなかった。

『外部講習会参加報告』を含めて良かった

- ・含めて良い。良いと思う。*****
- ・外部の講習会がどのようなものか判り参考になった。*
- ・リーダーとして参考になることが有りました。*
- ・報告者の率直な感想が聞けたので良かった。
- ・「しかたなく参加」した意識が、帰った時「良かった、勉強になった」と言うことで説得力があり、興味をもって聞くことが出来た。

『外部講習会参加報告』は単独に行うべきだ

- ・意見交換会で行う必要があるのか? ただし、他の人に知らせる必要はある。
- ・意見交換会とは分離し、回数を多くしたら?
- ・同時に行ったので間延びしたように感じた。
- ・意見交換会と一緒にしたので、時間が少し短かったのでは?

『その他意見』

- ・外部講習会参加報告は、話も面白く良かった。参加することに意義のある講習会の報告が他の人にどれだけ有効か?
- ・業務に密着していない自由な活動と仲よしグループはどこがちがうのか。
- ・外部講習会参加は小集団活性化に必要、初心者も参加すればよい。
- ・サークルリーダーをやっている人(協力会社も含め)に参加してもらえるようにしては?
- ・外部の講師を呼んで研修会(2~3日間)を行っては?
- ・行きたい人は参加するし、行きたくない人は参加しない。
- ・グループのレベルアップができており、支援者のレベルアップを考えて欲しい。
- ・外部講習会の報告より、参加した内容を職場でどの様に生かしたかの報告をして欲しい。

議 事 録		配布先名	各室長	各委員			
		配布部数	1	1			
件 名	N S K 部内意見交換会						
日 時	平成5年10月20日(水) 13:15~15:45			場 所	J棟会議室		
出席者名	サークルリーダー、支援者及びNSK推進委員			作成者名	沖本		
	別紙“出席者名簿”による。			確認証			
項	記 事			処 置			
1	N S K 船坂部会長挨拶						
2	外部QA講習会参加報告(その1)						
	新濃縮室 田代 清氏による「フロンティアミクス『第一線支援者活性化コース』講習会参加での講習内容、所感等について発表して貰った。						
	Q: 今後もこういった講習会に参加したほうが良いか?						
	A: 有意義な体験であった。支援者よりリーダーが体験したほうが良いかと思う。						
3	外部QA講習会参加報告(その2)						
	遠心法 菊地 清隆氏による日科技連「QCサークル推進者コース」講習会参加での講習内容、所感等について発表して貰った。						
4	意見交換会(司会: Pu開室 高橋 邦明氏)						
	司会: TSKの基本方針が今年度より変わったが・・・						
	◎: 自由度は出たことは確かだが、あまり変わったと思えない。			◎: 参加者の意見を示す。 (以下同じ)			
	◎: 勉強会を進めてみて、本来業務が徐々に活性化した。						
	◎: リーダーとして半年、前より自由に出来る形とはなったが、変わったという意識はない。						
	◎: 現場サイドとしては、やっている事は変わってない。						
	テーマの選定の自由度は、出てきたと思う。						

項	記 事	処 置
	司会：今年度から改革されたと言われているのだが、リーダーから聴	
	くかぎり変わってない様だが、どうすればよいか・・・	
	◎：勉強会が「自由」と思っていたが、評価の方向性が難しい。	
	◎：「小集団活動か」「QC活動か」をはっきりさせて欲しい。	
	司会：学習会テーマをやっているサークルがあれば意見を聴かせて欲	
	しいが・・・	
	◎：評価までは考えていない状況である。	
	NSK：上(TSK)から下まで改善が統一されてない面があり、様々な矛	
	盾するところがある。取りあえず活動が停滞すること無く進め	
	て頂きたい。	
	◎：自由になったことが、かえって負担が大きくなり苦痛になる。	
	新人が入ってくる度、蓄積されたレベルがダウンしてしまう	
	方針を具体的にかみくだいて広く知らしめることが必要だ。	
	◎：改善されたといっても、発表会は必ずやってくる。	
	どうしても「発表会に向けての活動」になってしまう。	
	◎：月報もそれなりに書いておこうかという気になる。	
	◎：初めてのリーダーでテーマは上から言われたもので、やり方も判	
	らず苦勞している。	
	◎：発表のために頑張っているのが実情である。	
	司会：支援者の立場としてどうでしょうか・・・	
	◎：アドバイスするということは結構荷が重い。支援者は自ら旗を	
	振る立場でないが、アドバイス以上の指示が見受けられる。	
	◎：KYに対する教育の不足を認識、特に新人にはKYが必要だ。	
	◎：小集団で自ら活性化していると感じている所は少ない筈である	
	「自由に」「楽しく」するのが一番であろう。そのためには、	
	業務密着型で簡単なものから、発表も楽なものがよい。	
	業務外のものには時間の制約もあり、個人の負担が大きくなる。	

項	記 事	処 置
	@ : 支援者としての勉強も必要である。	
	勉強会にもおのずとルールが必要であるので、NSKで調整し	
	て全部が勉強会にならないようにすればよい。	
	@ : 以前外部講習会でQCは「何をやってもよい」と言われた。	
	自由な方針「QC手法を取り入れられるもの」でよいのでは。	
	@ : 従来の縦割りから、他（横）から入った事により活性化された	
	面もあるようだ。	
	@ : TSK改善後の方針に馴染めないところもあり難しいところだ	
	司会：リーダから支援者等に望むもの、求めるものは・・・・	
	@ : 月報のコメントだけでなく、直接小集団の集まりに参加して助	
	言を頂きたい。	
	@ : 支援者には入って貰っており、割と良い状況にある。	
	@ : 現在は毎週会合をもっており、支援者にも入って貰っている。	
	サークル員を動かすためにはこの方がよい。	
	@ : 月2回QCの日を設定、活動がやり易くなった。支援者も出来	
	るだけ参加しており室としても支援者への不満はない。	
	業務仲間だけでテーマの選定も楽、逆に色々な人が集まった所	
	はリーダが苦勞すると思う。	
	@ : 小集団とQCの区別をはっきりさせるべきである。QCにこだ	
	わらず「業務改善」という手もある。	
	強要されているという意識を持たせないことが大切である。	
	@ : 管理職の方の意識改革がなければ進歩しないと思う。	
	管理職の方にも小集団活動をやって貰い、発表会に参加して頂	
	くことを考えて貰いたい。	
	@ : R&DはQCには向かないかも知れないが、逆に小集団ではや	
	り易い筈である。	
	司会：今回出席の支援者で会合によく参加されている方は、挙手して	・ 2～3名で少ない感じ。
	みて下さい・・・・	

項	記 事	処 置
	@ : 支援者についての不満はない。1テーマ/1年間というのは、	
	テーマも広くなり良いと思うが、勉強会もOKになりメンバー	
	の負担が大きくなった。業務密着が基本であり負担も少ない。	
	@ : もうすぐ発表会があるが、発表会は年2回、活動が1年間の場	
	合どうするのか？ 途中でも発表するのか？ バスも可か？	
	NSK : 発表会の方針については、NSKで検討する。また、改める必	
	要があればそのように努力する。アンケートもする。	
	司会 : やる気を起こさせる、達成感を得るためにはどうすればよいと	
	思いますか.....	
	@ : 幸福感、やる気、達成感など言われているが、後ろの方で「そ	
	うさせている」ようなものが見える。	
	@ : 本音で物が言えることが大切である。	
	@ : 挑戦的なテーマは達成感も大きい、その代わり負担にならない	
	「楽しくて」ことも重要である。楽しくなくても負担にならな	
	い「成果を問わない、QC手法も使わない」ものもあって良い	
	のでないか。	
	@ : 色々な人、レベル差が大きく足を引っ張ることも見受けられる	
	人事移動でサークル員が変わることも活動を鈍らせる。	
	@ : 身近な事例を部会の方から出して貰いたい。また、参考になる	
	事例はどんどん紹介して貰いたい。	
	司会 : 活性化について全員に一言ずつお聞きしたい.....	
	@ : 本音でモノが言えること。	
	@ : 女性がリーダの場合には意見は全員に求めるようにする。	
	@ : 小集団をやらない人は、このような席に呼ぶ。	
	@ : すべてサークル員に任せる。	
	@ : 活動は個々でなくサークル全体を考えた進め方が大切である。	
	@ : 活動日を決めてやるのが良い「例えば、金曜日の何時から」。	

項	記 事	処 置
	◎：小集団とQCを区別し、方向性を考えることが必要。	
	◎：この会で「話し合ったこと」をTSKに報告するとかして改善するように。	
	◎：成果重視のままでは、サークル員の負担が大きくなり離れていってしまう恐れもあるので、今後検討が必要であろう。	
	◎：小集団活動の評価が大変である。発表会という形でなく「業務改善」の方へつなげる形にするのが良いのではないか。	
	◎：新人が入ったこともあり、あまり気張らずに楽しく出来るように指導してゆきたい。	
	◎：サークル全員の意見が聞ける「言える」ようなグループに。	
	◎：R&Dでも日産のように成功した例もあり、「何かあった場合人を集めてQCをする（ワーキンググループとして）」という手もある。	
	◎：「遊び心」を持ったQCチームでも良いのではないか。	
	◎：解決策を見つける難しさ、上にあげる時どうしても言葉をつくらうようだ。キタナイ言葉でもOKに・・・	
	◎：アンケート結果の集計されたものが、小集団活動に反映されているかどうか疑問である。今後に十分反映して頂きたい。	
	◎：サークル活動の中に「休む（期限を決め）」ことを設けることはどうだろうか。	
	◎：会合を活発「ひんぱんに開催する」にする。	
	◎：楽しいと感じるようにする。	
	◎：サークル員全員が参加出来るような活動にする。	
	◎：今まで沢山の意見がでたが、これらが「生かせる」ようにする	
	まず、簡単なテーマから進めて充足感、達成感を各サークルに	
	持たせるように管理者にも認識して貰う。そうして徐々にレベ	
	ルアップし、次第に大きなテーマに挑戦してゆくようにする。	
	◎：負担にならないように、1ヶ月で出来るテーマもOKだろう。	

項	記 事	処 置
	@ : 自由なテーマと言われても、発表会もあるし、発表しても R &	
	D の発表となると結果は「奨励賞」になる？等の問題もある。	
	@ : 活動を楽しくやるには、好きなテーマをやるのが一番。	
	司会 : リーダ、支援者の意見を色々お聞きしたが、「負担が少なく」	
	「楽しくやれる」ことが大切ということになりそうだ。	
	どう進めるかが、NSKの今後の大きな課題と考える。	
	今日はありがとうございました。	
	NSK : TSKの方針が変わったが、NSKとしてはあまり変わってな	
	いように思っている。	
	発表会がある限り、成果重視の問題も付いて回るし、勉強会を	
	しているサークルはどうするか等の問題もある。	
	NSK : リーダ、支援者は本日のアンケートを室の推進委員経由で提出	
	して下さい。	
5	NSK 亀田副部長閉会挨拶	
	以 上	
	(注記)	
	以上、意見は極力忠実に記載したつもりであるが、抜けがある	
	かも知れませんが御容赦ねがいます。	
	また、各室の推進委員、サークルリーダー、支援者は本議事録を	
	参考にされ小集団活動の活性化に努められるようお願いいたします。	

NSK 部内意見交換会出席者名簿

【フルタイム燃料開発室】

影山十三男 (リ)	平子 一仁 (リ)	笹島 哲史 (リ)
大沼 紀彦 (リ)	川瀬 啓一 (リ)	
小幡 真一 (支)	遠藤 秀男 (支)	
高橋 邦明 (推/支)	早乙女晴郎 (教)	宮本 寛 (広)

【先端技術開発室】【部庶務Gr】

今西 一文 (リ)	杉山 顕寿 (リ)	渡部 紀子 (リ)
船坂 英之 (部/支)	明珍 宗之 (部/支)	中村 詔司 (リ/推)

【遠心法設計開発室】

中島しおり (リ)	稲田 亀司 (リ)	峯岸 雅俊 (リ)
平野 則夫 (リ)	(菊池 清隆)	
根本鉄四郎 (支)		
青柳 義孝 (推)	角川 章二 (教)	

【新型濃縮技術開発室】

清水 薫 (リ)	横田 勝実 (リ)	渡部 政治 (リ/広)
須藤 収 (支)	川上 重秋 (支)	(田代 清)
亀田 昭二 (部)	佐々木紀樹 (推)	沖本 龍壯 (教/支)

【転換技術開発室】

吉野 正則 (リ)	新堀 輝夫 (リ)	埜 英治 (リ)
鈴木 徹 (支)		
庄司 修一 (推)	加藤 良幸 (安)	

以上 39 名

凡 例

(リ) : サークルリーダー
又はサブリーダー

(支) : 支援者

(部) (推) (広) (教) (安) : NSK 推進部会

(7)NSK発表会関係資料

第 8 回 N S K 発表会 開催報告

93/07/06
推進班

1. 開催期日 : 平成 5 年 6 月 23 日 (水) 13:20~15:50

2. 開催場所 : 展示館 講堂

3. 参加者数 : プル開室 34名
先端室 12名
遠心室 19名
新濃室 17名
転換室 35名
合 計 121名

4. 発表成績 : 最優秀賞

『SPRING』サークル
テーマ名: 「紙ゴミの減容」

優秀賞

『剛体二次』サークル
テーマ名: 「振動計校正の能率向上」

特別賞

『突起物への衝突防止等対策検討ワーキンググループ』サークル
テーマ名: 「グローボックス等作業エリアにおける突起物等への衝突防止対策の検討」

奨励賞

『クリスタル』サークル
テーマ名: 「インパクト捕集量・捕集速度のモニター化」

『クラスター』サークル
テーマ名: 「溶液からのフラーレン回収率向上」

以 上

第 9 回 N S K 発表会開催要領 (案)

- | | | |
|----------------|------------------|----------------|
| 1. 日 時 | 平成5年12月15日(水) | 13:10 ~ 15:50 |
| 2. 場 所 | 展示館 講堂 (200名収容) | (予備: J棟 2階会議室) |
| 3. 発表プログラム | | |
| (1) 開会の辞 | (船坂推進部会長) | 13:15 ~ 13:20 |
| (2) 部長挨拶 | (高橋部長) | 13:20 ~ 13:30 |
| (3) 実施要領説明 | (司会者) | 13:30 ~ 13:35 |
| | (発表方法、審査員、審査方法等) | |
| (4) サークル発表 | | |
| ① 先端技術開発室 | | 13:35 ~ 13:50 |
| サークル名: | | |
| テーマ名: | | |
| ② プルトニウム燃料開発室 | | 13:50 ~ 14:05 |
| サークル名: | | |
| テーマ名: | | |
| ③ 遠心法設計開発室 | | 14:05 ~ 14:20 |
| サークル名: | | |
| テーマ名: | | |
| ④ 転換技術開発室 | | 14:20 ~ 14:35 |
| サークル名: | | |
| テーマ名: | | |
| ⑤ 新型濃縮技術開発室 | | 14:35 ~ 14:50 |
| サークル名: | | |
| テーマ名: | | |
| ————— 休憩 ————— | | |
| (5) 教育用ビデオ上映 | | 15:00 ~ 15:30 |
| (6) 成績発表 | (船坂推進部会長) | 15:30 ~ 15:33 |
| (7) 講 評 | (高橋部長) | 15:33 ~ 15:40 |

- (8) 表 彰 (高橋部長) 15:40 ~ 15:45
- (9) 閉会の辞 (亀田推進副部長) 15:45 ~ 15:50
4. 進行方法 10分間発表 3分間質疑応答
(9分1鈴 10分2鈴 13分3鈴)
5. 審 査
審査方法 NSK発表会評価リストに基づいて行う。
審査員 部長, 各室長(5名), 事務長, 推進部会長, 推進副部長 合計9名
6. 表 彰 図書券
- 最優秀賞 1チーム(大会賞を獲得したチームの中で最高得点を
得たチーム, TSK発表会における核開部代表) ¥9000
- 大会賞 (得点が全配点の80%以上を得たチーム) ¥7000
- 奨励賞 (得点が全配点の80%に満たなかったチーム(達成感会
得賞, プロセス重視賞, 相互啓発賞, 楽しかったで賞)) ¥3500
7. 役割分担
- 会場準備・運営係(5名); 推進班(高橋, 青柳, 庄司, 佐々木, 中村)
- 司 会(1名); ()
- 時計係(1名); 安全班()
- 撮影係(1名); 広報班()
- ビデオ係(1名); 教育班()
- 成績集計(5名); 推進班(高橋, 青柳, 庄司, 佐々木, 中村)
- 表彰係(女性1名); ()
8. 発表要旨
- 別紙の発表要旨フォーマットを用い、発表要旨集を作成。
- 審査員には事前配付、一般には各室2部を事前配布。
- 締切は、12月8日(水)までとする。(各室の推進班員まで提出)

NSK小集団活動発表評価リスト

審査委員名

サークル名						
評価項目		重み付け	評価	評価	評価	評価
基本 評価	1) 一人ひとりの能力向上, 成長につながる活動であったか。	25%	2. 3. 4. 5.	2. 3. 4. 5.	2. 3. 4. 5.	2. 3. 4. 5.
	2) サークルメンバーの実力からみて挑戦的なテーマ又はより安全な職場環境の維持に関するテーマに取り組んだか。	25%	2. 3. 4. 5.	2. 3. 4. 5.	2. 3. 4. 5.	2. 3. 4. 5.
特別 評価	1) 活動後, メンバーが充実感・達成感を得ているか。	12.5%	2. 3. 4. 5.	2. 3. 4. 5.	2. 3. 4. 5.	2. 3. 4. 5.
	2) テーマ解決にあたって一生懸命努力しているか。	12.5%	2. 3. 4. 5.	2. 3. 4. 5.	2. 3. 4. 5.	2. 3. 4. 5.
	3) 他のサークルへの手本として推奨すべき点があったか。	12.5%	2. 3. 4. 5.	2. 3. 4. 5.	2. 3. 4. 5.	2. 3. 4. 5.
	4) 楽しく, 面白く活動しているか。	12.5%	2. 3. 4. 5.	2. 3. 4. 5.	2. 3. 4. 5.	2. 3. 4. 5.
合計得点			点	点	点	点

(注) 採点(該当箇所)に○をつける) 2. 少し劣る 3. 普通 4. 良い 5. 特に良い
合格ライン; 80%

第9回NSK発表会 発表要領

(NSK推進部会)

1. 準備

自己サークルの発表開始時間の10分前にはOHP等発表に必要な物を用意した上で会場に入り、所定の場所に着席していること。また、前のサークルの発表が終了したら、司会者の紹介の後すみやかにステージに上げられるようにすること。

2. 発表時間

発表時間は約10分を目安とする。(発表時間の長短は評点の対象とはなっていないが、発表会の進行の円滑化を考慮して10±2分以内に収まるように調整願います。)

3. 使用機材

NSK推進部会側で用意するOHP1台のみを使用し、(OHPシートを使用のこと) 投影図の指示はOHPシート上で行うこととする。(投影スクリーンへの指し棒の使用は不可) なお、マイクはNSK推進部会側で用意する1本のみとする。

説明用原稿を使用する場合はNSK推進部会側で用意する演台(手元照明付き)の位置で行うものとする。

4. その他

- ・1サークルの発表者人数は説明担当とOHP担当の2名以上を原則とする。
- ・上記使用機材の他、デモンストレーション等にもちいる物(模型、実物、パネル、模造紙等)以外(特にAV機器関係)は原則として使用を禁止する。

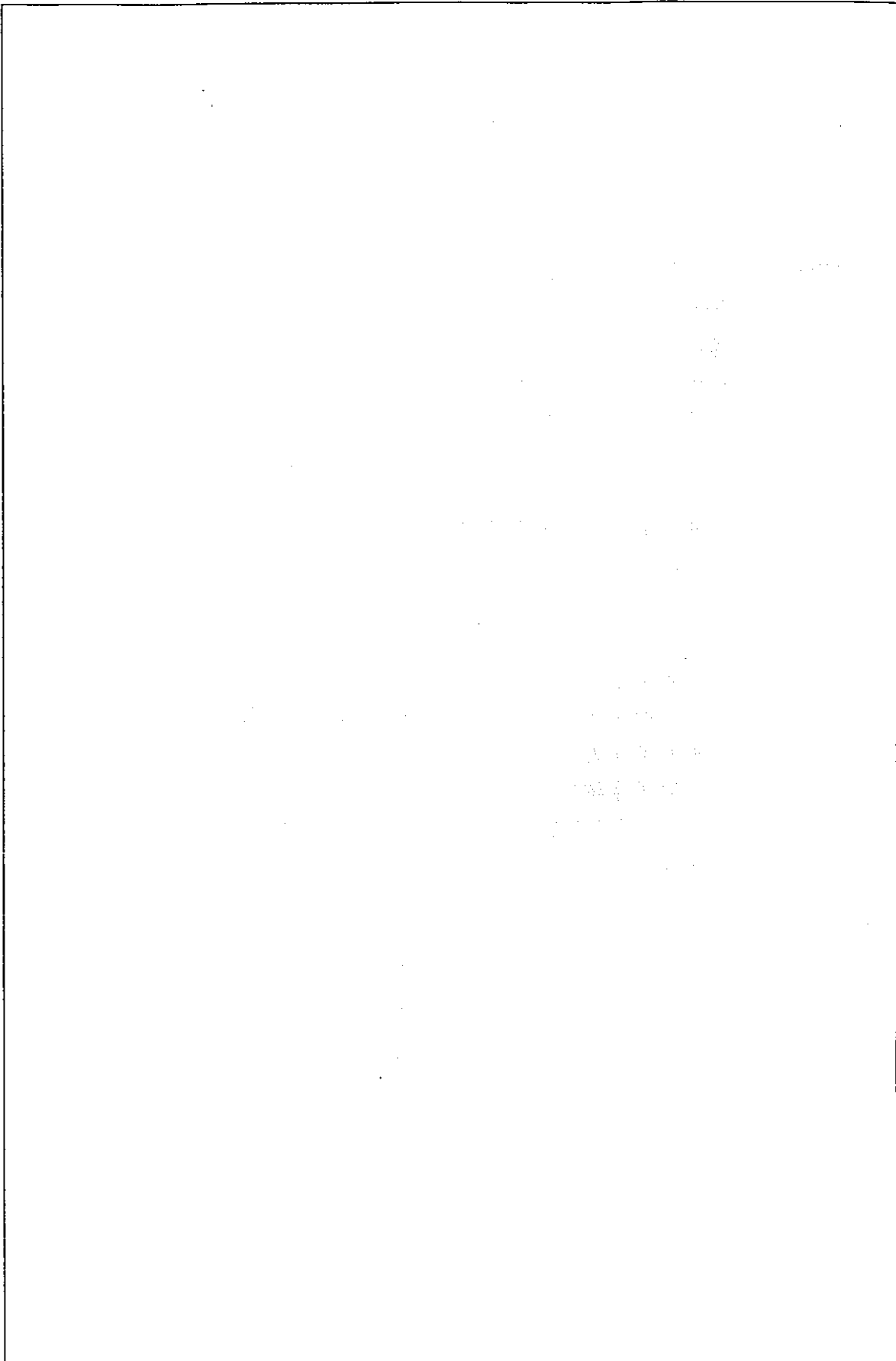
以上、今回のNSK発表会の発表要領に関し、何か不明な点がございましたら各室推進委員にご質問下さい。

第9回 NSK 発表会要旨

テーマ名
「

」

サークル名			
部・課室名			
リーダー名			
メンバー名			
活動期間		会合回数	



第9回 NSK発表会 開催報告

1. 開催期日 : 平成5年12月15日(水) 13:20~15:30
2. 開催場所 : 展示館 講堂
3. 参加者数 :

プル開室	34名
先端室	12名
遠心室	16名
新濃室	18名
転換室	24名
合計	104名
4. 発表成績 :
 - ・大会賞、TSK大会核開部代表
秘蔵ッ子サークル(転換室)
『W-19脱硝皿への給液方法の改善』
 - ・大会賞
宝宝サークル(プル開室)
『粒度分布測定後の試料回収方法の改善』
 - ・相互啓発賞
原子産業設計サービスサークル(遠心室)
『研究開発の芽を生むゼミナール』
 - ・達成感会得賞
阿弥陀サークル(新濃室)
『書類の整理・処分』
 - ・楽しかったで賞
Cold-Fusionサークル(先端室)
『生体に対する周期的な刺激の影響』

以上

(8)TSKへの活動報告

各部・工場における活動報告書
(年間総括報告)

様式-2

核燃料技術開発部

平成 6年 3月10日

(1) サークル編成上の特徴等	サークル数
業務のグループ毎にサークル編成を行っている室 (Pu 開室、転換室、遠心法室、先端室) とテーマを決めてや りたい者を募る方法でサークル編成を行っている室 (新 濃縮室、先端室の一部) とがある。	28
(2) テーマ完結状況 (詳細は別紙様式に記載)	
部全体で38テーマに取り組み、完結させた。	
(3) 部門内教育・研修会、サークル内学習会の実施状況 (安全含む)	
<u>新人教育 (6月2日)</u> 平成5年度新人 (22名) を対象にNSKへの導入を目的としてQC教育及び KY教育・実習を実施した。	
<u>研修会</u> 日科技連主催によるQC教育研修及びブレインダイナミクス主催による小集 団活動研修に当初予定通り、15名全員が参加した。	
<u>外部研修参加報告 (6月29日、7月6日、10月20日)</u> QCサークルリーダーコース受講者より報告を受ける場を設け、今後の活動 の参考とした。	
<u>サークル内学習会</u> 2サークルにおいて、QCに関する勉強会が実施されている。	
(4) 広報紙、刊行物の発行状況	
NSKニュースを5回発行し、NSK発表会開催案内及び報告、部内意見交 換会の報告等を行い、部内サークル員への情報伝達を図った。 また、NSKの年間活動をとりまとめ、年報として刊行することとした。 (編集中)	
(5) 活性化施策について (特記事項がある場合のみ記載)	
NSK活動の一層の活性化を図るため、サークルリーダー及び支援者による 部内意見交換会を実施した。(10月20日)	
(6) 明るく、元気の出る行事等の開催状況	
(7) 年度末活動総括	
NSK推進部会では年間予定行事を計画通り実施し、サークル活動の支援、 とりまとめを行うことができた。また、各サークルにおいては年間1件以上の テーマ完結を達成し、着実な活動を実施した。 なお、別紙に年間活動実績を示した。	

記載スペースが不足な場合、別紙を添付

平成5年度 NSK活動実績

NSK推進部会
平成6年3月9日

項目	平成5年										平成6年			
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
1. NSK推進部会	▼ 4/20	▼ 5/11	▼ 5/25	▼ 6/8	▼ 7/6	▼ 8/6	▼ 9/1	▼ 9/21	▼ 10/13	▼ 11/10	▼ 12/17	▼ 1/14	▼ 2/10	▼ 3/7
2. NSK新人教育			▼ 6/2											
3. NSK発表会			▼ 6/23								▼ 12/15			
4. 外部講習会参加報告会			▼ 6/8	▼ 7/6					▼ 10/20					
5. 部内意見交換会									▼ 10/20					
6. NSKニュースの発行				▼ 7/1	▼ 7/12					▼▼ 11/15	▼ 12/16			
7. 外部講習会	▼ 4/5 ~7	▼ 5/12~14	▼ 6/23~25	▼ 7/5 ~8	▼ 8/4 ~6	▼ 9/7 ~10	▼ 10/4~6	▼ 10/15 ~18	▼ 10/15 ~18			▼ 1/25~28	▼ 2/28~3/3	
		▼ 5/24~27	▼ 6/28~7/1	▼ 7/21~24		▼ 9/9 ~11	▼ 10/13 ~15	▼ 10/15 ~18	▼ 10/18 ~22			▼ 2/1 ~4		
8. TSK関係				★ 7/15 TSK大会					◆ 10/22 QC#-外秋季大会 (茨城地区)			★ 1/19 TSK大会		▲ TSK7ネット

年間完結テーマ 件数表

核燃料技術開発部

平成6年3月31日

課室名	テーマ完結目標 件/年・サークル	完結テーマ数 件/年・サークル	備考
プルトニウム燃料開発室	1	1.7	
先端技術開発室	1	1.3	
遠心法設計開発室	1	1.0	
新型濃縮技術開発室	1	1.0	
転換技術開発室	1	1.8	

(9)推進部会議事録

No.

P 1/2

出張 会議		打合議事録		配布先名	各委員				
				配布部数	1				
件名	NSK推進部会（第1回）								
日時	平成5年4月15日（木）13:15～14:30				場所	J棟会議室			
出席者	船坂、亀田、佐藤、河野、萩原、高橋、早乙女、井坂、青柳				作成者	明珍			
	角川、田中、佐々木、渡部、加藤、庄司、中村、明珍				確認				
項	記 事 内				備考（処置等）				
1	概要								
	平成5年度の第1回推進部会会合として、前年度の委員にも出席して								
	てもらい、引継ぎ打合せを実施した。								
2	配布資料								
	・平成5年度TSK推進計画								
	・平成5年度NSK推進計画								
	・推進部会の構成（案）								
	・業連写し（平成5年度ブレンディングダイナミックス及び日科技連開催セミナーの参加確定について）								
3	議事								
(1)	各班前年度活動概要報告								
	前年度の各委員より以下の通り報告があった。				安全分科会については別途担				
①	推進班（萩原）				当者間で引継ぎを行うことと				
	・年2回のNSK大会の企画・運営を行った。				する。				
	・TSK実施の阻害要因調査のフォローを行った。								
②	教育班（明珍）								
	・新人教育、支援者教育を実施した。								
③	広報班（河野）								
	・NSKニュースの企画、発行を行った。（5回）								
④	事務局（佐藤）								
	・TSKとの連絡窓口として4半期報告の作成を行った。								

動力炉・核燃料開発事業団東海事業所

項	記 事	備 考 (処置等)
(2)	推進部会構成について	
	今年度の各委員の役割分担について原案通り了承された。	
(3)	平成5年度NSK推進計画について	4/21開催のTSK推進部会に
	TSKの推進計画を踏まえてNSKの計画を早急に固める必要がある	NSKの今年度計画を提出す
	ため、推進班にて原案を作成し次回推進部会において議論することし	る必要がある。
	た。	
4	その他	
(1)	教育班より	
	今年度の外部講習会参加者が確定したので、各室推進委員は参加予定	
	者のフォロー（参加伺いの起案等）を行うこと。	
(2)	次回推進部会は4月20日に開催することとした。	
5	各班担当者間引継ぎ	
	議事終了後、各班担当者間での引継ぎを実施した。	
	以 上	

出張 打合議事録 会議		配布先名	各委員				
		配布部数	1				
件名	NSK推進部会(第2回)						
日時	平成5年4月20日 13:15-14:50			場所	J棟会議室		
出席者名	船坂, 亀田, 明珍, 高橋, 中村, 青柳, 佐々木, 庄司			作成者名	渡部		
	早乙女, 角川, 宮本, 井坂, 渡部			確認証			
項	記 事			処 置			
1	概要						
	平成5年度の第2回推進部会会合として, 平成5年度のNSK推進計画(案)の討議を実施した。						
2	配布資料						
	・第2回推進部会議事録						
	・平成5年度NSK推進計画(案)						
3	議事						
	平成5年度NSK推進計画(案)について						
	推進班にて作成した原案について討議を行い以下の3点の修正を持って推進部会として承認した。						
	修正箇所						
①	2. 1) 各職場の実態に即した活動の展開						
	↓ 各職場の実態に即したサークル活動の展開						
②	(3) a. 各室リーダー会の積極的活用						
	↓ 各室リーダー会における支援者・管理者による積極的支援						
③	b. 教育・研修への積極的取り組み						
	↓ 管理者・支援者の教育・研修への積極的取り組み						

動力炉・核燃料開発事業団東海事業所

会議打合議事録		配布先名	各委員				
		配布部数	1				
件名	NSK推進部会(第3回)						
日時	平成5年 5月11日 13:30~15:15			場所	L棟会議室		
出席者名	船坂, 亀田, 明珍, 中村, 沖本, 佐々木, 渡部, 青柳, 角川, 小野瀬, 加藤, 庄司, 高橋, 宮本, 早乙女, 井坂			作成者名	井坂		
				確認証			
項	記 事			処 置			
1	概要						
	平成5年度の第3回推進部会会合として, 平成5年度各室活動計画についての討議を実施した。						
2	部会長挨拶						
	TSK推進部会内容紹介						
	① 各部の推進計画紹介						
	② TSKの新しい進め方 小冊子の配付						
	③ TSKの評価基準について						
3	議事						
	各室で作成した, 平成5年度小集団活動推進計画の報告と, 質疑応答を行った。						
	① Pu開室からの質問						
	KY活動や学習会的活動がテーマとなるなら, どこまでよいのかその枠を決めてほしい。↓						
	サークルがやりたいと思うテーマであれば認めざるを得ない						
	評価基準は難しいが, 出てきたものについて評価するしかない。						
	② 新濃縮からの質問						
	KYや学習会的テーマを考慮して月報のフォーマットを変える必要はないか。↓						

項	記 事	処 置
	<p>今回までのテーマについては、従来の月報を使用し、書きにくいところは書きやすく直して提出する。提出された月報を参考にし、推進班で原案を考える。</p>	
4	<p>その他 平成5年度各班活動計画については、5月25日に開催する会議で検討する。</p>	
	<p>以 上</p>	

会議打合議事録		配布先名	各委員				
		配布部数	1				
件名	NSK推進部会（第4回）						
日時	平成5年 5月25日 13:15～15:00			場所	L棟会議室		
出席者名	船坂, 亀田, 明珍, 中村, 沖本, 佐々木, 渡部青柳, 角川, 小野瀬, 加藤, 庄司, 宮本早乙女, 井坂			作成者名	宮本		
				確認証			
項	記 事			処 置			
1	概要						
	平成5年度の第4回推進部会会合として、平成5年度各班活動計画についての討議を実施した。						
2	部会長挨拶						
	TSK推進部会内容紹介（5月19日）						
	TSK報告会審査基準（案）の紹介があった。						
	TSK報告会審査基準（案）は、まだ案の段階で、TSK推進委員会承認された後、公になる。						
3	議事						
	各班で作成した、平成5年度小集団活動推進計画の報告と、質疑応答を行った。						
	① 教育班						
	・新人教育におけるKY教育の具体的な中身は、安全分科会で考える。						
	・事業団外のQC教育をうけたときは、報告会を開催する方向で検討する。						
	② 推進班						
	Q. 活動月報で、支援者のアドバイスの欄と管理者のアドバイスの欄を一緒にできないか？						

項	記 事	処 置
	A. 支援者の支援内容について書かせたいので別々の欄を設けたい。	
	C. 月報のプロッピーは、NSK事務局で用意する。	
	C. 小集団活動進捗表は、推進班で作る。	
	③広報班	
	NSKニュースの企画、編集、発行を中心に行う。	
	④安全分科会	
	新人教育会でKY教育を実施する。	
	次回 6月8日(PM1:15開始)	
	以上	

会議打合議事録		配布先名	各委員				
		配布部数	1				
件名	NSK推進部会（第5回）						
日時	平成5年 6月 8日（火） 13:15～15:00			場所	J棟会議室		
出席者名	船坂、亀田、明珍、沖本、中村、佐々木、渡部、青柳、角川、庄司 早乙女、高橋、石井			作成者名	角川		
				確認証			
項	記 事			処 置			
1	概要						
	平成5年度の第5回推進部会会合として、各室の小集団活動状 況報告、各班の活動についての討議を実施した。						
2	茨城地区QC大会報告（開催地：土浦）						
	新濃縮室の石井氏による茨城地区QC大会の状況報告						
3	部会長挨拶						
	TSK報告会審査基準（案）は、TSK推進委員会で検討する 予定であるが、コメント等は部会長に連絡する。						
4	議事						
	(1) 各室の小集団活動状況報告						
	① Pu開室						
	活動が停滞しているサークルもあるが、6/14に室の発表会 を実施し、室の代表選考を行う。						
	（効果や歯止めまで進んでいない場合でも発表する）						
	② 先端室			（臨講）に関するコメント			
	6/10に室の発表会を実施し、室の代表選考を実施する。			・小集団として、進めていない			
	小集団の活動時間等については、特に定めていない。			が結構続いている。			
	その他 勉強会（臨講）を定期的に行っている。			（自発的に集まっている）			
				┌ 必要性に迫られている			
				└ 発表者との質疑応答			
				・小集団という雰囲気はない			

項	記 事	処 置
	③ 新濃縮室	
	現在活動計画まで修了している。(本年度から新テーマ)	
	リーダー会は、交替勤務のため開催できず。	コメント
	サークルリーダーからの意見	・各室ともに共通の意見
	活動できないのに「月報」を書くべきなのか？	・楽しく取り組んでゆける雰囲気
	見せかけの活動となってしまうても良いのか？	気づくりが必要
	④ 遠心法室	
	6サークル中の2サークルがテーマ完結。	
	先月の終わりにリーダー会議を実施	
	・電力共研メンバーが5月から加わったため、小集団サークルの再編成を実施し、新サークルについては新たなテーマの選定を実施した。	
	・機能組織にのっとったサークルとなった。	
	(小集団活動のテーマをもとにサークル員の移動を認める)	
	2サークルは継続し、残りは6サークルとなった。	
	(共研メンバーは、小集団サークルに含める)	
	・室代表は、決定した。(支援者と代表者の討議)	
	⑤ 転換室	
	・前年度から引き続き継続している。	
	・室の発表会を6/14に実施する。	
	(支援者と代表者の討議をもとに代表サークルを選考する)	
	・リーダー会議	
	従来までは、活動報告だけであったが、本年度からは	
	外部講習会に参加した支援者による教育や発表会報告の場	
	としたり、1つだけのサークルを取り上げた質疑応答の場	
	としてゆく方針に決まった。	
	・本年度の小集団活動としては、従来通りQC活動を実施。	

項	記 事	処 置
	(2) 各班の活動状況	
	① 推進班	
	・「月報」のフォーマットを各室の推進委員に配布した。	
	・活動計画の最終版が配布された。	
	・NSK発表会の事前説明 (高橋)	
	② 教育班	
	・NSK新人教育実施報告	
	・アンケート集計結果について	
	NSK推進部会 } のコメントを入れて受講者に返した	
	教育班 } 方が良いのではないか?	従来通り、来年度の参考にする
	アンケートを受けっぱなしであるが・・・?	
	・アンケート結果については、各室に1部配布する。	
	③ 広報班 特になし	
	④ 安全文科会 本日は、出席していない	
	⑤ 事務局	
	各班の活動計画の最終版を事務局まで提出すること。	
	次回 7月6日(13:15開始)	

会議打合議事録		配布先名	各委員				
		配布部数	1				
件名	NSK推進部会（第6回）						
日時	平成5年7月6日（火） 13:15～14:45			場所	J棟会議室		
出席者名	船坂, 亀田, 明珍, 中村, 青柳, 佐々木, 庄司, 角川,			作成者名	沖本		
	沖本, 井坂, 渡部, 加藤, 小野瀬			確認証			
	東（先端室）						
項	記 事			処 置			
1	概 要						
	平成5年度の第6回推進部会会合として、各室の小集団活動状況						
	報告、各班の活動についての討議を実施した。						
2	外部QA講習会参加報告						
	先端室 東 侍郎氏による日科技連「QAサークルリーダコース」						
	講習会参加での講習内容、所感等についての報告を受けた。						
3	部会長挨拶						
	第69回TSK推進部会についての報告						
	① 第1回TSK報告会開催要領（案）について			・本要領で実施の予定			
	② 第1回TSK報告会審査要領（案）について			・若干改訂される予定			
	③ 優良活動課室表彰に関する要綱（案）について			・ペンディング（全面見直しの予定）			
4	議 事						
	1) 各室の小集団活動状況						
	① Pu開室						
	・室内NSK発表会を実施した。						
	・次回リーダ会は6/28の予定である。						

動力炉・核燃料開発事業団東海事業所

項	記 事	処 置
	② 新濃縮室	
	・ 6月は試験の都合により各サークルの活動状況がまちまちであった。リーダ会は毎月第1火曜日に実施する。	
	・ リーダ会の意見の中で、発表会の評価がR&Dの場合には内容の考慮や成果等の評価が低いのではとのコメントがあった。	
	③ 転換室	
	・ リーダ会は月末定期的を実施する。	
	・ 5月のリーダ会では各サークルの活動報告の他に、或る1サークルを取りあげ（ヤリ玉にあげ？）活動についてのコメント、	
	アドバイス等の討議を実施したが、非常に好評であり今後も継続してゆく予定である。	
	④ 先端室	
	・ 6/10室内発表会を実施、NSK代表サークルを選考した。	
	・ 各サークルの前期テーマは全て完結し次期テーマを選定した。	
	・ 現在2グループで勉強会を実施している。（毎週木曜日、毎月第4金曜日）	
	⑤ 遠心法室	
	・ 本年度のグループ再編成及びテーマ選定を行った。 (8サークル 但し、1サークルは継続)	
	・ リーダ会は毎月最終木曜日に実施する。	
	2) 各班の活動状況	
	① 推進班	
	・ 6月23日に実施されたNSK発表会の結果について報告	
	・ 2～3運営上の問題点もあったが、121名の参加を得て盛況裏に実施することが出来た。	・ 問題点は次回のNSK発表会に反映
	・ 次回の発表会も出来るなら展示館講堂で実施したい。	

項	記 事	処 置
	② 広報班	
	・「NSKニュース」の第1号が発行された。	・本日各室に配布
	③ 教育班、安全分科会	
	・特になし	
5	NSK活動期間について（部長コメント）	
	“NSKの活動期間は4月開始～翌年3月終了とならないか”	
	について討議した。	
	・活動の完結と発表会との関係で難しい面があり、当面従来どおり	
	次回のNSK、TSK発表に向けて活動する。	
	・来年度はこの方向で検討する。	
6	次回会議予定	
	8月6日（金） 13:15 ~ 15:00	

会議打合議事録		配布先名					
		配布部数					
件名	NSK推進部会（第7回）						
日時	平成5年 8月 9日 13:15～14:50			場所	J棟会議室		
出席者名	船坂, 亀田, 明珍, 青柳, 佐々木, 庄司, 角川, 沖本, 井坂, 渡部, 小野瀬, 高橋, 宮本, 早乙女			作成者名	早乙女		
				確認証			
項	記 事			処 置			
1	概 要						
	平成5年度の第7回NSK推進部会会合として、各室の小集団						
	活動状況報告、各班の活動についての討議を実施した。						
2	部会長挨拶						
	第12回TSK大会についての報告。						
	1) 核開部は僅差で奨励賞（相互啓発寄与賞）であった。			アンケート結果は後日発表する			
	2) 笹尾所長より『大成功で審査も難しかった』との評。						
3	TSK推進部会についての報告（亀田副部会長）						
	1) 第12回TSK大会について						
	・参加者約700名（核開部30名）。						
	・大会賞5チーム、奨励賞6チーム。						
	・合格ラインは60点以上、合格すれば大会賞となる。						
	2) 優良課室表彰の審査要領を策定中。						
	3) TSK大会に庶務関係部所の出る機会が少ないので、大会						
	のテーマを決めてはどうか。 → 従来通りとする。						
4	議 事						
	1) 各室の小集団活動状況						
	① Pu開発室						
	・7/26にリーダー会を実施した。						

項	記 事	処 置
	6月に室内選考会が終わり、7月の活動は停滞気味。	
	各サークルとも対策実施まで行っているが、行き詰っているのが実情である。	
	・部内のKYトレーナーに教育をお願いしたいが、現在トレーナーの制度がどうなっているのか不明。	ラインを通じて依頼して欲しい
	② 新濃縮室	
	・8/3にリーダー会を実施した。	
	7月は交替勤務で活動が遅れ気味である。(1ヶ月程度)	
	③ 遠心法室	
	・7/29にリーダー会を実施した。	
	5サークルのうち対策検討が2サークル、対策実施中が1サークルである。	
	・事故がらみで活動は全般的に遅れ気味である。当事者の所属するサークルでは、データ採取が出来なくなり、活動を中断している。	
	④ 転換室	
	・7/30にリーダー会を実施した。	
	前回のテーマで未解決のサークルがあり、ペナルティとして、次回の発表で2件の発表を行う事となった。	
	⑤ 先端室	
	・7/30にリーダー会を実施した。	
	1サークルが勉強会を取り入れているが、他の3サークルは停滞気味である(テーマを模索中)。	
	2) 各班の活動状況	
	① 教育班	
	・10月に部内意見交換会を予定している。	次回までに実施案を作成する。
	(参加者は管理職、正副リーダー及び推進部会を予定)	
	実施に当たり、出てきた問題点をどのようにフォローする	

項	記 事	処 置
	のか、またテーマを予め決めておかないと意見が発散して	
	しまうのでは等の問題がある。	
	② 広報班	
	・「NSKニュース」の第2号が発行された。	
	③ 推進班，安全分科会，事務局	
	・特になし	
5	次回会議予定	
	9月1日（水） 13:15～15:00	
	（毎月第1水曜とする）	

会議打合議事録		配布先名	各委員				
		配布部数	1				
件名	NSK推進部会（第8回）						
日時	平成5年9月1日（水） 13:15～15:00			場所	J棟会議室		
出席者名	船坂、亀田、明珍、中村、青柳、佐々木、庄司、角川、			作成者名	佐々木		
	沖本、井坂、渡部、加藤、小野瀬、高橋、宮本、早乙女			確認証			
項	記 事			処 置			
1	概 要						
	平成5年度の第8回推進部会会合として、各室の小集団活動状況						
	報告、各班の活動についての討議を実施した。						
2	部会長挨拶						
	標語の応募賞の処分方法について後で討議してもらいたい。						
3	議 事						
	1) 各室の小集団活動状況						
	① Pu開発室						
	・8/30にリーダー会を実施した。						
	1サークルがテーマ選定中						
	NSK後活動が停滞中。今後がんばりたい。						
	② 新濃縮室						
	・8/31にリーダー会を実施した。						
	9月で終了予定のサークルはほぼ予定通り進んでいる。						
	他のサークルは少々遅れ気味である。						
	③ 転換室						
	・8/27にリーダー会を実施した。						
	活動がやりづらいサークルが生じたため、メンバーの編成替え						
	を行った。						

動力炉・核燃料開発事業団東海事業所

項	記 事	処 置
	・ 装置の取扱い方法の勉強会を行いたいのだが、活動の成果（理解の程度）をどのように評価したらよいのか。	・ 自己評価（自分の満足度）が良いのではないか。
	④ 遠心法室	
	・ 現状把握 4 サークル	
	対策 2 サークル	
	活動停止中 2 サークル	
	全体的に遅れ気味。リーダー会で、進めるようお願いした。	
	・ 小集団活動で残業を行った場合の出勤簿の書き方は？	・ 労務に問い合わせる。
	・ 中途採用者等へのQC手法の教育を行う予定はないか。	・ N S K事務局が教育を行う 予定は無い。
		各室にいる外部講習受講者に教育してもらいたい。
	⑤ 先端室	
	・ 8 / 3 0 にリーダー会を実施した。	
	全体的に停滞気味である。	
	2) 各班の活動状況	
	① 安全分科会	
	・ 9 / 3 に事業所の安全分科会が開かれる予定。	
	② 教育班	
	～部内意見交換会について～	
	・ 体験報告の時間を削って、意見交換の時間を延長した方が良いのではないか。	・ リーダー全員を集める機会 は少なく、報告会を行う良 い機会なので削るつもりは ない。
	・ リーダーが不平不満を言っただけで終わってしまう会では意味がない。リーダーが得るもののある会にしたい。	
	・ テーマを絞って、会議に方向性（ポジティブな方向）を持たせてやれば良い。	
	・ 各室、リーダー会等で検討してきて欲しい（次回（9 / 2 1）の推進部会で討議）。	

動力炉・核燃料開発事業団東海事業所

項	記 事	処 置
	③ 広報班、推進班、事務局	
	・特になし。	
	3) その他	
	① QC活動計画書、報告書について(事務局)	
	・各室、新フォーマットで提出してもらいたい。	
	② 標語の応募賞について(部会長)	
	・各個人へ返却の予定である。	
4	次回会議予定	
	9月21日(火) 13:15~	

動力炉・核燃料開発事業団東海事業所

会議打合議事録		配布先名	各委員				
		配布部数	1				
件名	NSK推進部会（第9回）						
日時	平成5年9月21日（火） 16:00 ~ 17:00			場所	J棟会議室		
出席者名	船坂, 亀田, 明珍, 中村, 青柳, 佐々木, 庄司, 角川			作成者名	庄司		
	沖本, 井坂, 渡部, 加藤, 小野瀬, 高橋, 宮本, 早乙女			確認証			
項	記 事			処 置			
1	概要						
	平成5年度の第9回推進部会会合として、NSK意見交換会の実施について討議した。						
2	議事						
	意見交換会の実施について						
	(1) 開催日時： 10月20日（水） 13:15~15:30						
	(2) 場所： J棟2F会議室						
	(3) 外部講習会参加報告者（2名）						
	： 遠心法；菊地氏，新濃縮；田代氏						
	(4) 出席者： ・NSK推進部会より（10名）						
	部会長，副部会長，事務局，教育班3名，						
	推進班2名，広報班2名						
	・各室より支援者2名（10名）						
	・サークルリーダー（18名）						
	新濃縮；3名，遠心法；5名，Pu開室；4名						
	先端室；3名，転換室；3名						
	(5) 当日の会場設定						
	： 機の配置，OHPの準備等を教育班で実施する。						
	(6) 意見交換会の進行役						
	： 司会；推進班 高橋氏，書記；教育班 角川氏						

動力炉・核燃料開発事業団東海事業所

項	記 事	処 置
	(7) 部会への連絡	
	: 教育班で開催案内の起案→部会長より部会へ連絡, 出席要請。	
	(8) 意見交換会の『ポイント』等	
	: 各室より提案された意見及び本討議により出された意見について検討し、類似した内容等を以下にまとめた。	
	① TSKの改善策・・・実施経過の状況について	
	② サークルリーダーについて	
	・ リーダーが支援者に求める事(要望事項)	
	・ リーダーの役割(運営方法, 考え方等)	
	・ リーダーの苦勞(支援者の活動?)	
	③ 小集団活動について	
	・ 小集団の在り方(必要性?)	
	・ 小集団活動のねらい(TSK, NSK, 室内)	
	・ 勉強会的小集団活動をどうすべきか?	
	(9) アンケートについて	
	: 意見交換会についてのアンケートを意見交換会実施後とる。(担当; 教育班)	
3	次回会議予定	
	平成5年10月13日(水) 10:30~12:00 (第10回)	
	以 上	

打 合 せ 議 事 録		配付先名					
		配付部数					
件 名	NSK推進部会 (第10回)						
日 時	平成5年10月13日 10:30 ~11:40				場 所	J棟2階会議室	
出席者	船坂部会長、亀田、明珍、中村、高橋、佐々木、青柳、庄司、				作成者	青柳	
	角川、沖本、井坂、渡部、小野瀬、早乙女				確 認		
項	記 事				備 考 (処置等)		
1	部会長挨拶 ・TSKは本日実施されるため特に無し。						
2	各室の推進状況						
(1)	プル開室 ・8/27に室の推進会議開催 ・現在2サークルがテーマ完了 1サークルは活動報告書提出済。一方の1サークルはテーマに問題が生じたため現時点で活動を終結し、他のテーマへ移行する予定。(困難なテーマであった為、短期的解決が難しく、支援者と協議の上現在のテーマは業務として今後も継続させることとし、小集団としては他のテーマを選定し、新たな活動を進めていく予定) ・その他 ----- 他のサークルも順調に活動中						
(2)	新型濃縮 ・10/5に室の推進会議開催 ・現在1サークルがテーマ完了し、1サークルがテーマ変更を検討中となっている。(業務グループを横断したメンバ構成となっている弊害が出たと思われる。) ・その他 ----- 他のサークルは順調な活動を継続中。						
(3)	転換室 ・10/5に室の推進会議(リーダ会)開催 ・現在停滞ぎみのサークルが1サークルあるが、他のサークルや支援者の協力を得て、活動の建て直しをしている。なお、第2, 4週の金曜日(16:00~)は室全体の活動日時と定めて活動を進めている。 ・その他 ----- 他のサークルは順調な活動を継続中。						

動力炉・核燃料開発事業団 東海事業所

項	記 事	備 考 (処置等)
(4)	<p>先端室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4サークルにて5テーマ取組中であるが1サークルがテーマ選定中となっている。(プル開庶務合同サークル:スタートの時点で情報の行き違いが原因) ・ 他3サークルは活動中 	
(5)	<p>遠心法室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9/30 室内リーダ会議開催 ・ 8サークル中5サークルが対策実施中であり、他3サークルが現状把握・要因解析に止まっており、かなり停滞している。また、先月まで休止中だった1サークルは活動を再開した。(作業法の改善と過去のデータ整理、解析等から活動を再開) 更に、1サークルが活動の内容の絞り込みを行い、活動方向の一部修正を行った。 	
2	各班の活動状況報告	
(1)	推進班, 広報班, 安全分科会 ----- 特に無し。	
(2)	<p>教育班</p> <p>意見交換会についての原案の作成並びに、出席者の取りまとめを行った。</p>	
3	意見交換会について	
(1)	<p>アンケートの内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各設問の内容に関して ----- ある程度設問を定めておいたほうが良いのでは? (集計上も有利) (沖本氏) ・ アンケートの記名に関して ---- 責任ある回答が欲しいので記名としたい。(沖本氏) 	<p>原案通りとする。</p> <p>原案通りとする。</p>
(2)	<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 議事進行について ----- 質問があった場合の対処は? (高橋氏) ・ 会場設営について ----- 当日12:50 から以下のメンバで準備を行う。(沖本氏) (L棟, J棟, G棟, 教育班メンバ) 	<p>主に部会長, 副部会長が対応すべきである。また、NSKと各リーダとの対立的な構図とならないように注意する必要がある。</p>
4	<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サークル内で小集団に関する講習会を行っているところは転換室の他にあるのか? (事務局) ・ NSKの発表会日程はTSK発表会日程が決まり次第定めたい。原案は次回までに作成する予定。(推進班) 	<p>無い。</p> <p>次回11/10, 13:15 J棟予定</p>

No.

P 1/2

会議打合議事録		配付先名				
		配付部数				
件名	NSK推進部会（第11回）					
日時	平成5年11月10日 10:15～12:00			場所	J棟2階会議室	
出席者名	船坂部会長、亀田副部会長、明珍、高橋、佐々木、青柳			作成者名	高橋	
	角川、渡部			確認証		
項	記 事			処 置		
1.	部会長挨拶					
	・TSKは本日午後実施されることから特になし。					
2.	前回議事録確認					
	前回の議事録は原案通り承認された。					
3.	各室の推進状況					
(1)	プル開室					
	・10/25に室推進委員会を開催し、11/29に室内発表会を実施する予定。その時、テーマが終了していないチームは経過報告を行う。					
	・室内発表会の評価方法については、室内で検討中。					
(2)	新濃室					
	・10/26に室の推進会議を開催し、NSK意見交換会の反省会を実施した。					
	・室内発表会については未定。（実施しない方向）					
(3)	遠心室					
	・10/25に室の推進会議を開催。					
	・8チーム中、1チームが現状把握、要因解析段階で、残りチームは対策段階にきているが、テーマが終了しそうなチームは1チームだけの見込みである。					
	・11/24～29の朝礼時に2チームずつ発表を行う。（全サークル対象とし、未完結チームは経過報告）					
(4)	先端室					
	・10/28にリーダー会を開催、活動開始が遅れていたサークルもテーマ選定を行い、活動を開始した。					
	・室内発表会については、検討中。					

動力炉 核燃料開発事業団 東海事業所 核燃料技術開発部プルトニウム燃料開発室

No.

3.	部内意見交換交換会報告	
	・意見交換会時に行ったアンケートで寄せられた意見のフォローは、2月に実施予定の部長を交えた意見交換会に反映させることとし、今後検討する。	
	・議事録、アンケート結果は、NSK委員から各室リーダーに配布し、室内で意見を収集し、次回NSK推進部会で紹介し、上記検討に資する。	
	・意見交換会での意見等でNSKで対応できないものはTSKに上げる。	
4.	NSK発表会開催要領（案）について	
	・プログラムの教育用ビデオ上映は、『動燃'93』のビデオ上映とする。	
	・4.進行方法に事前に発表要領を配布することを追記する。	
	・6.表彰に関して、核開部代表サークルの賞品は、副賞として他事業所を訪問してNSK活動の紹介を行うことに変更する。また、奨励賞の金額を5000円とする。	
	・司会は宮本さん（プル開室）とする。	
	・NSK発表会開催要領（案）については、上記の点を変更し、了承され、11/10の部会に諮ることとなった。	
5.	その他	
(1)	亀田副部長より、QCサークル秋季地区大会（茨城地区）への参加報告がなされた。	
(2)	今回は、12月17日（金）とする。	
	以上	

出張 会議		打 合 議 事 録		配布先名	各委員					
				配布部数	1					
件 名	N S K 推 進 部 会 (第 1 2 回)									
日 時	平成 6 年 1 2 月 1 7 日 (木) 1 3 : 1 5 ~ 1 5 : 0 0						場 所	J 棟 会 議 室		
出席者	船坂、亀田、早乙女、高橋、沖本、佐々木、渡部、青柳						作 成 者	中村		
	加藤、小野瀬、中村						確 認			
項	記 事 内						備 考 (処 置 等)			
1	部会長より									
	・ 1 2 / 1 5 の N S K 発 表 会 へ の 協 力 に 感 謝 す る 。									
	・ T S K ス ロ ー ガ ン の 応 募 賞 (1 件 3 0 0 円) の 配 布									
2	各室推進状況報告									
(1)	Pu開室									
	・ 1 1 / 2 9 に P u 開 室 の 選 考 会 を 実 施 し た 。									
	・ 6 サークル (途中サークルも含めて) 報告を行い、従来の評価を取						Q C の 考 え を ち ゃ ん と 取 り 入			
	り入れて評価を行った。						れているかでも評価			
(2)	新濃縮室									
	・ 1 2 / 7 に 新 濃 縮 室 の 選 考 会 を 実 施 し た 。									
	・ 4 月 の 選 考 会 で 2 位 の サ ー ク ル を 室 の 代 表 と し て 選 出 し た 。									
	・ 濃縮試験の関係上、一部に活動できないサークルがあった。									
(3)	転換室									
	・ 1 2 / 3 に 転 換 室 の 選 考 会 を 実 施 し た 。									
	・ 今年からテーマ途中でも発表させた。									
	(5 サークル中、4サークルが2テーマを発表した。)									
(4)	先端室									
	・ 1 2 / 6 に 先 端 室 の 選 考 会 を 実 施 し た 。									
	・ 4 サークル + P u 開 室 庶 務 サ ー ク ル が 途 中 テ ー マ の も 含 め て 簡 単 な 報									
	告を行った。									

項	記 事	備 考 (処置等)
	・今後、4サークルは、グループの組み換えを行い、新テーマで活動 を行っていく方向である。	
(5)	遠心法	
	・12/24～29、選考会開催。	新評価基準で評価を行った。
	・朝礼の際、1日2サークルずつ発表を行った。 (2サークル完結、6サークル継続中。代表サークルはテーマ継続 中であったが、内容を検討して代表に選出した。)	
3	各班の活動状況報告	
(1)	広報班	
	・NSK発表会をNSKニュースに出すかどうか検討中。	
(2)	教育班	
	・意見交換会について。(船坂部会長) 部長との意見交換会を3月中旬頃、引継ぎを兼ねて開催してもらい たい。	
(3)	安全分科会	
	・TSKの活性化調査委員会 各リーダー、支援者へアンケートを配布する予定。	
(4)	推進班	
	・NSK発表会の報告 合計104名の出席を得た。	前回120名参加
	新しい評価方法を用い、8割の評価を得たサークルに大会賞を与え た。	次回から大会賞がどんどん 出てくるだろう(高橋氏)
	前回は講堂でやったので、準備は滞りなく出来た。	研修室はスケジュールが一杯
	ビデオ上映に不手際があった。	で使えない。

動力炉・核燃料開発事業団東海事業所

項	記 事	備 考 (処置等)
	OHPが見にくかった。	プロジェクターのスクリーン
	次回, ENTRYの四階 (総務課) が使用できれば, と考えている	に投影したため。
	審査について, 発表の方法の評価が抜けていたが? (亀田副部長)	TSKでは評価から除いた。
	TSKの審査員構成は, 年齢に幅を持たせている。女性も加えたら良	
	いのではないか? (亀田副部長)	
	審査員の世代構成も考える時期に来ているのだろうか? (船坂部長)	
	次回の課題として検討する価値はあるのではないかと思います。	
	(亀田副部長)	
4	意見交換会報告に対する意見集約	
(1)	遠心, 先端, 新濃, プル開室特に無し	
(2)	転換室	
	・テーマをもっと絞ってやればもっと考えがまとまっただろう。	
	・支援者クラスの活性化の方法を考えて欲しい。	
(3)	その他	
	・加藤氏 (転換室) を中心に, 各室1名ずつの構成メンバーで,	
	交換会とアンケートに基づいて改善案をまとめてもらいたい。	
	(推進部会)	
5	その他	
(1)	NSK推進部会の飲み会について。 (亀田副部長)	
	・1月中に新年会として飲み会を行う。	
	・幹事 (仮) : 角川氏, 庄司氏	
(2)	TSK大会委員として佐々木氏 (新濃) が参加。	

No.

P 1/3

会議打合議事録		配布先名					
		配布部数					
件名	NSK推進部会 (第13回)						
日時	平成5年1月14日13:15-14:00			場所	J棟2階会議室		
出席者名	船坂部会長, 亀田副部会長, 明珍, 高橋, 沖本,			作成者	加藤		
	渡部, 中村, 青柳, 宮本, 佐々木, 加藤			確認証			
項目	記事			備考 (処置等)			
1	部会長挨拶						
	・TSK発表会への参加は、業連にある通りのメンバーで						
	2~3名/サークルとすること。						
	・TSK発表会の実行委員には佐々木氏, 審査員には高橋						
	氏に出てもらっている。						
2	各室推進状況						
(1)	遠心法						
	12/22にリーダ会を実施。						
	テーマを完結した2サークルが新テーマに取り組み始めた						
(2)	先端室						
	室会が実施出来ず, リーダ会を開けなかった。						
	12/7の室内選考会以降もテーマの完結していないサー						
	クルが活動を行っている。						
(3)	転換室						
	12/27にリーダ会を実施。						
	リーダ会時に室長指導が有り, 12月の発表会でテーマを						
	完結させたサークルは, 3月末で完結できる新テーマとす						

動力炉・核燃料開発事業団東海事業所

項	記 事	処 置
	るように。	
(4)	新濃室	
	1 / 1 1 にリーダ会を実施。	
	NSK発表会の感想を聞いた。	
	・テーマの幅が広がり、5年度の改革は良かった。	
	・転換室とのレベル差がある。	
	今後、小集団の定期活動日（時間）を設ける予定。	
(5)	Pu開室	
	室会が実施出来ず、リーダ会を開けなかった。	
	6サークル中、1サークルがテーマが決まらず活動できな いでいる。（他サークルは順調に活動中）	
(6)	その他（亀田副部長）	
	・平成6年度より、月に1回程度の定期活動日（時間）を 部の方針として出そうかと考えているが支障は無いか？	
	①先端室 業務上難しいサークルも有ると思う。	
	②Pu開室 部の方針であれば業務等の調整は可能。	
	③遠心室 部の方針であれば業務等の調整は可能。	
	・NSK発表会を年に1回とし、1位と2位のサークルを TSK発表会への代表サークルとしてはどうか？	良いと考える。
3	各班の活動状況報告	
(1)	広報班	
	・NSKニュースの第5号を昨年末に発行した。年度末に 第6号を発行する予定。	

項	記 事	処 置
(2)	教育班	
	・ 3月中旬に実施する意見交換会を今後検討していく。	
(3)	安全分科会	
	・ T.S.K 活性調査委員会のアンケート調査が2月頃にある	
(4)	推進班	
	・ 特に無し	
(5)	意見交換会アンケートに基づく改革案	メンバー
	加藤が素案のまとめを完成次第、会議の招集を行う。	船坂部会長, 亀田副部会長, 明珍
	6サークル中, 1サークルがテーマが決まらず活動できな	事務局, 角川, 中村, 沖本, 加藤
	いでいる。(他サークルは順調に活動中)	早乙女,
4	その他	
(1)	NSK推進部会の新年会について	
	幹事2名ともが欠席のため, 決定次第連絡のこと。	
(2)	T.S.K 発表会のアトラクションは, 今回エアロビのリラッ	
	クス体操が5分と心理テストを20分行う。	
	— 以 上 —	

動力炉・核燃料開発事業団東海事業所

出張 会議		打 合 議 事 録		配布先名	各委員						
				配布部数	1						
件 名	NSK推進部会（第14回）										
日 時	平成6年2月10日（木）15:00～16:10						場 所	J棟会議室			
出席者	船坂、亀田、早乙女、井坂、沖本、佐々木、渡部、青柳						作成者	明珍			
	角川、庄司、中村、明珍						確認				
項	記 事						備 考（処置等）				
1	部会長より										
	・TSK 部会にて1/19の大会の総括を行った。										
	・TSK 部会が平成5年度活動のアンケートを実施する予定。										
2	各室推進状況報告										
(1)	Pu開室										
	・1/31にリーダー会を実施										
	・年度末でテーマを完結させるよう伝え、了承された。										
	・対策まで実施 ----- 3サークル										
	要因解析まで実施 ----- 1サークル										
	現状把握まで実施 ----- 1サークル										
	テーマ選定中 ----- 1サークル という状況である。										
	・リーダー会にてひとりQCとして活動を行ってもよいかとの質問があった。										
(2)	新濃縮室										
	・2/8に室内会議を実施										
	・1月より、日を決めて室全体で一斉に小集団活動をやることにした										
	・1サークルは必要物品の納入が遅れていることに伴い、活動が遅れ										
	ぎみである。										
	・残り3サークルについては3月末までに現在のテーマを終える見込										
	み										
(3)	転換室										
	・1/28にリーダー会を実施										
	・3月末を目処にテーマ完結させるように伝えたが、活動状況をみる										

項	記 事	備 考 (処置等)
	と3月完結は難しいサークルもある。	
	・女性サークルが弁当の管理というテーマに取り組んでいる。他室で活用できるようにであれば紹介したい。	
(4)	先端室	
	・1/31にリーダー会を実施	
	・1サークルが2テーマを並行して実施し、実質5サークルで活動していたが、テーマ完結に伴い4サークルに復した。	
	・庶務サークルは出勤簿の管理をテーマとして月末にデータ収集を行っている。	
(5)	遠心法室	
	・8サークル中2サークルが完結し、テーマ選定中	
	・2サークルはまもなく完結	
	・残り4サークルは対策実施中	
	・3月末に各テーマが完結したら室内発表会を実施するかどうか検討中	
3	各班活動状況報告	
	・各班とも報告、審議事項特になし	
	・事務局よりNSK 年報作成について推進部会委員の協力を依頼した。	
	以 上	

打 合 せ 議 事 録		配付先名	各委員			
		配付部数	1			
件 名	NSK推進部会（第15回）					
日 時	平成6年 3月 7日 13:15～15:00			場 所	J棟2階会議室	
出席者	船坂部会長、亀田、明珍、中村、佐々木、青柳、宮本、庄司、			作成者	小野瀬	
	渡部、小野瀬、			確 認		
項	記 事			備 考（処置等）		
1	部会長挨拶 ・特に無し。					
2	各室の推進状況 (1) プル開室 ・3/7に室の推進会議開催 ・1月に比べ2月は再処理事故の並行展開のため活動は停滞気味。 各サークルの活動状況 対策実施・・・3サークル 要因解析・・・1 ” 効果確認・・・1 ” 新テーマ選定・・・1 ” 3サークルについては、3月末迄に完結させる予定。 他サークルについては、継続する。					
(2)	新型濃縮 ・3/1に室の推進会議開催 ・3月末迄に全サークル完結させる予定。 各サークルの活動状況 1サークルはほぼ完結 2サークルは厳しい状況であるが3月末迄に完結させる。 4月から、再グループ編成する。					
(3)	転換室 ・2/25に室の推進会議開催 ・活動期間として残り1月であることを各サークルに周知。 各サークルとも平均して進行している。 3月末迄に全サークル完結させる予定。					

動力炉・核燃料開発事業団 東海事業所

項	記 事	備 考 (処置等)
(4)	<p>先端室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2 / 28 に室の推進会議開催 各サークルの活動状況 2サークルと庶務サークルは、3月末迄に完結させる予定。 1サークルは、あと半年くらいかかる予定。 	
(5)	<p>遠心法室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2 / 24 に室の推進会議開催 各サークルの活動状況 対策確認 4サークル まとめ 2 " 新テーマ選定 2 " ・ 室内発表会をGW前後に開催する予定。 	
3	<p>NSK活動の取り組みについて (案)</p> <p>1. 活動の取り組み方法について</p> <p>(1)活動日の統一化 活動がスムーズにできる。</p> <p>(2)QC大会 積極的に参加し、自分たちの活動に反映する。</p> <p>2. NSK発表会開催要領について</p> <p>(1)開催日を年1回とする 1年間の活動をしているサークルにとっては、中間発表をすることもなくなり活動がスムーズに展開できる。</p> <p>(例) 5月末</p> <p>(2)審査員の入れ替えを行う 審査員構成は10名とし、部長、事務長、推進部会1名、女性1名の計4名。</p> <p>(例) 毎年変更</p> <p>他、各室の管理職、主査、室員の計6名。</p>	<p>. . . 意 見 等 . . .</p> <p>・ 金曜日が取り組みやすいのではないかと。</p> <p>・ 転換室では(金)午後が活動しやすいと決まり、月/2回活動している。</p> <p>・ 参加者は少なくとも推進委員1名、その他1名ということにした方が良いのでは。</p> <p>・ 活動途中で発表するのは抵抗があり、また評価も下がってしまうため、年1回にした方がやりやすくなる。</p> <p>・ 発表会への参加意識向上。</p> <p>・ 審査の公正化。</p>

項	事 記	備 考 (処置等)
4	<p>(3)表彰について、 最優秀賞を作り大会賞の上位2チームに副賞を設ける。 (金一封的なもの)・・・管理職の承認を要す。</p> <p>NSK年報(案)</p> <p>1. 各班活動状況 H5年度、各班活動計画書にもとずき報告書をまとめる。</p> <p>2. 各室活動状況 H5年度、各室活動計画書にもとずき報告書をまとめる。</p> <p>3. 添付資料 ・NSK ニュース ・意見交換会 アンケート ・各班、各室の活動計画書 三 等を付け加える。</p>	<p>※3月末までに報告書を取り まとめ事務局まで提出する。</p> <p>”</p>
5	<p>部会長より</p> <p>先日のアンケートで、意見・不満等はどうだったか。</p> <p>・アンケートに書いたことがTSKでどのように取上げられるのか ・設問が書きずらい・・・答えが複数でもよい。 ・・・同じ様な質問が多い。</p>	
6	<p>次回の部会開催日は、後日連絡する。</p>	

(10)NSK部内意見交換会アンケート総括

平成5年度NSK部内意見交換会アンケート総括

NSK意見交換会アンケート総括W.G.

1.はじめに

平成5年10月20日に実施した平成5年度NSK部内意見交換会時のアンケート集計結果の総括を行い今後の活動及び次回の意見交換会等に反映する。

2.アンケートによる意見と処置

なお、処置等で実施者等の記載なきものは、意見交換会の実施主体であるNSK推進部会教育班とする。

設問1 意見交換会の進め方について

良かった点について

意見（要約）	処置
①全員に（一人2～3点）意見を言わせた。 ②司会進行が良かった。 ③他のサークルの悩みを聞いた。参考となる意見を聞いた。	①、②今後の意見交換会実施時の司会進行役に参考にしてもらう。 ③意見交換会を定期的に継続して実施する。

悪かった点について

意見（要約）	処置（案）
①支援者、部会長等が同席していたので活発な意見が出なかった。 ②部、室長にも出席してもらい、各サークルの現状を知ってもらうべき。 ③事前アンケートで意見を募り、得られた具体的な問題点について討議した方が良い。 ④サークルリーダー相互の意見交換会か推進委員との意見交換会なのか主旨がわからない。 ⑤もう少し問題の背景を探ってみては？。 ⑥意見に対して討論が無かった。 ⑦自然な形で意見交換ができるような工夫が欲しい（対策案 少人数で実施。茶、酒を出す。） ⑧QCと小集団の使い分けが不明確。	①、②今後の意見交換会を開催する際には、部会長、事務局、教育班で参加者等についても十分検討してより良い会となるようにする。また、参加者に関しては、相反する意見であるため、階層を変える等の処置をし2回実施する。 ③、④、⑤、⑥意見交換会の参加者への事前準備等についても十分に実施前に検討・準備作業を行う。 ⑦実施場所、方法等について検討する。 ⑧使い分ける場合には口頭説明を行う。また、NSKニュース等で教育する。

設問2 意見交換会のテーマについて
良かった点について

意見（要約）	処置（案）
<p>①外部講習会参加報告は良かった。 ②全て良いテーマだった。 ③ある程度前向きな意見が出た。 ④リーダ、支援者の役割が他の意見を通して理解できた。 ⑤他のリーダも同様な意見をもっているのが判り、安心した。 ⑥その場で部会長のフォローが有り、良かった。</p>	<p>①, ②, ③, ⑥今後の実施時に参考とする。 ④, ⑤意見交換会の有効性を確認できた。</p>

改善すべき点について

意見（要約）	処置（案）
<p>①テーマを決めない方が話しやすい。 ②具体的なテーマの方が良い。（活動をより活性化させる方法は、皆が悩んでいる事である。これがテーマでは意見が出にくい） ③指名で意見を求めたので本音が出ていないのではないか？事前アンケート等で意見集約しては。 ④管理職等の意見も聞きたい。 ⑤ゲスト講師に成功例を紹介してもらおう。</p>	<p>①, ②相反する意見もあるので、十分検討する。 ②, ③設問1 悪かった点③～⑥意見を含めて検討する。 ④設問1 悪かった点①②意見を含めて検討する。 ⑤実施方法等を検討する上で参考とすることとし構内従業員でも講師となりうる人材の調査を含めて検討する。</p>

設問3 小集団活動を活性化するためには

意見	処置
<p>①賞金額を大幅にアップさせる。 ②活動日を定める。</p> <p>③活性化(案)のコンテスト実施 ④楽しい活動、負担無い活動について明らかにしてNSK独自の進め方を持って良いのでは? ⑤発表、月報のためには無い自ら進んで出来るような体制づくり</p> <p>⑥小集団とQCの区別をはっきりさせる。 ⑦QC手法にとられない進め方ではいけないか?</p> <p>⑧各室の発表会にも推進委員が参加する。</p> <p>⑨成果は、業務に密着させる。 ⑩推進委員、リーダー、グループ員が密接になって業務密着のグループでテーマは自由に選択すべき ⑪活性化のポイントは、いかに楽しんでやるかにある。環境づくりが大切、継続性をもたせること。 ⑫小集団活動が何故必要か、原点に戻って議論する必要がある。全員参加としない。</p> <p>⑬管理職等から活性化するように。 ⑭管理職にも見本をみせてもらいたい。</p> <p>⑮小集団サークル対抗ゲートボール大会の実施 ⑯クロスフィルドの実施</p> <p>⑰サークル員のうち何もしない人こそ意見交換会等に参加させるべき</p> <p>⑱小集団活性化必要なし。やりたい人だけやれば良い</p>	<p>①, ②平成6年度NSK推進計画にて反映する</p> <p>③~⑤リーダクラスの意見交換会等で検討する等により、NSK活動に反映する。</p> <p>⑥, ⑦教育等の機会を増やし、周知・教育を図る。</p> <p>⑧NSK推進委員会で検討する。</p> <p>⑨~⑫これらは⑫の最後の部分を除き、小集団活動の基本的理念に合致する。</p> <p>⑬, ⑭管理職が手本となるような発言・行動を行う様に心掛けて頂く。</p> <p>⑮, ⑯これらは、教育やレクレーションの場で実施していただきたい。</p> <p>⑰室内での教育の実施及び参加者選定時に考慮いただきたい。</p> <p>⑱ _____</p>

設問4 意見交換会に含めた外部講習会参加報告について

肯定的意見

- ①良い。参考になった。
- ②意見交換会と分離して単独で数多く実施すべき。同時に行ったので、意見交換会が間延びした、参加報告が短かった。
- ③サークルリーダークラス（協力会社を含む）も外部講習会等に参加すべき。小集団活動の活性化には、外部講習会参加は有効であり、初心者も参加させるべき。
- ④外部講師を呼んで講習会を所内で実施しては。
- ⑤報告は、内容よりも職場でどの様に活かしたかを報告して欲しい。

処置

- ①、②意見交換会、外部講習会参加報告会のスタンス等について検討を行い、原案をまとめた時点でNSK推進部会等で協議を行う。
- ③部会等に話を上げて協力会社幹部にも働きかけ、TSKから参加できるようにする。また、NSKとしても外部講習会に参加できるように検討する。
- ④TSK推進委員会に話を上げて予算等を含めて検討してもらう。（実現すれば③の処置も比較的容易になる）
- ⑤報告内容についての検討を行い、予め報告者に伝えておく。

否定的意見

- ①参加することに意義のある講習会について報告しても他の人にどれだけ有効か？
- ②行きたい人は参加するし、行きたくない人は参加しない。
- ③サークル員のレベルアップがなされてきているのだから、支援者のレベルアップも考えて欲しい。
- ④業務に密着していない自由な活動と仲よしグループはどこが違うのか？

処置

- ①外部講習会参加報告会のスタンス等について検討を行い、原案をまとめた時点でNSK推進部会等で協議を行う。
- ②行きたくないといっているような人にこそ講習会等に参加してもらい、意義等を理解してもらう。
- ③支援者クラスもがんばっていることをリーダークラス等に示すためにも講習会参加報告会等の講師依頼をする際の人選等についても検討を行う。
- ④NSK推進部会及びTSK推進部会で自由な活動の定義を示せるように検討する。

— 以上 —

(11)NSK活動改善案

NSK活動の取り組みについて

平成6年3月31日

NSK推進部会

1. 活動の取り組み方法について

- (1) NSKの活動を進めるにあたり、各室が少なくとも毎月1回の独自の統一活動日を決め、年間の業務計画に当該実施日を組み込み小集団活動を行う。

(例) 毎月第2金曜日又は第4金曜日

時間帯 9:00~10:00又は16:00~17:00

【効果】

年間の業務計画に組み込むことにより業務の一貫として小集団活動をスムーズに実施することができる。

- (2) QCサークル関東支部茨城地区大会に少なくとも2名程度が積極的に参加する。

(添付資料参照)

月	大会名称	所として 参加	参加者		合計
			推進委員	推進委員以外	
4	選抜大会		プル開室庶務	新型濃縮室	2名程度
5	春季大会	○	転換室	プル開室	2
7	夏季大会		先端室	転換室	2
9	躍進大会		遠心法室	先端室	2
10	秋季大会	○	新型濃縮室	遠心法室	2
12	チャンピオン大会		プル開室	新型濃縮室	2

【効果】

茨城地区の他のQCサークルの活動状況を見聞することにより、NSK小集団活動の励みとし、その取り組み方に反映することができる。

- (3) QCサークル関東支部え主催する研修会に協力会社の室員の少なくとも2名程度が積極的に参加する。

(添付資料参照)

月	研修会名称	参加者		合計
5	新手法研修会	プル開室	遠心法室	2名程度
6	男性リーダー研修会	転換室	新型濃縮室	2

【効果】

- ① 職員はQC手法等を取得するための研修会に概ね参加しており、小集団活動グループを構成する協力会社の室員にQC手法等を取得させることにより小集団活動を更に促進することができる。
- ② 小集団活動のグループリーダーが協力会社の室員である場合もあり、グループの運営を円滑に進めることができる。

2. NSK発表会の開催要領について

(1) 開催日を年1回とする。

(実施月) 毎年5月～6月

(参加チーム数) 2チーム/室×5室=10チーム

【効果】

- ① 活動テーマを1年間としている活動グループにとっては、途中段階で中間発表をすることもなくなり、活動をスムーズに展開することができる。
- ② TSK大会に振り回されることもなく、NSKとして独自性のある活動を行うことができる。

(2) 審査員の構成を以下の10名とする。

核燃料技術開発部：部長，事務長，女性1名 計3名

推進部会：部会長，推進委員1名 計2名

〔例〕 (毎年変更)

プルトニウム燃料開発室：室員	1名	}	計5名
転換技術開発室：管理職	1名			
先端技術開発室：室員	1名			
遠心法設計開発室：管理職	1名			
新型濃縮技術開発室：室員	1名			

(但し 室員のうち少なくとも1名は協力会社の室員とする。)

【効果】

- ① 審査の構成員を広げることにより、発表会への参加意識が向上する。
- ② 審査の構成員を広げることにより、審査の公正化をより一層増すことができる。

(3) 表彰の種類について

			図書券
最優秀賞	2チーム	(大会賞を獲得したチームの中の 上位2チーム，TSK発表会に おける核燃料技術開発部の代表)	7,000円 + α
大会賞		(得点が全配点の80%以上を得 たチーム)	7,000円
奨励賞		(得点が全配点の80%に満たな かったチーム)	5,000円

【効果】

最優秀賞を作ることにより、小集団活動の励みになる。

以上

〔添付資料〕

平成6年度行事案内

月	日・曜	行事名	場 所	募集人員	参加費	担 当 会 社	備 考
④	14・15 (木)(金)	推進者 事務局研修会	いこいの村 酒沼	80名	20,000円	日鉱金属 日立工場 0294 (23) 7171	推進方法で壁にあたっている。 新しい情報を得たい、そんな 時に、この研修会で情報を待 ち構り役立ててください。
	22 (金)	選抜大会	勝田市 文化会館	600名	2,500円	日立製作所 AV機器事業部 0292 (76) 8635	サークルの運営やチームワ ークなど体験談事例を発表する 大会です。
⑤	12・13 (木)(金)	新手法研修会	十王町 鶏の岬	90名	20,000円	日立製作所計測器事業部 0292 (72) 2062	実践に役立つ手法を学びサー クル活動に仕事に生かすこと の出来る研修会です。
	26 (木)	春季大会	土浦市民会館	950名	3,500円	ブリマハム 新東京工場 0298 (42) 1026	製造からサービス部門までの 幅広い業種の参加と発表をと おして、サークル活動の基本 を学ぶ大会です。
6	16・17 (木)(金)	男性リーダー 研修会	いこいの村 酒沼	90名	20,000円	クボタ 筑波工場 0297 (52) 5112	サークル活動の進め方、リー ダー行動学、他社との交流を 深める研修会です。
⑦	7 (木)	夏季大会	勝田市 文化会館	950名	3,500円	日立電線 豊浦工場 0294 (43) 2111	女性のサークル・間接部門の サークルを主体とした大会で す。
	15・16 (金)(土)	部課長研修会	十王町 鶏の岬	70名	22,000円	日立建機 土浦事業本部 0298 (32) 7119	サークルの基本、部課長とし ての指導法を学習する研修会 です。
⑨	8 (木)	躍進大会	石岡市民会館	600名	3,500円	日立製作所 土浦工場 0298 (31) 5111	結成間もないサークルや、導 入直後の会社が今後の飛躍を 目指し発表します。
⑩	6・7 (木)(金)	女性リーダー 研修会	十王町 鶏の岬	90名	20,000円	日立電線 電線工場 0294 (21) 1151	女性のリーダー同士の悩みや、 ノウハウ交換の場として役立 ちます。
	19 (水)	秋季大会	日立市民会館	950名	3,500円	日立エンジニアリング 0294 (24) 1111	一般大会最後の大会です。活 動事例に学んで下さい。
11	10 (木)	工場見学交流会	未 定	90名	7,000円	日立電線 日高工場 0294 (42) 3151	他社の良いところや小集団の 活動内容を把握する絶好の機 会です。
⑫	7 (水)	チャンピオン大会 (20周年記念大会)	勝田市 文化会館	900名	3,500円	NTT 水戸支店 0292 (32) 4051	年間の優秀サークルを一堂に 集めた文字どおりのチャンピ オン大会。

「明るく楽しく元気よく QCサークル活動で未来にチャレンジ」

第3194回
(茨城地区)

QCサークル選抜大会

選抜大会はサークル活動の進め方が学べる発表大会です

■と き：平成6年4月22日(金) 13:00~17:00

■と ころ：勝田市文化会館 (勝田市西町1番1号 0292-75-1122)

■定 員：600名 ■参加費：2,500円



主催：QCサークル関東支部 茨城地区
後援：(社)茨城県経営者協会・QCサークル本部
(財)日本科学技術連盟・勝田商工会議所



参加のおすすめ

本大会は他の大会と異なり、QCサークル活動開始から今日までの運営内容が主に発表されるため、次のようなことを学ぶことができます。

- QCサークル活動の仕組みと進め方
- 体制のきき込み方
- 支援者としてのアドバイス仕方
- 上司としての励まし方や褒め方

また、当茨城地区の本田朝間による「選抜発表事例から学ぶQCサークル活動」と題しての講演を企画しました。発表事例を通して、特に運営の仕方について学べる内容であります。



この機会に多くの方が参加されますようご案内申し上げます。

なお、本大会の代表1サークルが、7月に開催されます「QCサークル関東支部選抜大会」へ出場致します。

発表サークル紹介

大会の録音・録画はご遠慮願います。

発表No.	発表テーマ	会社・事業所	サークル名	見どころ・聞きどころ
1	「一期一芸に挑戦」 入社5年で100%職人になろう	朝日製作所 日立工場	クリスタルグループ	「一人前の職人は十年かかる」が一般常識とされている。これを「入社5年で一人前になろう」をグループテーマとして、全員で取組んだその報告である。
2	フレッシュパワーでSTEPアップ 生産・営業にサービスのかけ橋	べんてる㈱ 茨城工場	STEPサークル	ベテランの後を受けた新人が成長していく中、サークルの合併でフレッシュパワーがさらに高揚。今、生産・営業に喜ばれる工場スタッフをめざし元気に活動中。
3	「仕事に女の知恵を活かし 成長したサークルのあゆみ」	トステム㈱ 下妻工場	フレッシュフェイスサークル	職場環境の変化に伴い、2名のサークルから10名のサークルに統合、和を大切に全員参加の活動で個人個人が成長し、問題を解決した様子。
4	「思いやり・真心」で心の壁を崩し みんなで見つけた 真のサークル活動!!	ブリマハム㈱ 新東京工場	ゼ・レインボーサークル	ベテランとパートさんが一丸となり、みんなが参加出来る身近な問題を解決する前に、チームワークが高まり家庭的な味を伝える事が出来た事例です。

参加のお申込み

参加申込書は本DMの裏面にあります。

■申込み方法

- ・裏面の参加申込書に必要事項を記入し、FAXまたは郵便で、大会事務局までご送付下さい。
 - ・折返し参加券を「申込み選抜者」宛お送りします。
- なお、申込み後参加者の都合により参加できなくなった場合でも、原付として参加費は返却しませんので必ず代理の方の参加をお願いします。

申込み締切日：4月8日(金)

(定員になり次第締切ります)

■参加費振込

参加券到着後、下記指定口座に振込み下さい。
なお、銀行発行の振込金受領書を領収書としてお使い下さい。不都合がある場合はお申し出下さい。

■振込銀行

常陽銀行勝田支店 普通預金口座 №1135819
口座名 QCサークル茨城地区 選抜大会事務局

■大会事務局(参加申込み先)

〒312 勝田市西町1410
朝日製作所 AV機器事業部
総務部教育グループ 佐藤 久典
TEL 0292-73-1111 (内線 2562)
TEL 0292-76-8635 (ダイヤルイン)
FAX 0292-76-8635

プログラム

- 13:00~13:15 受付
- 13:15~13:30 開会挨拶
- 13:30~14:20 発表発表(2件)
- 14:20~14:35 休憩(ふれあいコーナー)
- 14:35~15:25 発表発表(2件)
- 15:25~15:40 休憩(ふれあいコーナー)
- 15:40~15:45 主催者挨拶
- 15:45~16:45 講演
- 16:45~17:55 発表結果発表・表彰
- 17:55~18:00 閉会挨拶

講演

[演題]

「選抜発表事例から学ぶ
QCサークル活動」

身近な発表事例を基にしてQCサークル活動をいかに運営していくかを講師と会場の皆さんが一体となって学べる内容です。

[講師]

本田正次氏

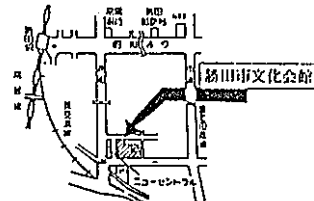
QCサークル長根集委員
QCサークル茨城地区顧問



会場のご案内

[交通案内]

勝田駅下車 徒歩約15分
常磐線 勝田駅 時刻
上り(普通) 11:57 12:20
下り(普通) 11:47 12:06
勝田市文化会館 勝田市西町1番1号
TEL 0292-75-1122



- 本でのご参加はご遠慮願います。
- 発表会は業務の一環と考えております。途中退席のないよう御協力願います。

お楽しみ企画

◆ ふれあいコーナー

発表サークルとの交流の場を設けます。
多くの皆さんとのふれあいを通して、今後のQCサークル活動の活性化にお役立て下さい。

次回開催行事ご案内

1. 行事名 新手法研修会
2. 開催日 平成6年5月12日(木)~13日(金)
3. 場 所 国民宿舎「海の町」(十王町)
4. 参加費 20,000円/人

活動の相談窓口

QCサークル活動の導入及び推進のための相談や講師派遣のための援助を致しますのでご利用下さい。

〈申込先〉 〒304 下妻市大字大木100
トステム㈱ 下妻工場 QC推進室
QCサークル茨城地区事務局 [担当] 中尾・鈴木
TEL 0296-43-5891 FAX 0296-43-9073

QCサークル茨城地区



第17回新手法研修会 開催案内

平成6年度茨城地区：明るく楽しく元気よく QCサークル活動で未来にチャレンジ
活動テーマ
と き：平成6年5月12日(木)～5月13日(金)
と ころ：国民宿舎「鶴の岬」：カントリープラザ鶴の岬ホール



主催：QCサークル関東支部茨城地区
後援：(社)茨城県経営者協会
QCサークル本部
(財)日本科学技術連盟

参加のすすめ

従来のサークル活動は、顕在化している問題の再発防止を主に取り上げていました。ところが、最近顕在的な問題をも先取りし、未然に防ぐという「攻め」の活動が必要となってきました。しかもサークルの取組も問題は、必ずしも数値化できるとは限らないためQC7つ道具だけで問題解決を図ることが難しい状況になっています。このような状況を踏まえ本研修は、現場の問題解決に直接する計画法を新手法研修として、下記の通り開催するものです。

〈研修内容〉

- (1)「PDCAの基本」及び「現場の場所作り」について
- (2)問題把握のための——— 根 拠 図 法
- (3)原因追究のための——— 特 性 要 因 図
- (4)最善手段追求のための——— 系 統 図 法
- (5)問題点明確化のための多角的思考法—マトリックス図法

QCサークル活動はもとより、日常業務でも役立つ手法を身につけることができるため、サークルのアドバイザー、推進者、事務局担当者、サークルリーダーの方々には必須の研修内容となっています。また、女性の積極的な参加を歓迎します。

——— 対象者は、次の要件を満たす方とします ———

小企業活動に関する経験が2年以上であること。



申し込み方法

参加費用

- ・参加費：1名20,000円(宿泊・食費代を含む)
- ・定 員：90名(定員に限り次第締めさせていただきます)
- ・申込締め：平成6年4月12日(木)

【申込後、参加者の都合により参加できなくなった場合でも、原則として参加費はいただきませんので必ず代理の方の参加をお願いします。】

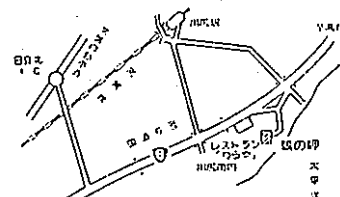
申込み先・問合せ先

QCサークル新手法研修会事務局
〒312 葛岡市市毛 882
㈱日立製作所 計測器事業部
F1 推進センタ 篠岡 英夫
TEL (0292) 72-2062
FAX (0292) 73-8080

・参加費は申込み受付後に銀行振込をしていただきます。

会場案内

場 所：国民宿舎「鶴の岬」
所在地：多賀郡十王町大字伊師浜640
TEL：(0293) 32-2202



※マイクロバス送迎の御案内
常磐線 川尻駅到着時間
上り 8:55 下り 9:01
・京浜川尻駅前の「鶴の岬」にマイクロバスをご利用ください。

プログラム

日	第1日 5月12日(木)
9:30	受付(9:00～9:25)
10	開会・オリエンテーション
11	N7とは・日頃の息味論
12	特性要因図講義
13	昼 食
14	根拠図法講義
15	グループ討議 ①
16	夕 食・休息
17	討議 ① の発表
18	部屋別自由懇談

日	第2日 5月13日(金)
8	朝の集い(体操)・朝食
9	系統図法・マトリックス図法講義
10	グループ討議 ②
11	昼 食
12	討議 ② の発表
13	研修のまとめ(全体討議)
14	修了式・閉会

討論テーマ

- (1)高い高い改善提案活動を推進するには。
- (2)推進者として効果的にサークル活動を推進するには。
- (3)全員参加のサークル活動を推進するには。
- (4)楽しくやりがいのあるサークル活動を推進するには。
- (5)余暇を有意義に過ごすためには。

次回地区行事案内

春季大会

期日：5月26日(日)
場所：土浦市民会館
参加費：3,500円

活動の相談窓口

QCサークル活動の導入及び推進のための相談や研修会等の実施をいたしますのでご利用ください。
(相談窓口)
〒304 下妻市大字本 100
システム部 下妻工場
QCサークル茨城地区事務局
TEL (0296) 43-5891

第17回 新手法研修会参加申込書 (QCサークル茨城地区主催)

申込み連絡者	所在地	〒	会社・工場名		会 員 名		
			所属・役職名	TEL	氏名	TEL	
参加者	氏 名	所 属	※1	※2	※3	※4	※5
	氏 名	所 属	11月テーマ	1.参加費・研修料をグループ員	2.参加費・研修料をグループ員	3.参加費・研修料をグループ員	4.参加費・研修料をグループ員
	氏 名	所 属	(1) (2) (3) (4) (5)	(1) (2) (3) (4) (5)	(1) (2) (3) (4) (5)	(1) (2) (3) (4) (5)	(1) (2) (3) (4) (5)
	氏 名	所 属	(1) (2) (3) (4) (5)	(1) (2) (3) (4) (5)	(1) (2) (3) (4) (5)	(1) (2) (3) (4) (5)	(1) (2) (3) (4) (5)
	氏 名	所 属	(1) (2) (3) (4) (5)	(1) (2) (3) (4) (5)	(1) (2) (3) (4) (5)	(1) (2) (3) (4) (5)	(1) (2) (3) (4) (5)

- ※1 プログラム表内欄にある討論テーマは第1希望に○印、第2希望に△印を記号つけて下さい。
- ※2 該当する欄を記入してください。
- ※3 該当する欄を○印をつけてください。もし該当する欄がない場合は無印で結構です。
- ※4 小項目活動に関する経験年数を記入してください。
- ※5 交通機関はどちらか一方に○印をつけてください。

(12)NSKサークル活動月報及び
QC活動計画・報告書様式

[月報フォーマット]

サークル活動月報

平成 年 月分

室		
提出年月日	平成 5年	月 日

活動テーマ	リーダー名	会合日	時間	人数
メンバー名			hr	人
全体スケジュール	予定：----- 実施：——		hr	人
1.			hr	人
2.			hr	人
3.			hr	人
4.			hr	人
5.			hr	人
6.			hr	人
日程(月)			hr	人
		合計	hr	人

前月迄の活動状況

今月の活動状況及び活動に関する問題点等

(活動に関する当月ワーク量： 人・hr)

来月の活動予定

支援者のアドバイス及び支援内容

管理者のアドバイス

リーダー → 支援者 → 管理者 → 推進者 → NSK事務局
 (注1)

別添： 有・無

注1：原紙はリーダーへ返却 (要保存)

	サークル活動月報	(月報記入要領)
平成 5 年 月 分		室
		提出年月日 平成 5 年 月 日

<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:30%;">活動テーマ</td> <td style="width:20%;">リーダー名</td> <td style="width:50%;"></td> </tr> <tr> <td>メンバー名</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>全体スケジュール</td> <td style="text-align: center;">予定：…… 実施：——</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現状把握、要因 2. 解析等、従来の 3. 方法にとらわれ 4. ず、項目を設定 5. して下さい。 6. </td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;"> 自由に分割を変更してもOK ↓ </td> <td style="vertical-align: top;"> 会合日と会合に費やした時間 及び参加人数を記入して下さい。 自由に変更してもOK ↓ </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">日 程 (月)</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table>	活動テーマ	リーダー名		メンバー名			全体スケジュール	予定：…… 実施：——		<ol style="list-style-type: none"> 1. 現状把握、要因 2. 解析等、従来の 3. 方法にとらわれ 4. ず、項目を設定 5. して下さい。 6. 	自由に分割を変更してもOK ↓	会合日と会合に費やした時間 及び参加人数を記入して下さい。 自由に変更してもOK ↓	日 程 (月)			<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>会合日</th> <th>時間</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td>hr</td><td>人</td></tr> <tr><td> </td><td>hr</td><td>人</td></tr> <tr><td> </td><td>hr</td><td>人</td></tr> <tr><td> </td><td>hr</td><td>人</td></tr> <tr><td> </td><td>hr</td><td>人</td></tr> <tr><td> </td><td>hr</td><td>人</td></tr> <tr><td> </td><td>hr</td><td>人</td></tr> <tr><td> </td><td>hr</td><td>人</td></tr> <tr><td> </td><td>hr</td><td>人</td></tr> <tr><td> </td><td>hr</td><td>人</td></tr> <tr> <td>合計</td> <td>hr</td> <td>人</td> </tr> </tbody> </table>	会合日	時間	人数		hr	人		hr	人		hr	人		hr	人		hr	人		hr	人		hr	人		hr	人		hr	人		hr	人	合計	hr	人
活動テーマ	リーダー名																																																			
メンバー名																																																				
全体スケジュール	予定：…… 実施：——																																																			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 現状把握、要因 2. 解析等、従来の 3. 方法にとらわれ 4. ず、項目を設定 5. して下さい。 6. 	自由に分割を変更してもOK ↓	会合日と会合に費やした時間 及び参加人数を記入して下さい。 自由に変更してもOK ↓																																																		
日 程 (月)																																																				
会合日	時間	人数																																																		
	hr	人																																																		
	hr	人																																																		
	hr	人																																																		
	hr	人																																																		
	hr	人																																																		
	hr	人																																																		
	hr	人																																																		
	hr	人																																																		
	hr	人																																																		
	hr	人																																																		
合計	hr	人																																																		

前月迄の活動状況	先月の活動を簡単に（下記の内容が分かりやすいように）	当該月の会合時間の合計を記入して下さい。	当該月の会合出席者の合計を記入して下さい。
----------	----------------------------	----------------------	-----------------------

今月の活動状況及び活動に関する問題点等	会合以外にサークル活動に費やした時間のおおよその合計（当該月の）を記入して下さい。 （役割分担当により、会合以外の場で活動した仕事量を把握するため） 人数×時間 （活動に関する当月ワーク量： 人・hr）
---------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

来月の活動予定	
---------	--

支援者のアドバイス及び支援内容	
-----------------	--

管理者のアドバイス	
-----------	--

リーダ → 支援者 → 管理者 → 推進者 → NSK事務局
 (注1) (写し保管)

別添： 有・無

注1：原紙はリーダーへ返却（要保存）

QC活動計画・報告書		核燃料技術開発部 室 Gr		
		提出年月日	室長	主査
サークル名		計画書 H 年 月 日		
リーダー名		報告書 H 年 月 日		
メンバー名	活動テーマ			
		目標(値)		
テーマ 選 定 理 由	(1) 現状(問題点)		
	(2) 期待される成果		
目標の 設定理由			
スケジュール	予定: 実施:			
項目			
活動に対するコメント: 支援者			
活動に対するコメント: 管理者			

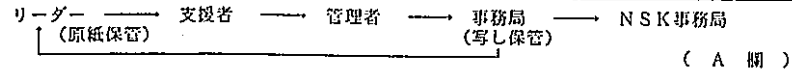
リーダー → 支援者 → 管理者 → 事務局 → NSK事務局
 (原紙保管) (写し保管) (A欄)

① 活動内容
② 活動の成果
③ 反省・今後の進め方

原紙: A3版

別添(有 枚・無)
(B欄)

QC活動計画書 - 事後評価用		核燃料技術開発部 室 Gr		
サークル名	計画書	提出年月日	室長	主査
リーダー名	報告書	H年 月 日		
メンバー名	活動テーマ			
	目標(値)			
テーマ選理由	(1) 現状(問題点)			
	(2) 期待される成果			
目標の設定理由				
スケジュール	予定: 実施: _____			
項目				
活動に対するコメント: 支援者				
活動に対するコメント: 管理者				



① 活動内容	
② 活動の成果	<p>1. 計画書の書き方</p> <p>(1) 目標(値) 従来の目標値と言うように定量的表現でなくてもOK</p> <p>(2) テーマ選定理由 業務改善や性能向上等従来のQC的テーマ選定理由でなくてもOK</p> <p>(3) 目標の設定理由 従来の様に、目標値に対する設定理由を示す必要はありません。</p> <p>(4) スケジュール 従来の様に、テーマ選定・現状把握・要因解析・対策実施・効果の確認・歯止め等QCストーリーに準ずる必要は無い。(従来通りでダメと言うわけではない) 自由に項目を設定し、作成して下さい。</p> <p>2. 報告書の書き方</p> <p>(1) 活動内容 活動の経過や、方法又は苦勞したこと、努力した点等を自由に書いて下さい。</p> <p>(2) 活動の成果 上記に示した活動によって、どのような成果が得られたか(定量的評価をする必要は無い)を書いて下さい。</p> <p>(3) 反省・今後の進め方 活動に対する反省や今後の活動の進め方を書いて下さい</p> <p>QCストーリーにて活動を展開される場合、前年度の書式でも結構です。 また、上記項目が含まれていれば、書式にこだわる必要はありません。</p>
③ 反省・今後の進	

別添(有 枚・無)
(B 欄)

(13) その他

平成5年5月20日

NSK推進部会

平成5年度TSKスローガン応募結果について

1. 応募総数 76件

2. 優秀作品候補

1	Pu開室	影山十三男	ひとり ひとりが集まって 意識の改善・意見の集約 生き生き職場のTSK
2	Pu開室	小嶋 素志	皆で見つけた新テーマ 団結固めて 目指すは未来 あなたが進めるTSK
3	Pu開室	井坂 和彦	まずやる気 そしてチャレンジ TSK しなやか思考で 生き生き職場
4	新濃縮室	渡辺由紀子	やる気が生み出す 生き生き職場 あなたとわたしのQC活動
5	新濃縮室	鈴木 美寿	小さな議論も山となり 皆で作ろう議論の輪 全員参加の 小集団
6	新濃縮室	山口 大美	みんなの参加と行動で 進めよう 意識の改革 高めよう TSK!!
7	新濃縮室	沖本 龍壮	小集団は一人ひとりの「熱意」と「工夫」 失敗恐れず・楽しく元気に
8	新濃縮室	島崎 善広	知恵と工夫と人の輪で 生き生き職場を創り出せ 確かな手ごたえTSK
9	新濃縮室	会沢 正則	新たな発想と創造力で 育てよう あなたの職場の QCサークル
10	新濃縮室	川越 浩	自由な発想 楽しく行うTSK みんなの工夫と努力で盛り上げよう
11	新濃縮室	萩原 正義	「駄目だ!」「無理だ!」と決めつけず 興味を持ったなら チャレンジ第一 みんなで作る 生き生き職場
12	先端室	石黒 敏明	みんなの意見を結集し、めざせ楽しいTSK みんなで築け明るい職場!
13	先端室	桜井 孝二	一人一人の意見から 大きく育てよう 活動の芽 いつも生き生き 小集団活動
14	先端室	東 侍郎	ひとりのやる気から みんなのやる気へ みんなで作るチャレンジTSK
15	転換室	小笠原誠洋	失敗を恐れずチャレンジ小集団 はつらつ発言 大きな成果
16	遠心法室	青柳 義孝	皆の顔から持続の力 笑顔の中から新たな力 さあ進もう そして跳べ より高く

平成6年3月9日
核燃料技術開発部
NSK推進部会

小集団活動関係外部講習会等参加者
(平成5年度)

講習会等名称	実施日	参加者	
日 科 技 連	信頼性 基礎コース	H.6 1/25～1/28	関 (プル開室)
	実験計画法 入門コース	H.5 6/28～7/1 7/21～7/24	西山 (プル開室)
	〃	H.6 2/1～2/4 2/28～3/3	木原 (転換室)
	多変量解析法 基礎コース	H.5 7/5～7/8	宮本 (プル開室)
	QCサークル 推進者コース	H.5 9/9～9/11 10/4～10/6	菊地 (遠心法室)
	QCサークル リーダーコース	H.5 4/5～4/7	久須美 (遠心法室)
	〃	H.5 5/12～5/14	加藤 (転換室)
	〃	H.5 6/28～7/1	東 (先端室)
	〃	H.5 10/13～10/15	影山 (プル開室)
	〃	H.5 8/4～8/6	鈴木 (新濃縮室)
品質管理 ベーシックコース	H.5 10/18～10/22	岡田 (転換室)	
ダブ イレ ナ ー ミ ン ク ス	リーダー活性化コース	H.5 5/24～5/27	野上 (プル開室)
	第一線支援者活性化コース	H.5 9/7～9/10	田代 (新濃縮室)
	〃	H.5 11/15～11/18	氏本 (プル開室)
	〃	H.5 11/15～11/18	田中 (転換室)
QCサークル茨城地区春季大会 (於土浦)	H.5 5/28	石井 (新濃縮室)	
QCサークル茨城地区秋季大会 (於勝田)	H.5 10/22	亀田 (新濃縮室) 笹嶋 (プル開室)	